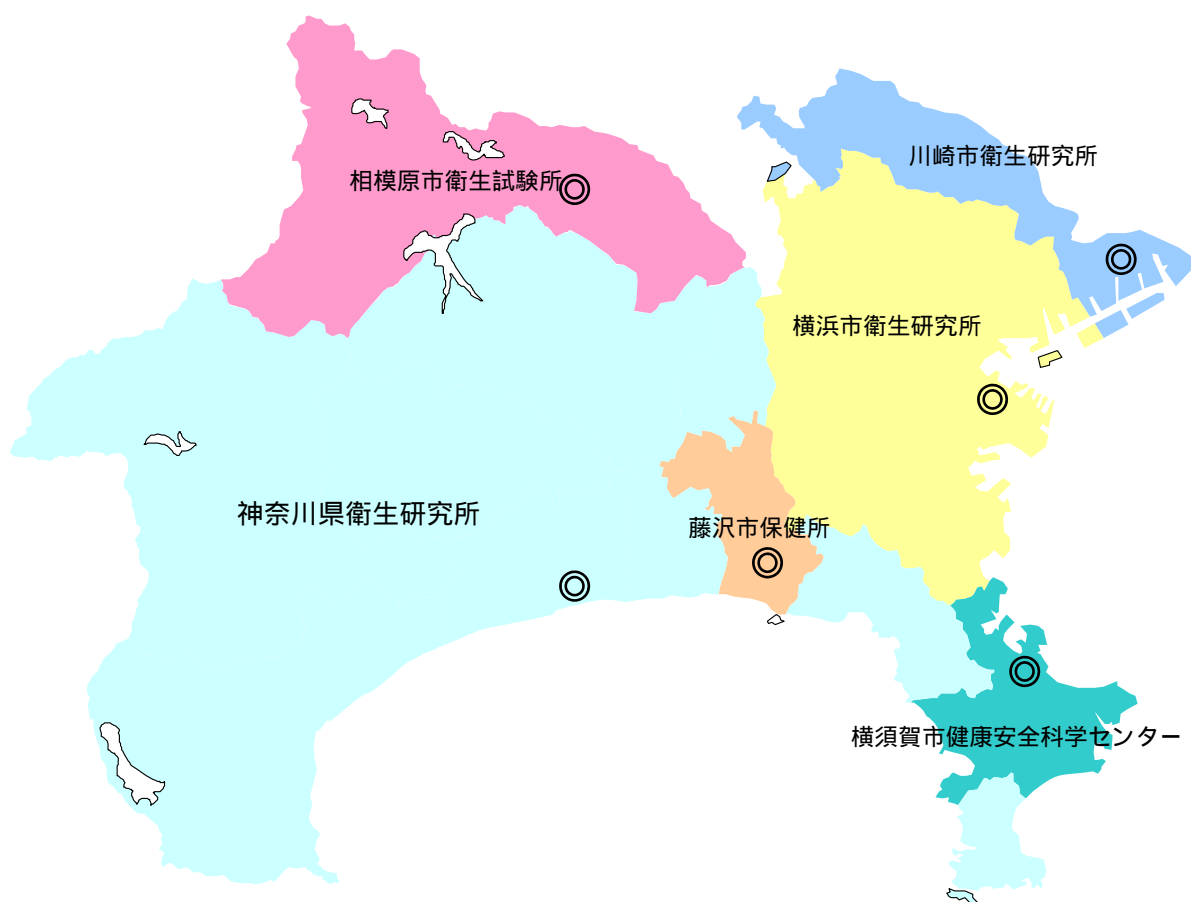


平成 22 年

神奈川県感染症

- PART 平成 22 年神奈川県感染症発生動向調査の概要
PART 平成 22 年地域における感染症発生状況の概要



神奈川県衛生研究所

神奈川県衛生研究所

はじめに

新型インフルエンザ(A/H1N1)をはじめ、国際的な交流の増加に伴って警戒される、デング熱、マラリアなどの蚊を媒介とする感染症や薬剤耐性菌の問題、新しく発生が危惧される感染症への対応、バイオテロ対策など、近年、感染症への健康危機管理体制の充実が、より一層求められています。

神奈川県衛生研究所では、こうした状況のなかで感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページやパンフレット等による情報発信や研修など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報、関連調査及び研究報告等を、感染症発生動向調査の概要を中心としたPART Ⅰ、地域における感染症発生状況の概要を中心としたPART Ⅱに分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

最後に、『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

神奈川県衛生研究所長

玉 井 拙 夫

目 次

< PART > 平成 22 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	1
2 定点把握の対象疾患	
(1) 定点	4
(2) 週報対象疾患	5
(3) 月報対象疾患	14
3 トピックス	
< 神奈川県の HIV/エイズの概要 >	18
【資料】	
資料 1 平成 22 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	19

< PART > 平成 22 年地域における感染症発生状況の概要

病原微生物検出状況（資料編）

1 ウイルス検出概況	20
2 病原細菌検出概況	21
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	22
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）	33

地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症	
(1) インフルエンザ	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の インフルエンザの動向（神奈川県衛生研究所）	38
横浜市のインフルエンザの動向（横浜市衛生研究所）	39
川崎市のインフルエンザの動向（川崎市衛生研究所）	44
インフルエンザ感受性調査（神奈川県衛生研究所）	46
(2) HIV/エイズ	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況（神奈川県衛生研究所）	48
藤沢市における HIV 即日検査の実施状況（藤沢市保健所）	51
(3) ウイルス性感染性胃腸炎	
(3) -1	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者 からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	52

(3) -2

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の ウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	54
横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	55
川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市衛生研究所）	59
相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生試験所）	59
横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	59
藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	60
(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱	
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検出状況	61
川崎市の検出状況	61
(5) ウエストナイル熱	
横浜市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	62
川崎市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス（川崎市衛生研究所）	63
横須賀市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス（横須賀市健康安全科学センター）	64
(6) その他のウイルス性感染症	
神奈川県の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	65
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	65
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 風疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	66

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の チフス菌等のフェージ型別結果（神奈川県衛生研究所）	67
横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果（横浜市衛生研究所）	67
川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果（川崎市衛生研究所）	67

(2) 細菌性腸管系感染症

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 腸管出血性大腸菌の分離状況（神奈川県衛生研究所）	68
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 赤痢菌およびコレラ菌の検出状況（神奈川県衛生研究所）	68
神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 散発下痢症患者からの病原菌検出状況（神奈川県衛生研究所）	69
川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況（川崎市衛生研究所）	70
相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索） （相模原市衛生試験所）	71

	横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況（横須賀市健康安全科学センター）	71
	藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況（藤沢市保健所）	72
(3)	河川等の環境調査	
	川崎市の河川等の環境調査(川崎市衛生研究所)	73
(4)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
	A群溶血レンサ球菌の分離およびT型別成績(神奈川県衛生研究所)	74
	川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(川崎市衛生研究所)	75
(5)	結核の検査	
	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の	
	QFT検査結果（神奈川県衛生研究所）	76
	横須賀市におけるQFT検査成績（横須賀市健康安全科学センター）	77
(6)	百日咳の検査	
	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の百日咳検査成績 （神奈川県衛生研究所）	77
3	その他の感染症	
(1)	つつが虫病	
	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生した	
	つつが虫病（神奈川県衛生研究所）	78
	【参考資料】 予防接種実施状況	79
	感染症関係機関	80

< PART > 平成 22 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 23 年 3 月)

感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

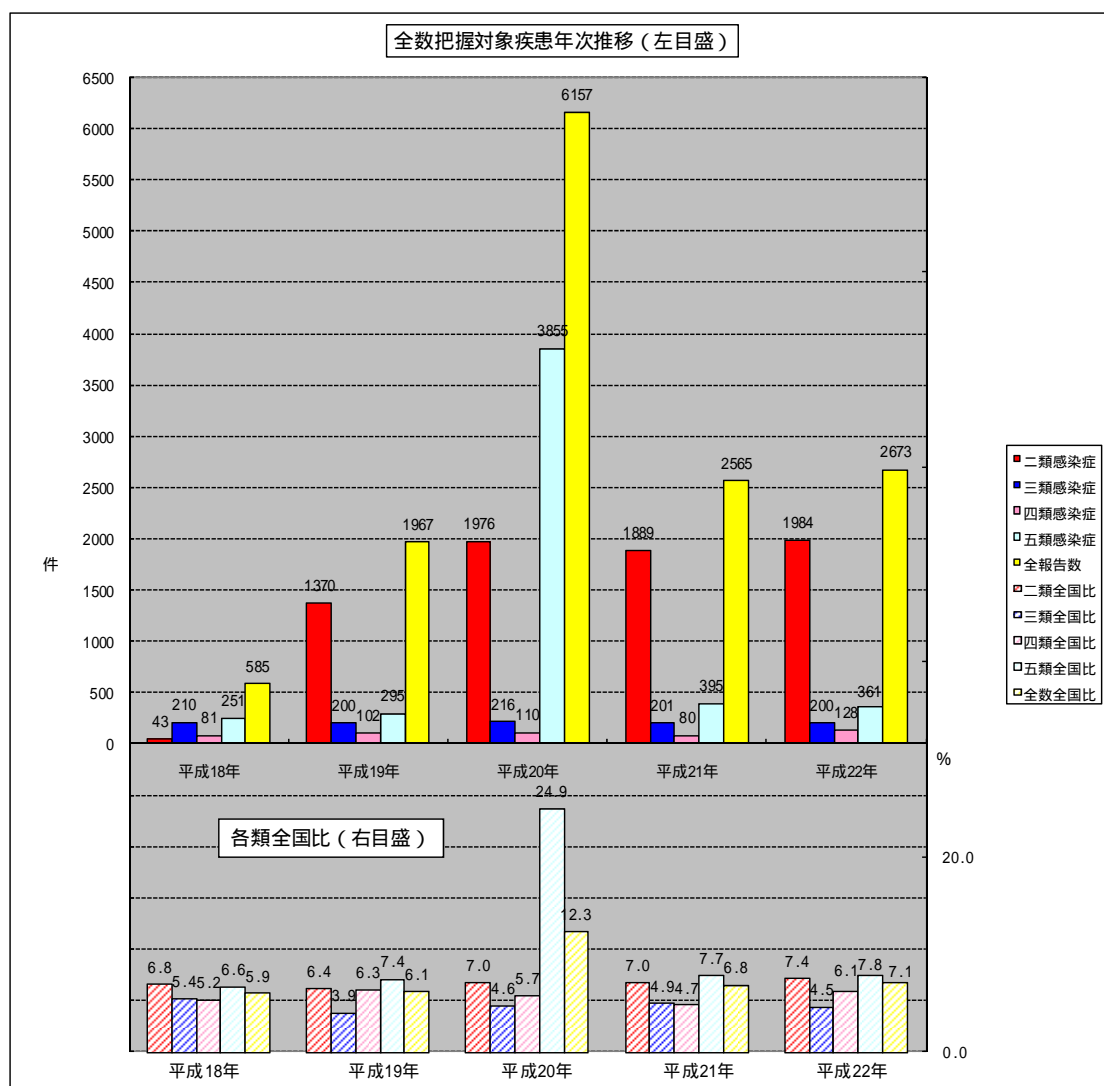
1 全数把握対象疾患

平成 22 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、2673 件と前年より 108 件増加した。(新型インフルエンザ(A/H1N1)は除く)

類別では、二類感染症 1984 件、三類感染症 200 件、四類感染症 128 件、五類感染症 361 件であった。平成 22 年報告総数の全国に占める割合は、前年から増加し 7.1%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 7.8%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 22 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

ワクチン株による急性灰白髄炎の報告が1例あった。

結核 1983 件であり、平成 21 年よりも増加した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも1件減少して200件であった。腸管出血性大腸菌感染症は169件で前年よりも4件減少した。

表1 三類感染症報告数

(件)

疾患名	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年							
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(神奈川県を除く)	全国
13 コレラ	5		3	3								10
14 細菌性赤痢	27	21	29	19	22	9	2	2	1	1	7	235
15 腸管出血性大腸菌感染症	210	175	173	173	169	75	33	13	9	9	30	4131
16 腸チフス	10	1	7	3	6	3	1	1			1	32
17 パラチフス	1	3	4	3	3	2			1			21
合計	253	200	216	201	200	89	36	16	11	10	38	4429

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

9疾患の報告があり、報告数は前年よりも48件増加して128件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で55件、続いて、A型肝炎28件、つつが虫病21件であった。

表2 四類感染症報告数(件)

(件)

疾患名	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年							
	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	(横浜市)	(川崎市)	(相模原市)	(横須賀市)	(藤沢市)	(神奈川県を除く)	全国
18 E型肝炎	8	3	1	2	1					1		66
20 A型肝炎	13	12	17	7	28	9	10	1		1	7	346
21 エキノコックス症					1						1	17
23 オウム病	2	4	1	1								11
28 狂犬病	1											
35 つつが虫病	15	27	12	22	21			1			20	406
36 デング熱	7	9	9	6	14	6	5				3	245
40 日本紅斑熱			1									133
50 マラリア	9	3	8	3	6	3		1			2	76
52 ライム病	1		1	1	1						1	13
55 類鼻疽					1						1	4
56 レジオネラ症	25	43	58	37	55	28	14	2	2		9	751
57 レプトスピラ症		1	2	1								20
合計	81	102	110	80	128	46	29	5	2	2	44	2099

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
擬似症・無症状病原体保有者を含む
全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上

《五類感染症》

13 疾患の報告があり、報告数は 361 件であった。最も報告の多かった疾患がアメーバ赤痢で 81 件であった。続いて麻しんが 79 件、後天性免疫不全症候群が 78 件であった。

表 3 五類感染症報告数

(件)

疾患名	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈川 県(左 を除く)	
59 アメーバ赤痢	80	81	80	69	81	37	14	8	3	7	12	845
60 ウイルス性肝炎	14	15	10	16	13	2	6	1		1	3	222
61 急性脳炎	4	5	7	27	12	8	2				2	241
62 クリプトスポリジウム症	2	1										16
63 クロイツフェルト・ヤコブ病	10	9	14	10	9	3	3				3	171
64 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	11	4	8	12	9	2		1			127
65 後天性免疫不全症候群	83	93	90	81	78	46	16	4	1	2	9	1549
66 ジアルジア症	10	8	10	7	10	6		1		1	2	80
67 髄膜炎菌性髄膜炎	3	1		1	1	1						7
69 梅毒	22	48	32	34	33	13	10	3		1	6	621
70 破傷風	7	6	7	4	3	1	1	1				106
72 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	11	17	9	29	22	9	1	1		7	4	121
73 風しん			34	13	8	3	3			1	1	89
74 麻しん			3558	97	79	32	9	15	1	4	18	455
合計	251	295	3855	396	361	170	67	34	6	24	60	4650

件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
擬似症・無症状病原体保有者を含む
全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上
平成20年1月より風しん、麻しんが追加された。

2 定点把握の対象疾患

(1) 定点

定点把握の対象疾患の情報は、予め指定した医療機関から報告され、その医療機関のことを定点という。定点の数は人口に応じて決められている。定点は5種類あり、報告する疾患が分かれている。神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	145	54	23	338
小児科定点	73	88	33	15	209
眼科定点	16	18	7	4	45
STD(性感染症)定点	23	26	7	5	61
基幹定点	5	3	2	1	11

インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

小児科定点

対象疾患名： RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

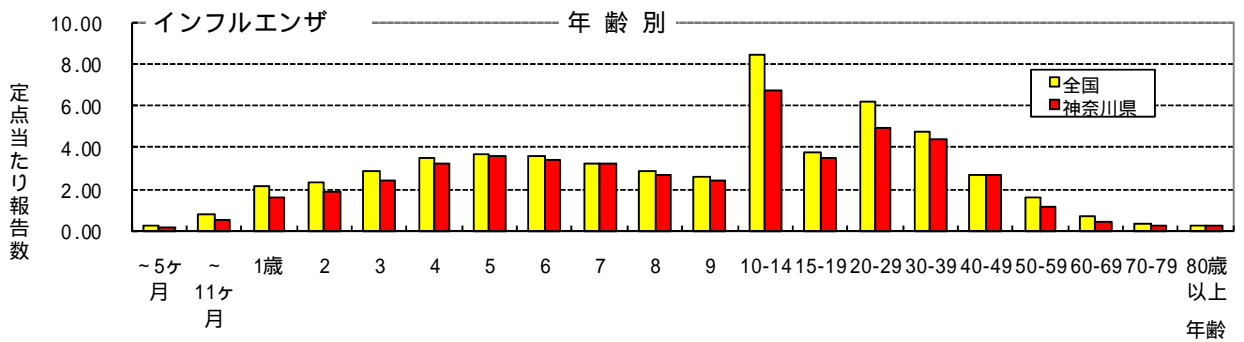
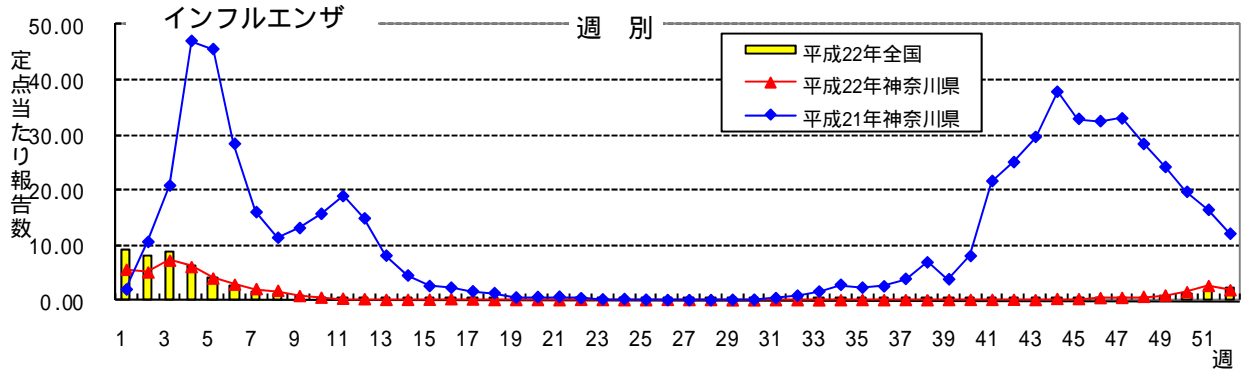
STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患(神奈川県全県)

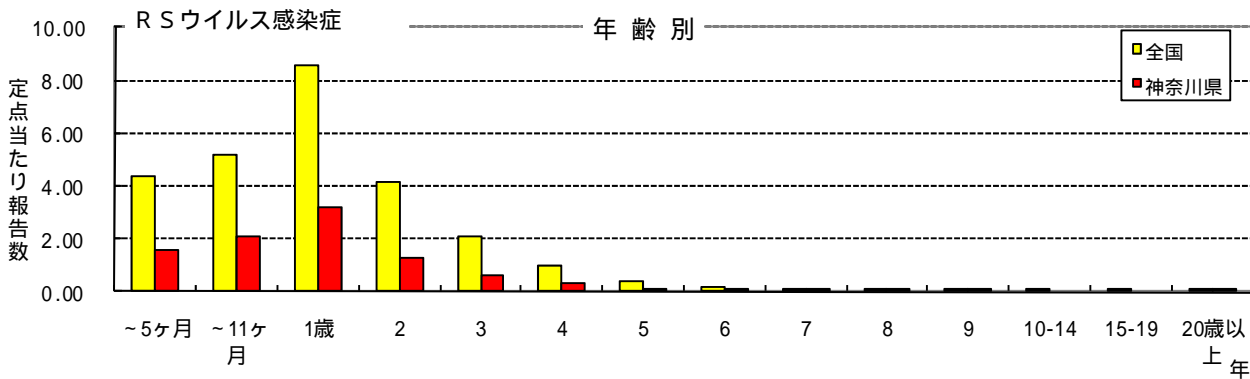
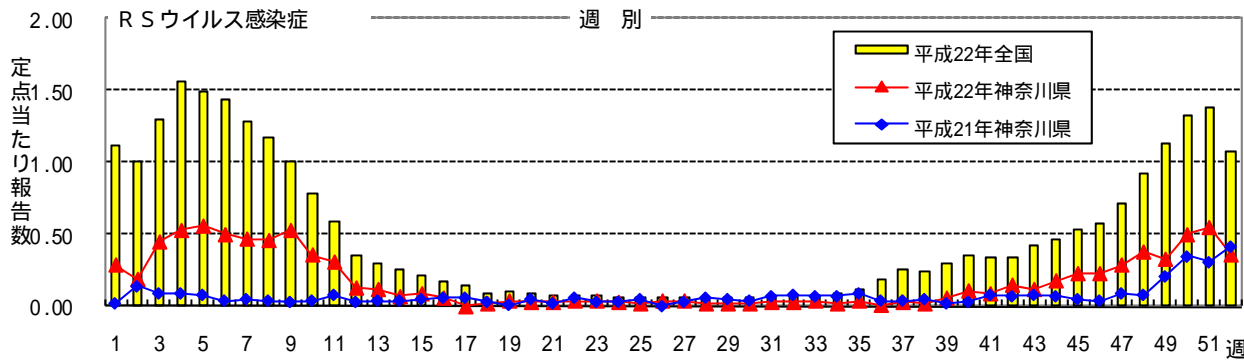
インフルエンザ

1年を通じて、明らかな報告数の増加は見られなかった。年齢別では、10~14歳に報告が多かった。



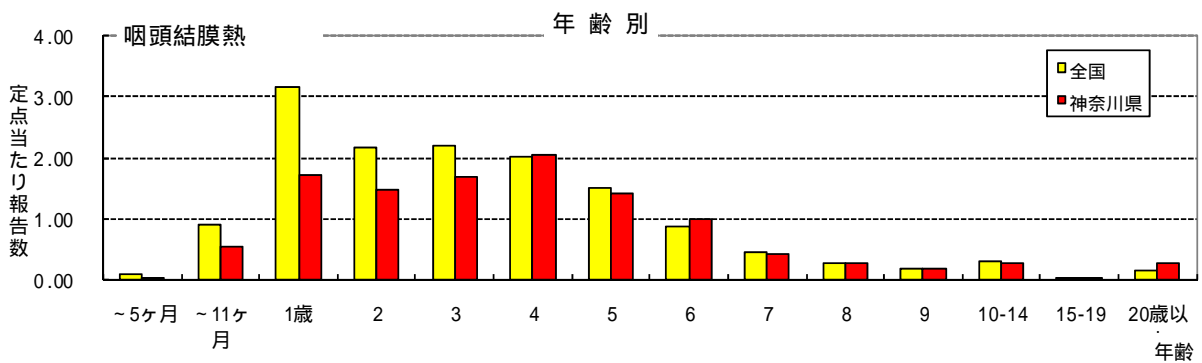
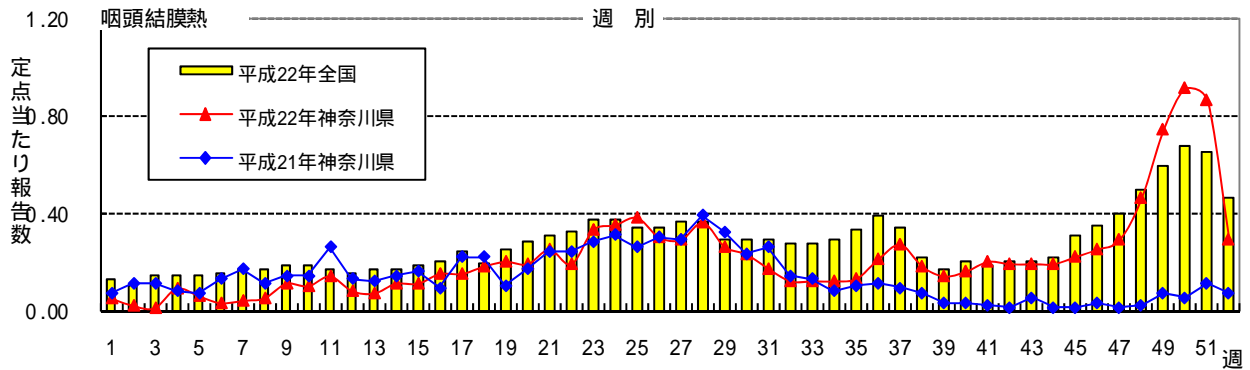
RSウイルス感染症

冬期に報告数の増加がみられた。年齢別では1歳以下に報告が多かった。



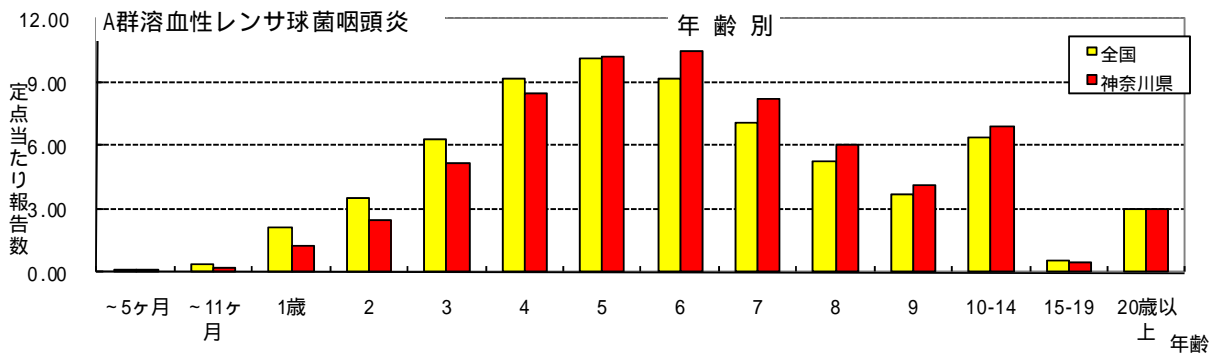
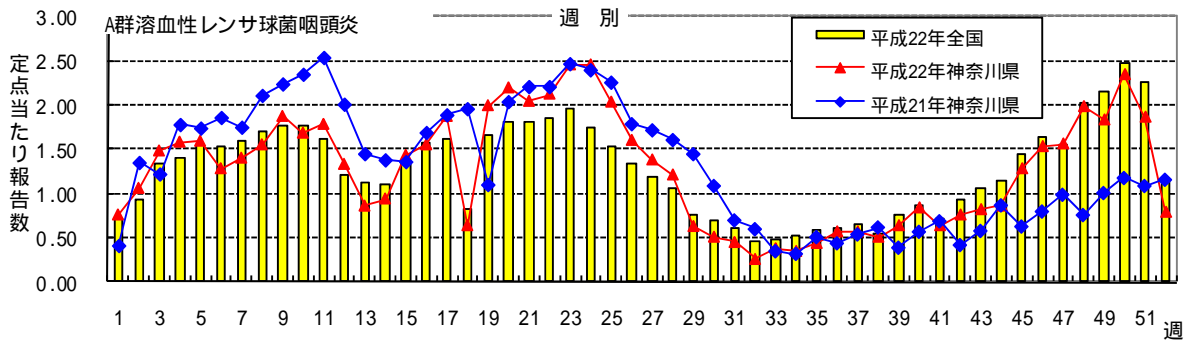
咽頭結膜熱

第44週以降に報告数の増加がみられた。年齢別では、1～5歳を中心に報告が多かった。



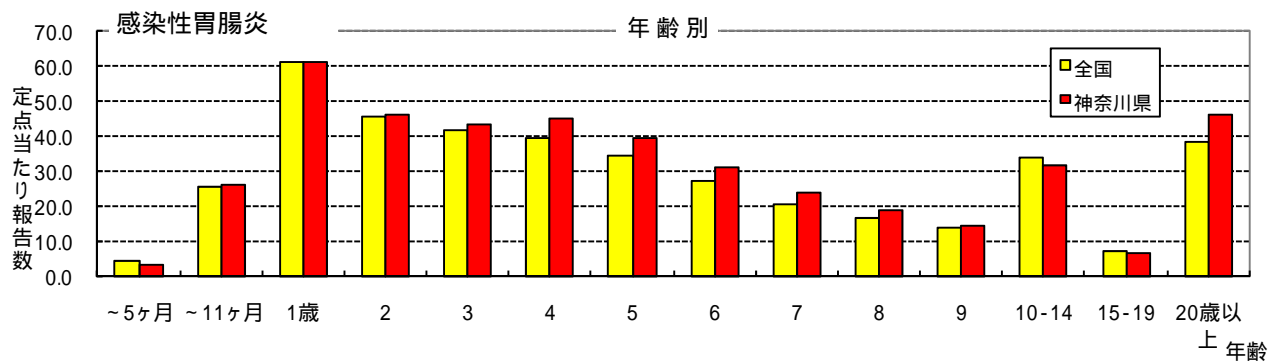
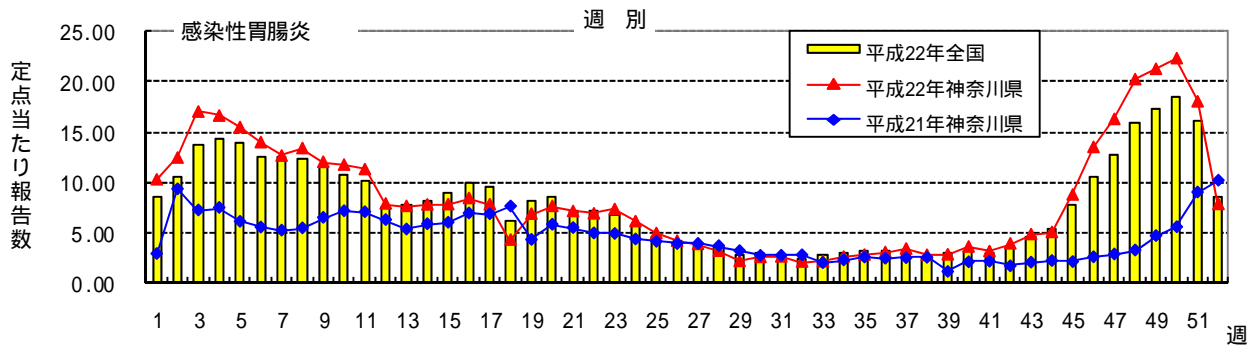
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

冬～春、初夏、に報告数の増加がみられ、年齢別では5～6歳を中心に報告が多かった。



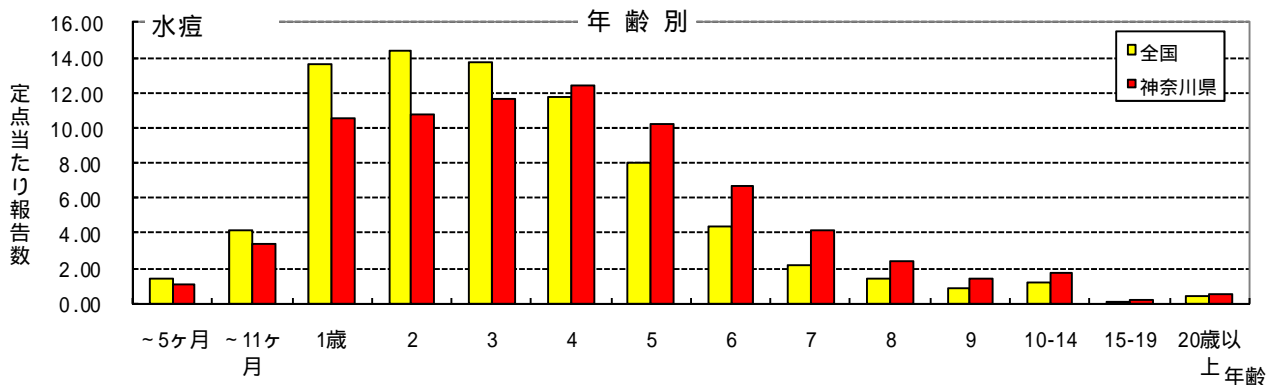
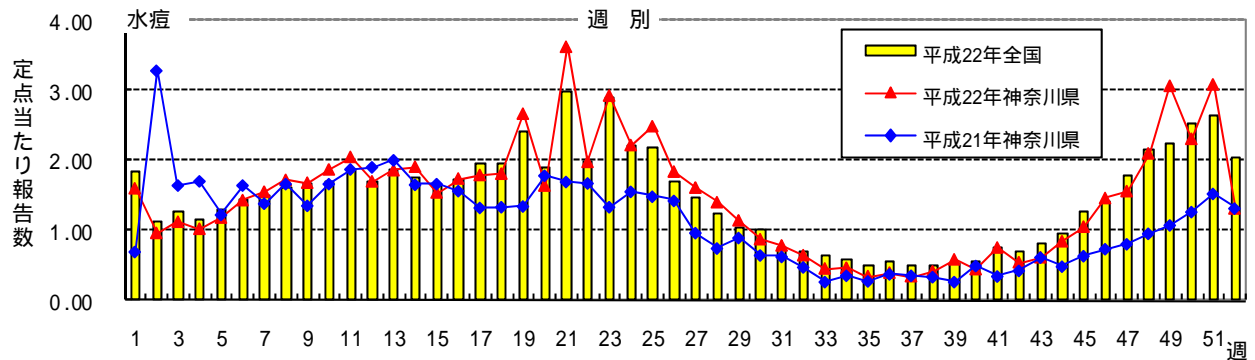
感染性胃腸炎

第3週、第50週にピークがみられた。年齢別では、1歳に報告が多かった。



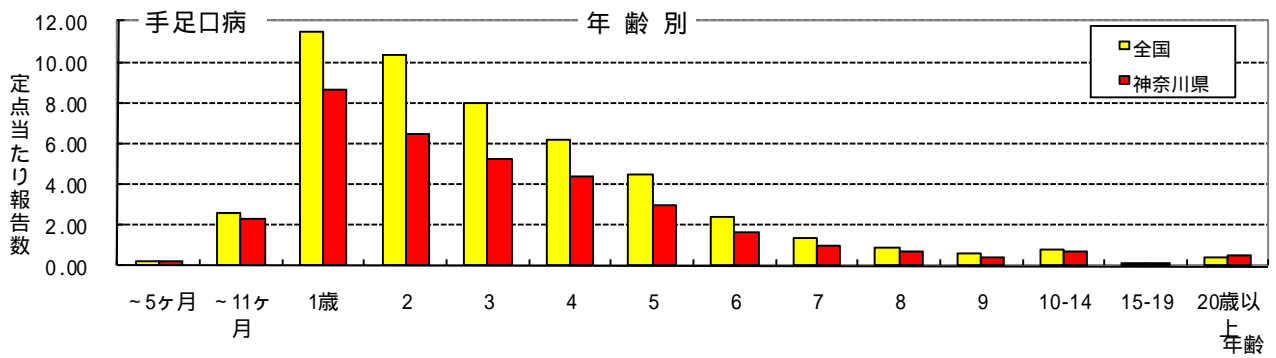
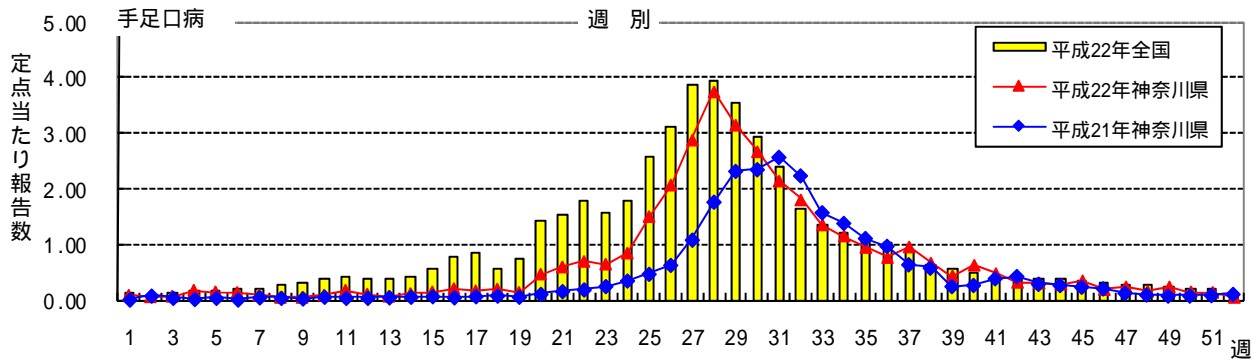
水痘

8~10月には報告数が減少し、年齢別では1~5歳を中心に報告が多かった。



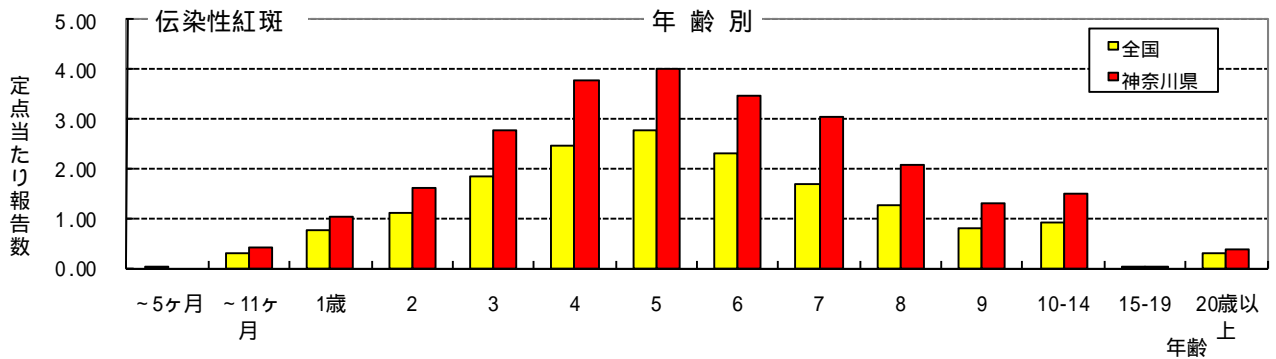
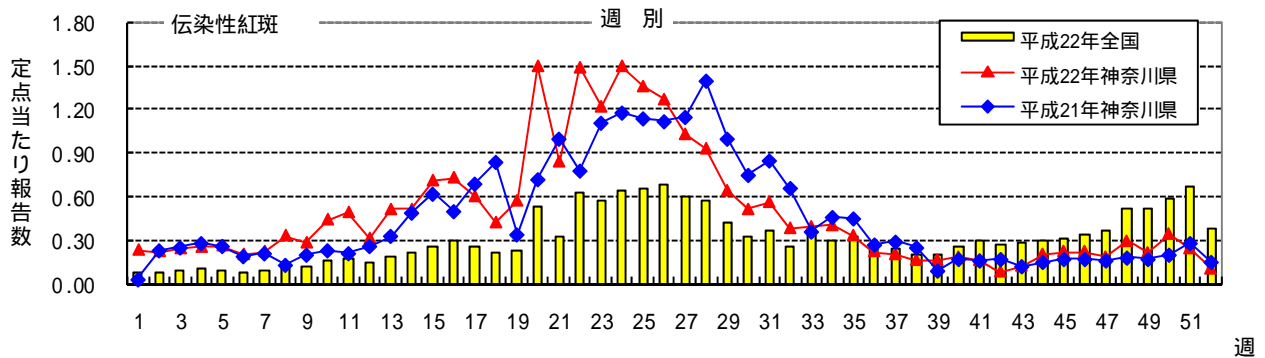
手足口病

第28週にピークがみられた。年齢別では、1歳を中心に報告が多かった。



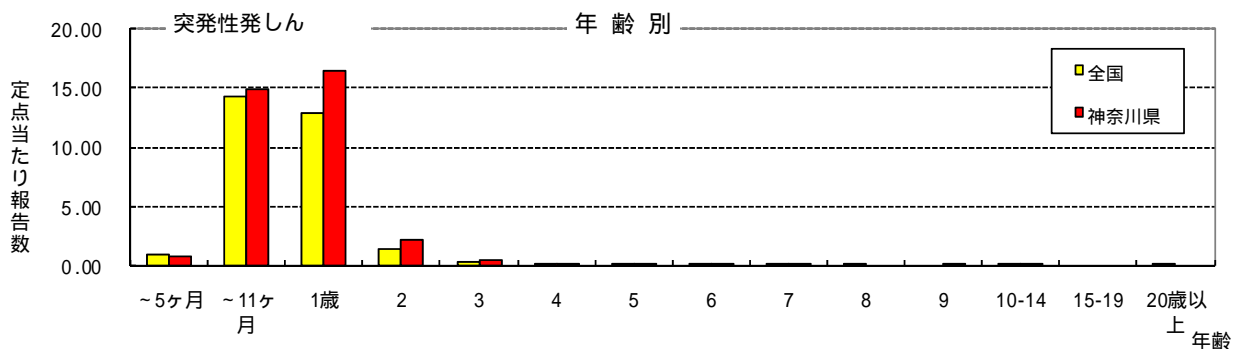
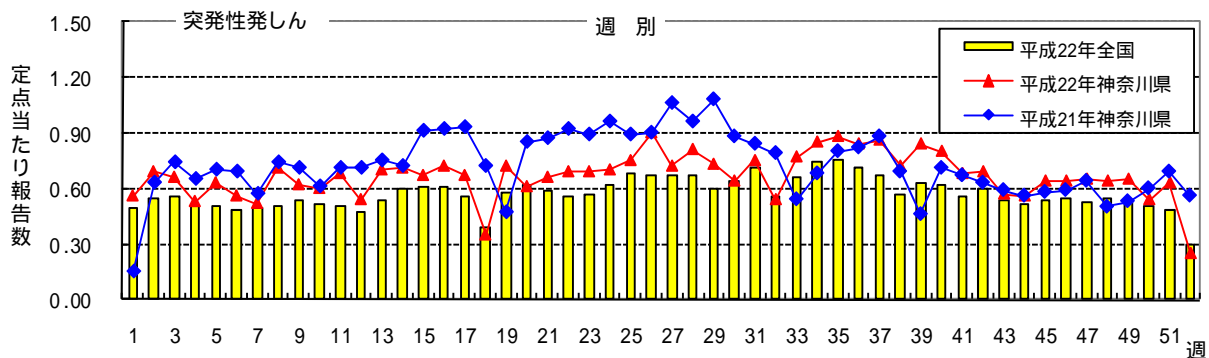
伝染性紅斑

第20週、第22週、第24週にピークがみられた。年齢別では、4~5歳を中心に報告が多かった。



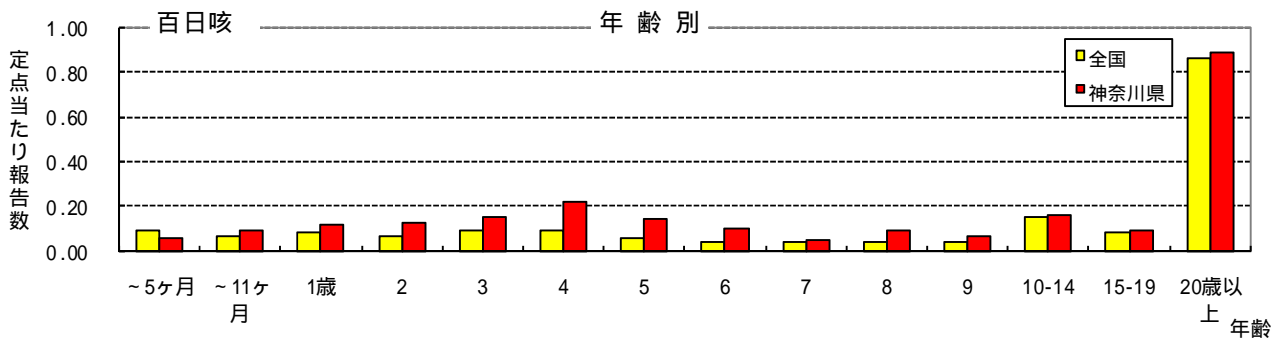
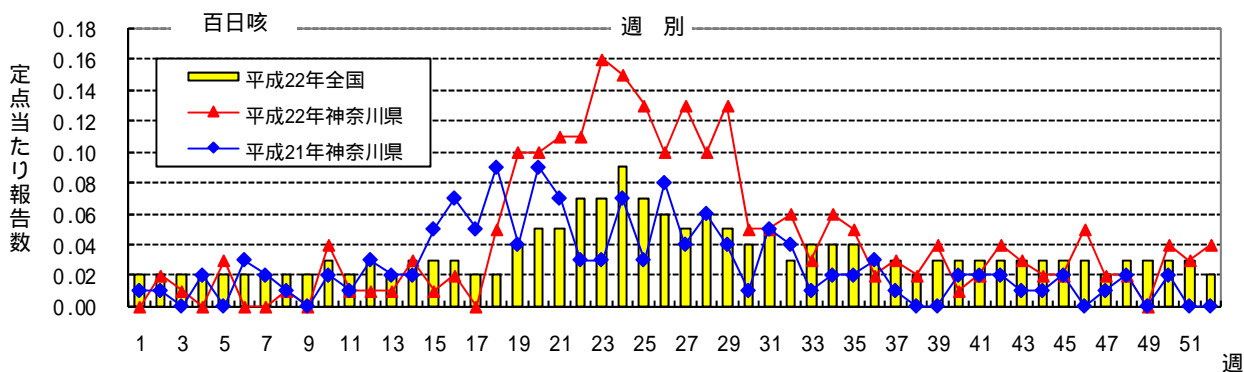
突発性発しん

例年と同様の流行であり、年齢別では6ヶ月から1歳を中心に報告が多かった。



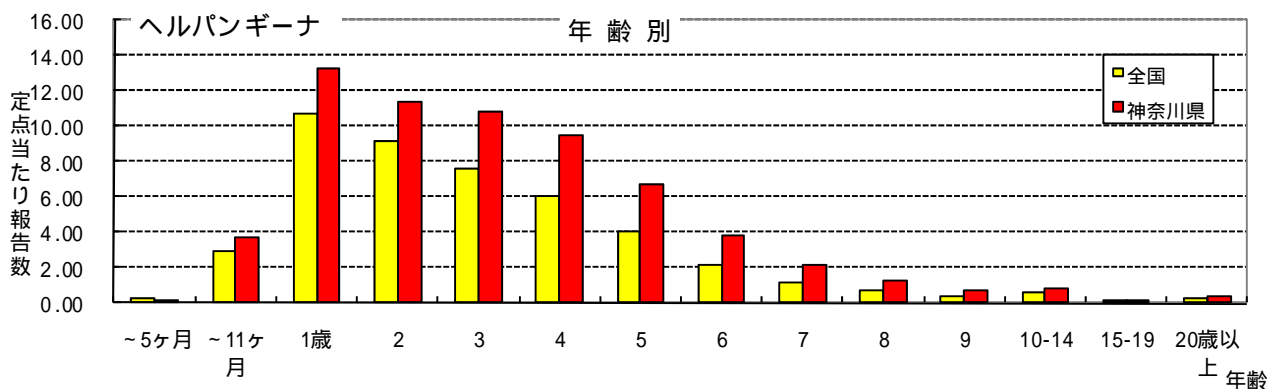
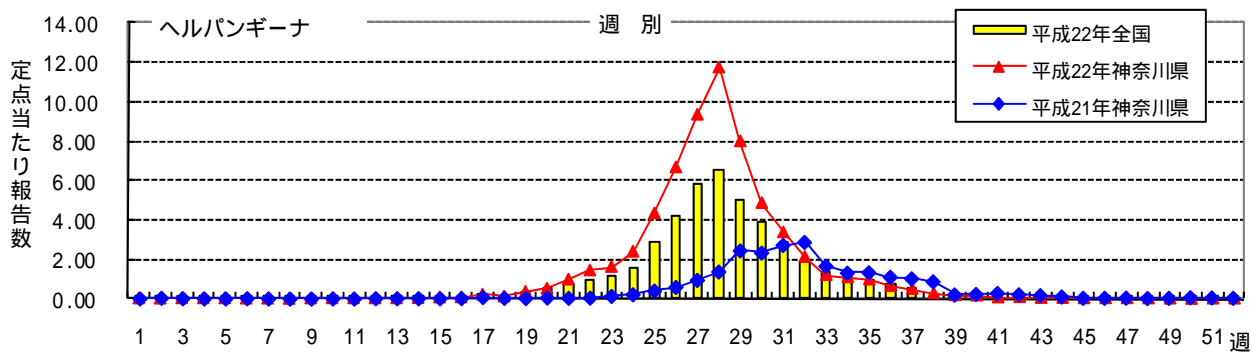
百日咳

第23週にピークがみられ、平成21年よりも報告数が増加した。年齢別では、20歳以上の報告が多かった。



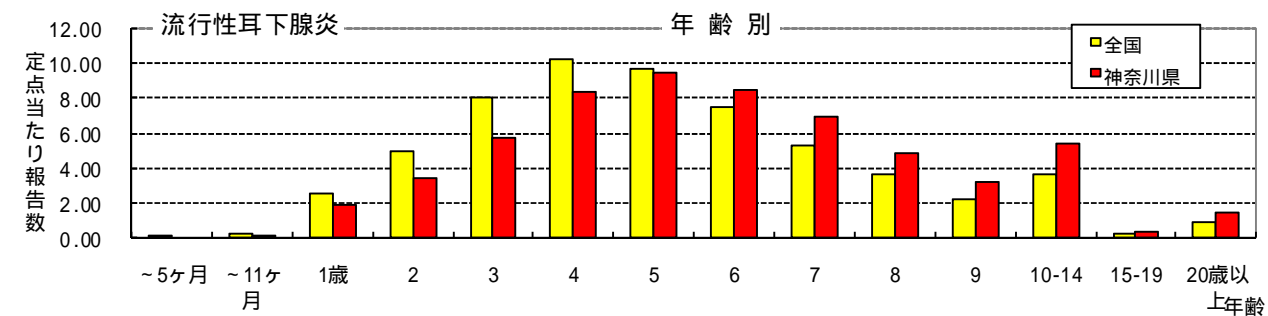
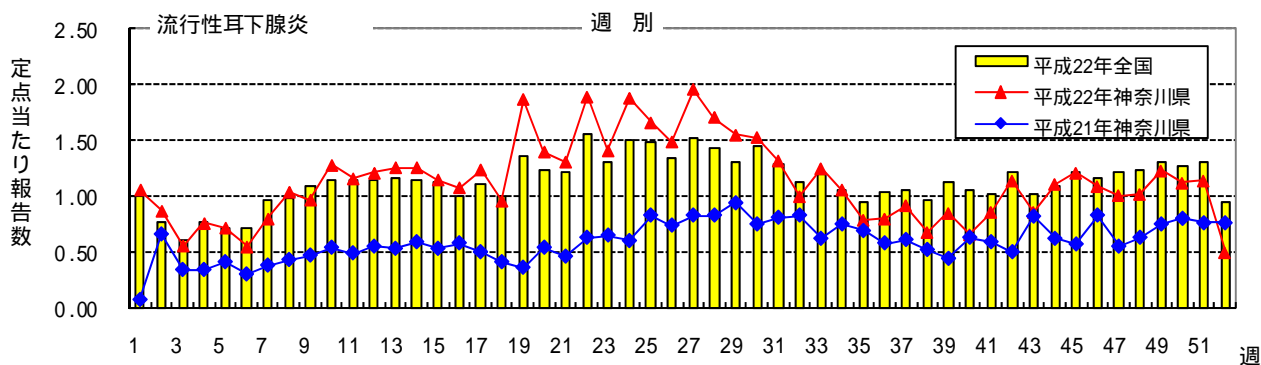
ヘルパンギーナ

第28週にピークがみられた。年齢別では1歳を中心に報告が多かった。



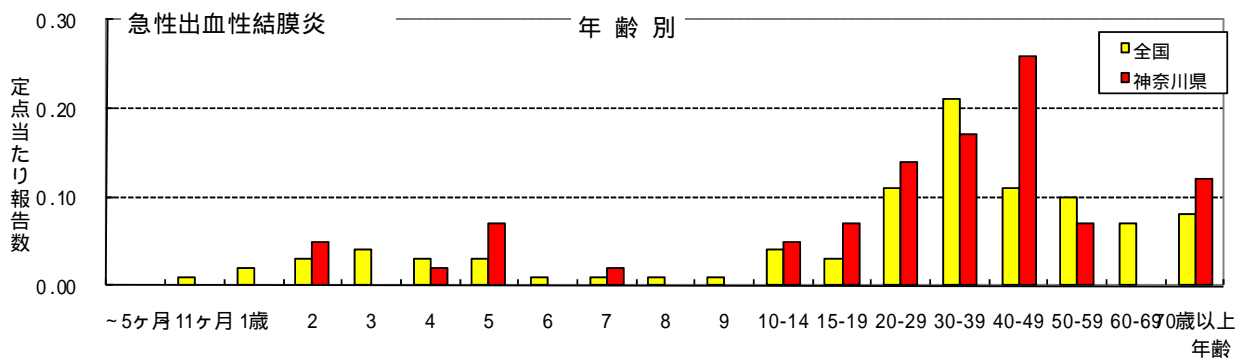
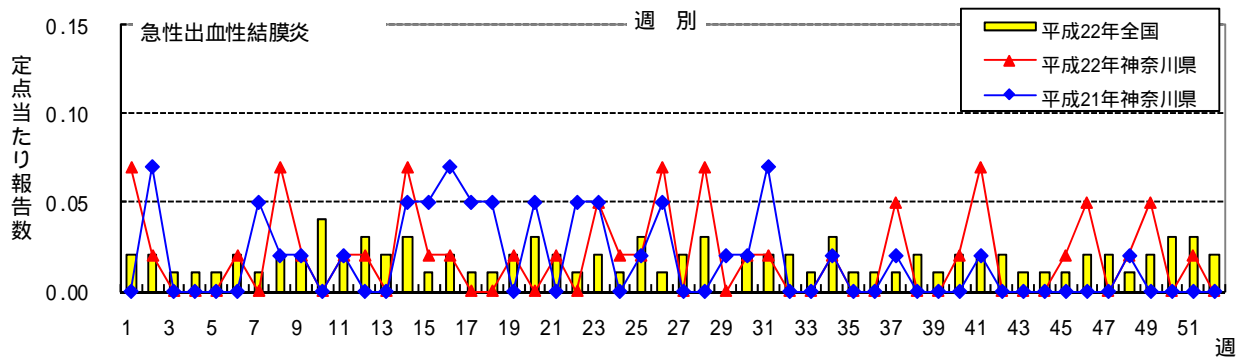
流行性耳下腺炎

1年を通じて、平成21年よりも報告数が増加した。年齢別では4~6歳を中心に報告が多かった。



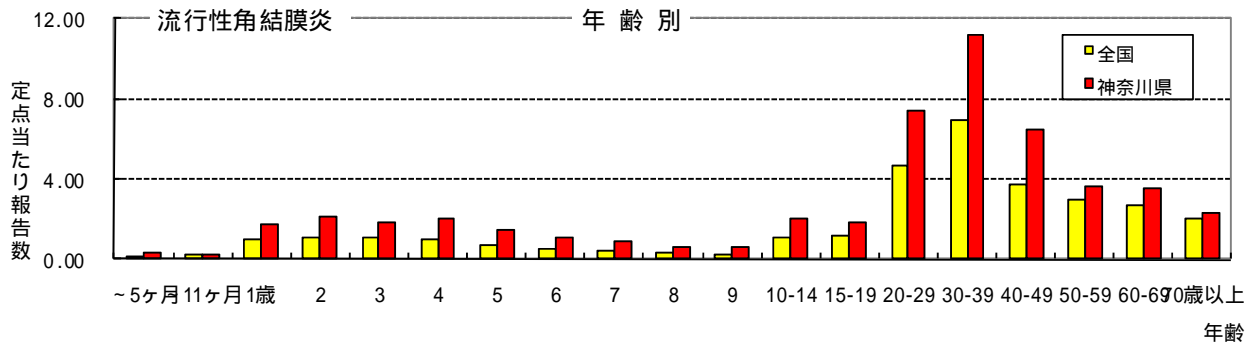
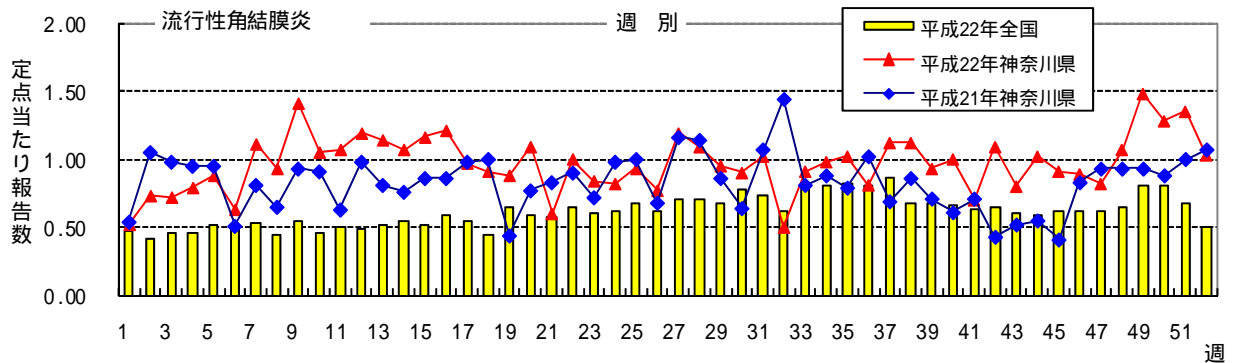
急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では40～49歳に報告が多かった。



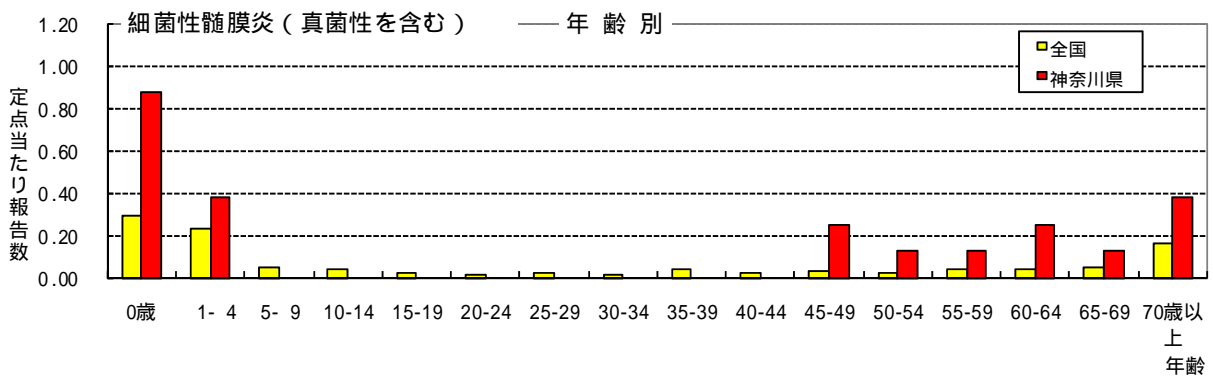
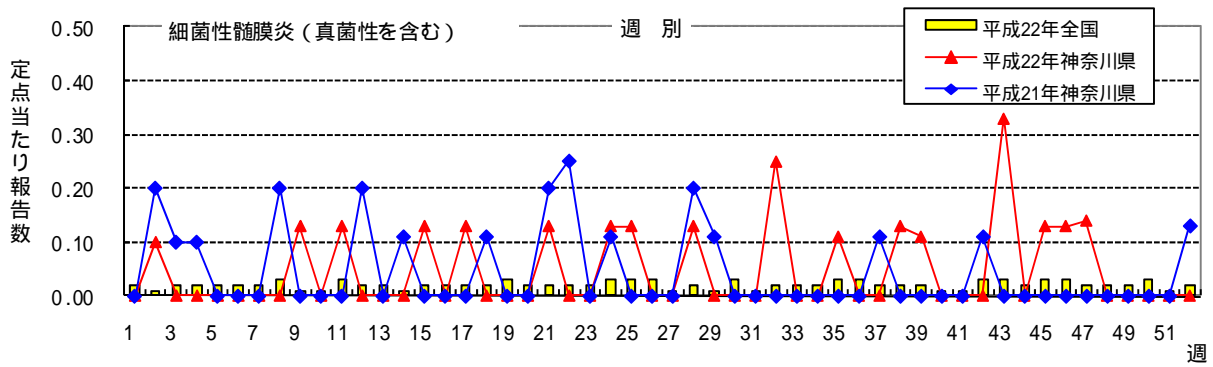
流行性角結膜炎

1年を通じて報告が見られた。年齢別では30～39歳に報告が多かった。



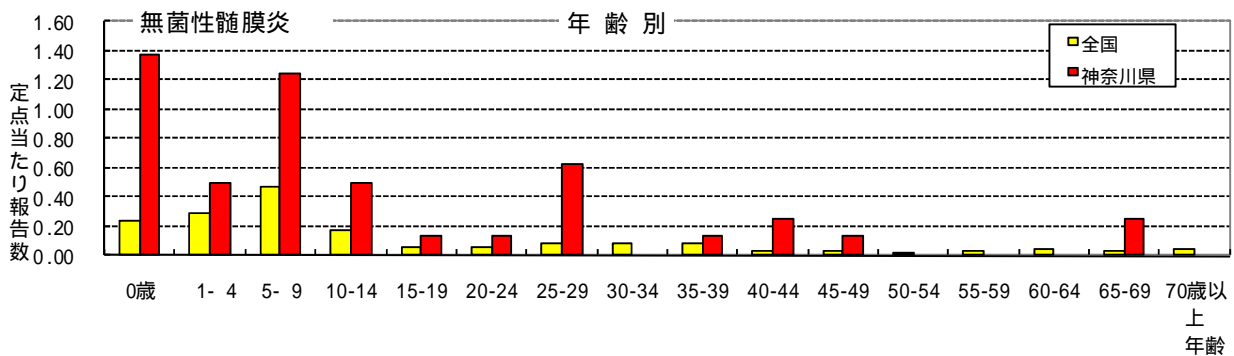
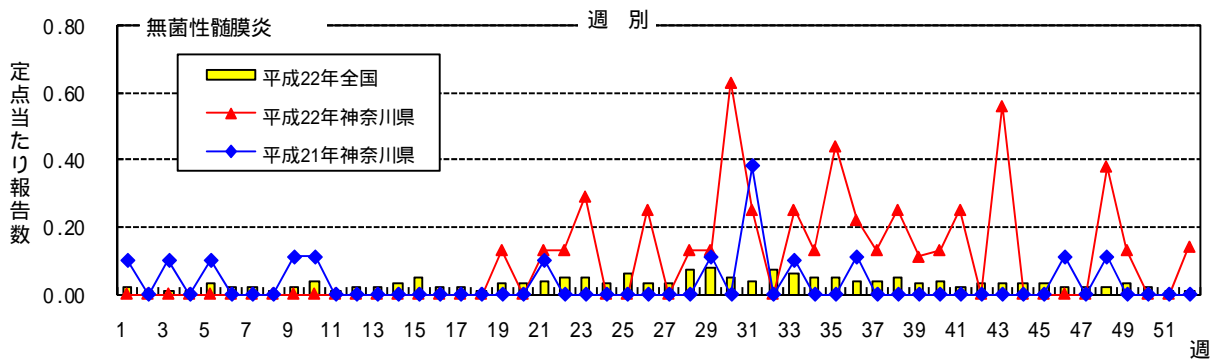
細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では4歳以下に報告が多かった。



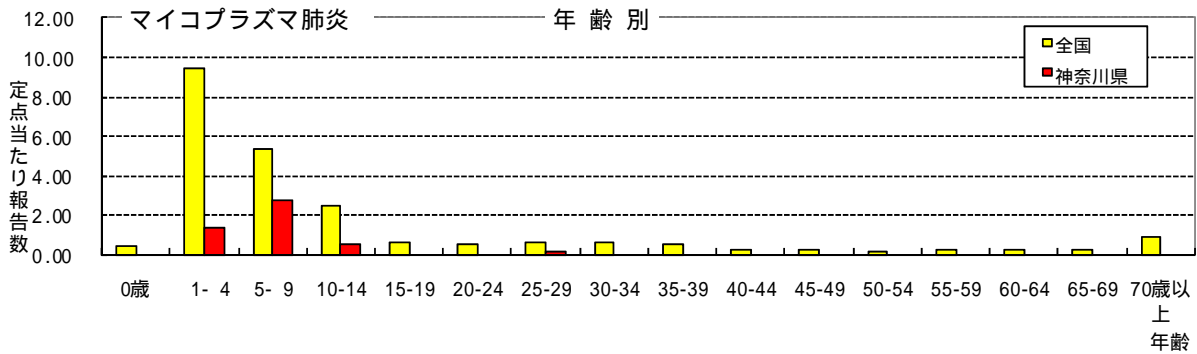
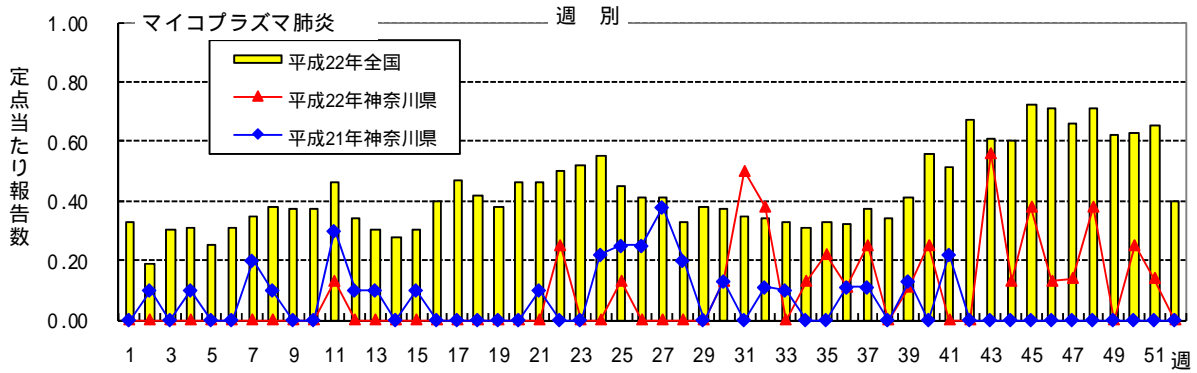
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では0歳、5~9歳に報告が多かった。



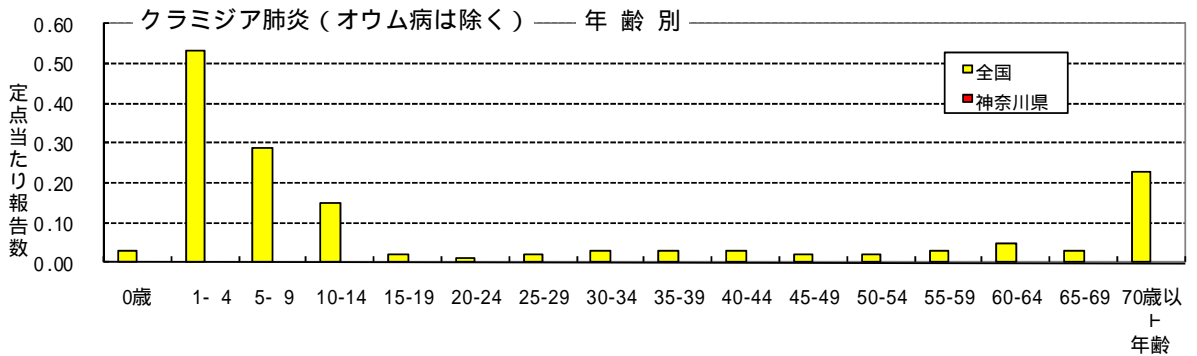
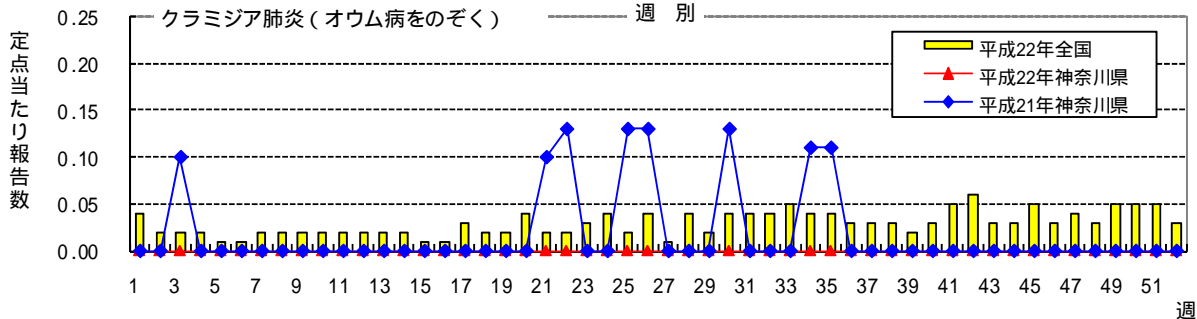
マイコプラズマ肺炎

平成 21 年よりも報告数が増加した。年齢別では 5～9 歳に報告が多かった。



クラミジア肺炎（オウム病をのぞく）

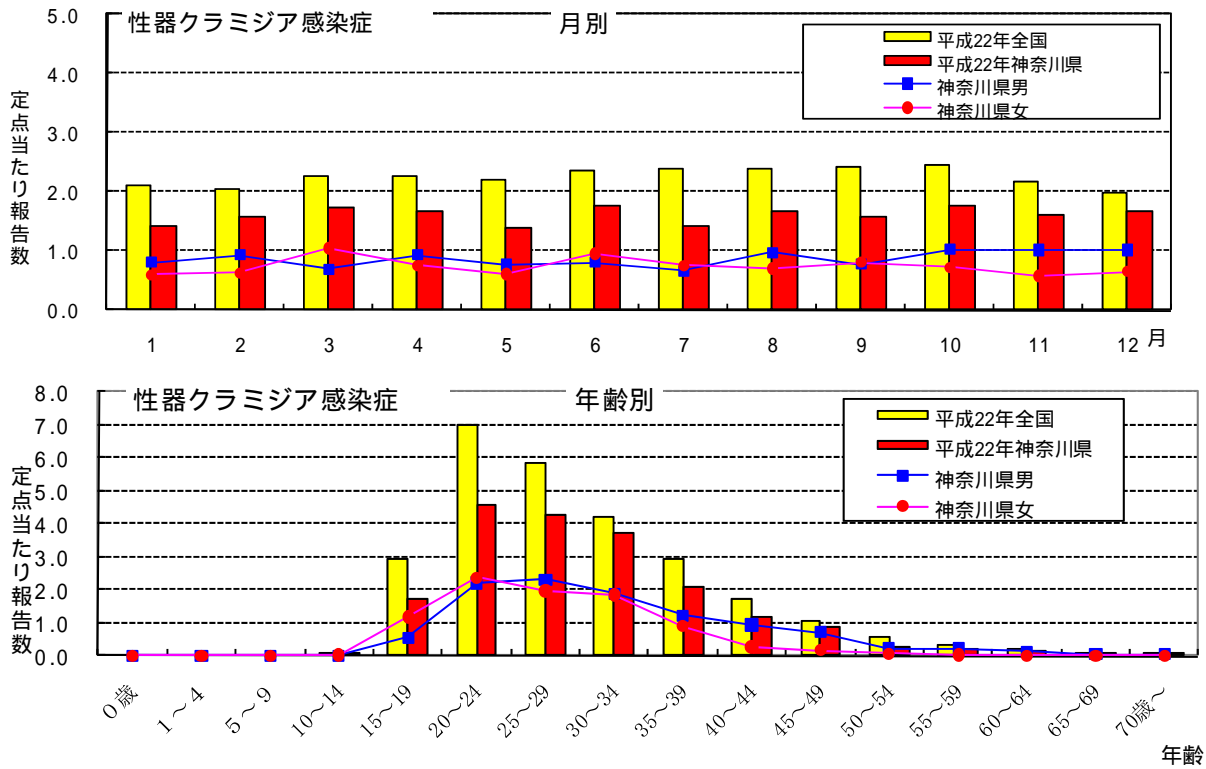
神奈川県では、報告がみられなかった。



(3) 月報対象疾患(神奈川県全県)

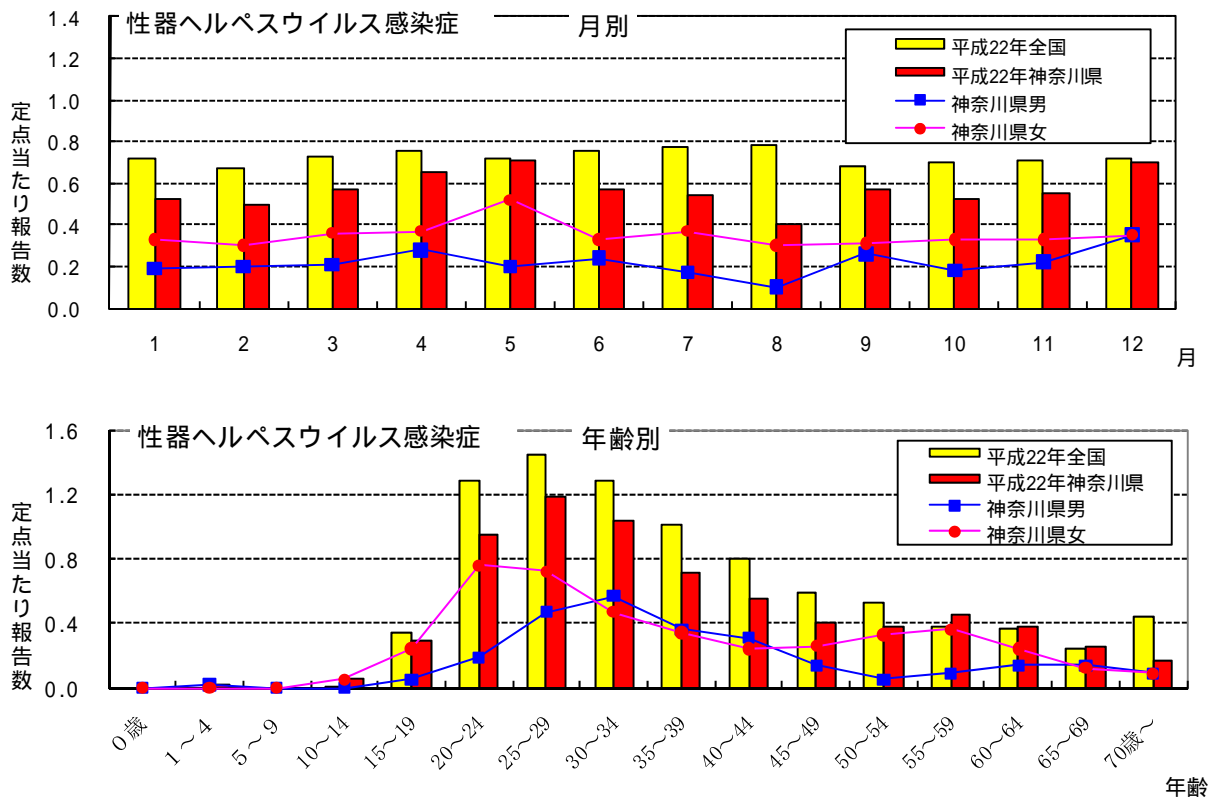
性器クラミジア感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では20~24歳に報告が多かった。



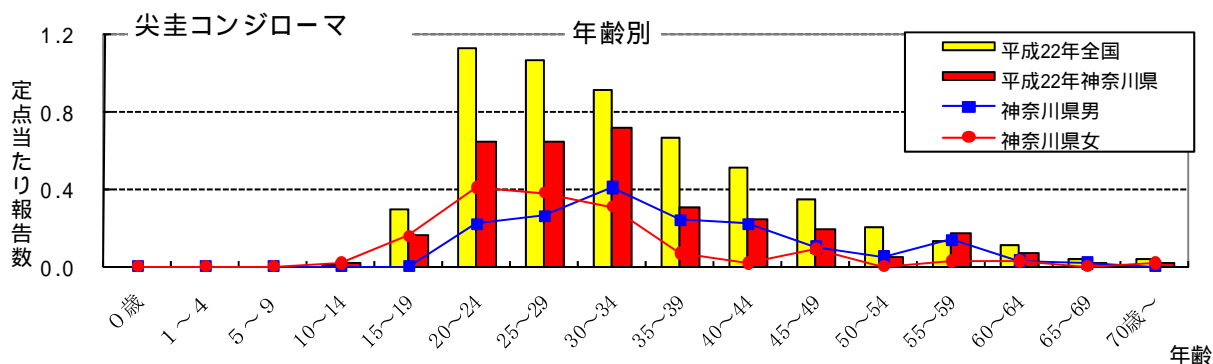
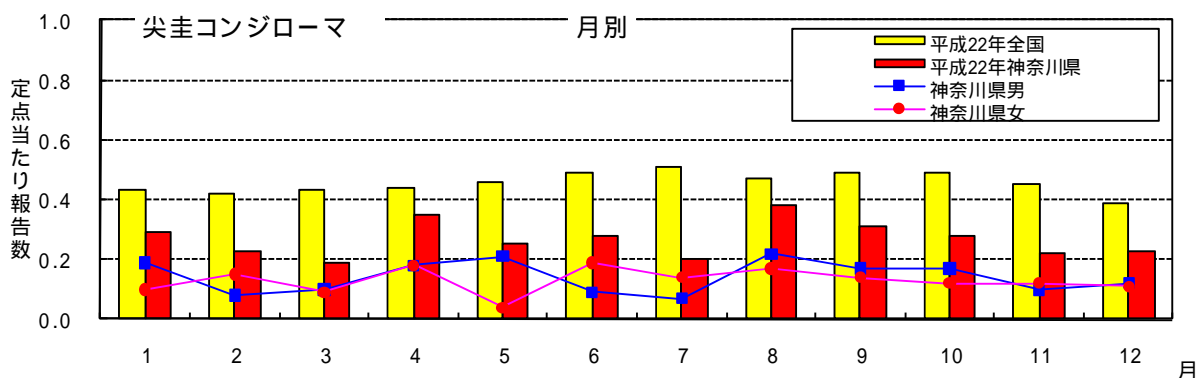
性器ヘルペスウイルス感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では25~29歳に報告が多かった。



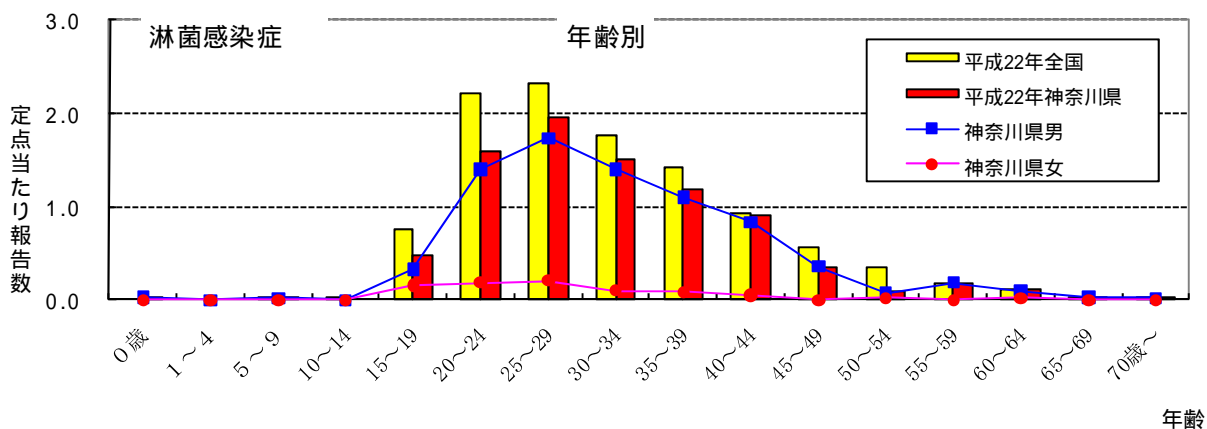
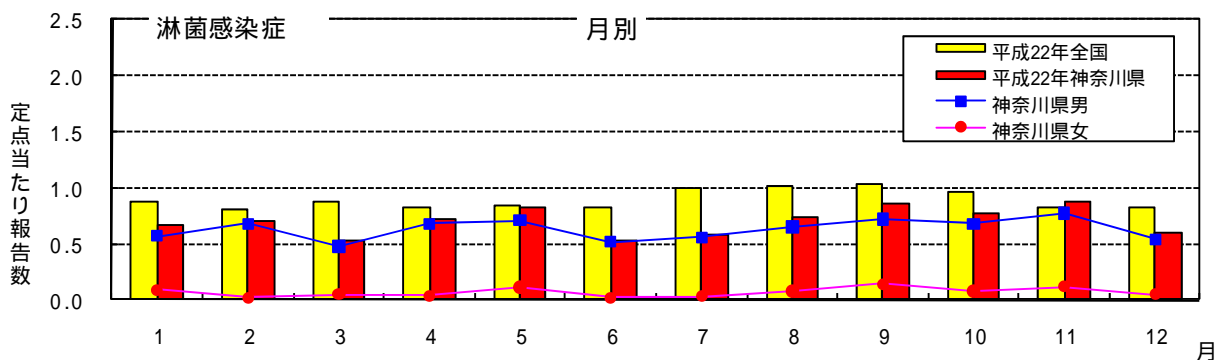
尖圭コンジローマ

年間を通して報告がみられた。年齢別では30～34歳に報告が多かった。



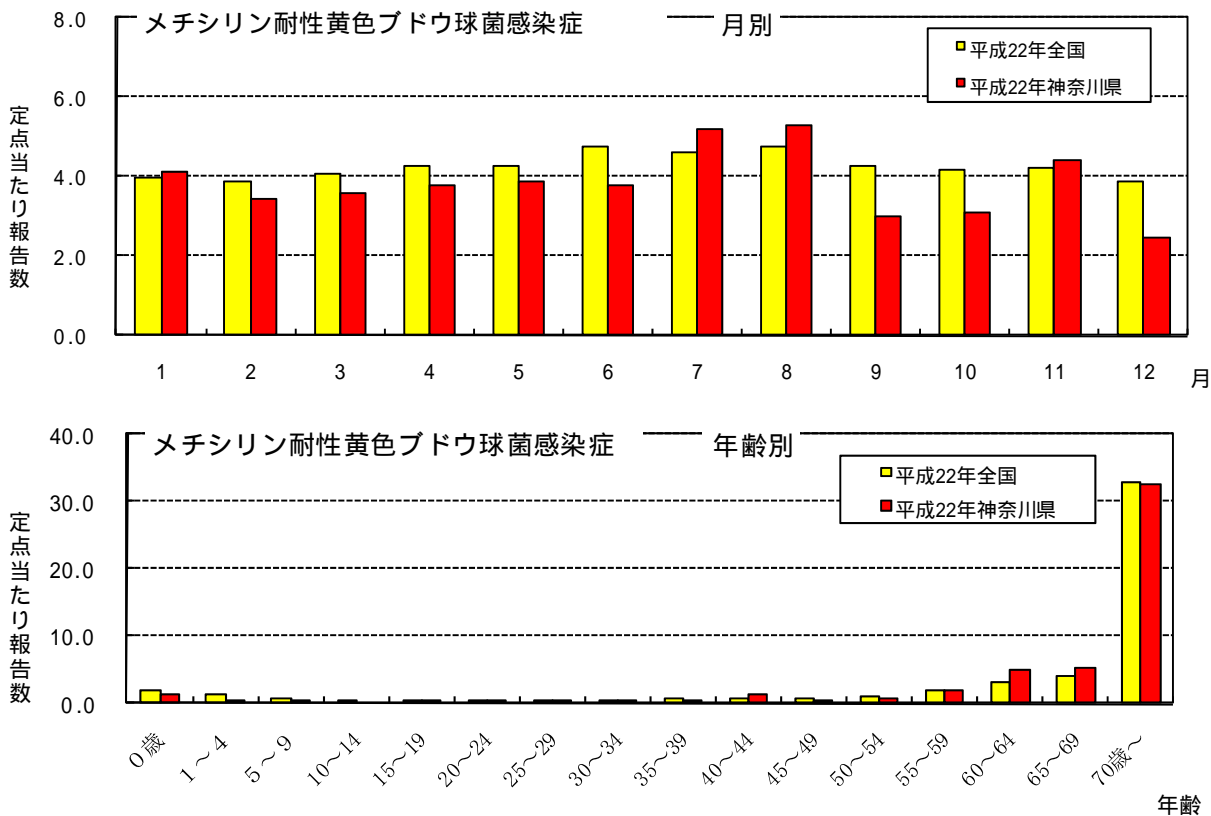
淋菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では25～29歳に報告が多かった。女の報告は少なく、男の報告が多くを占めた。



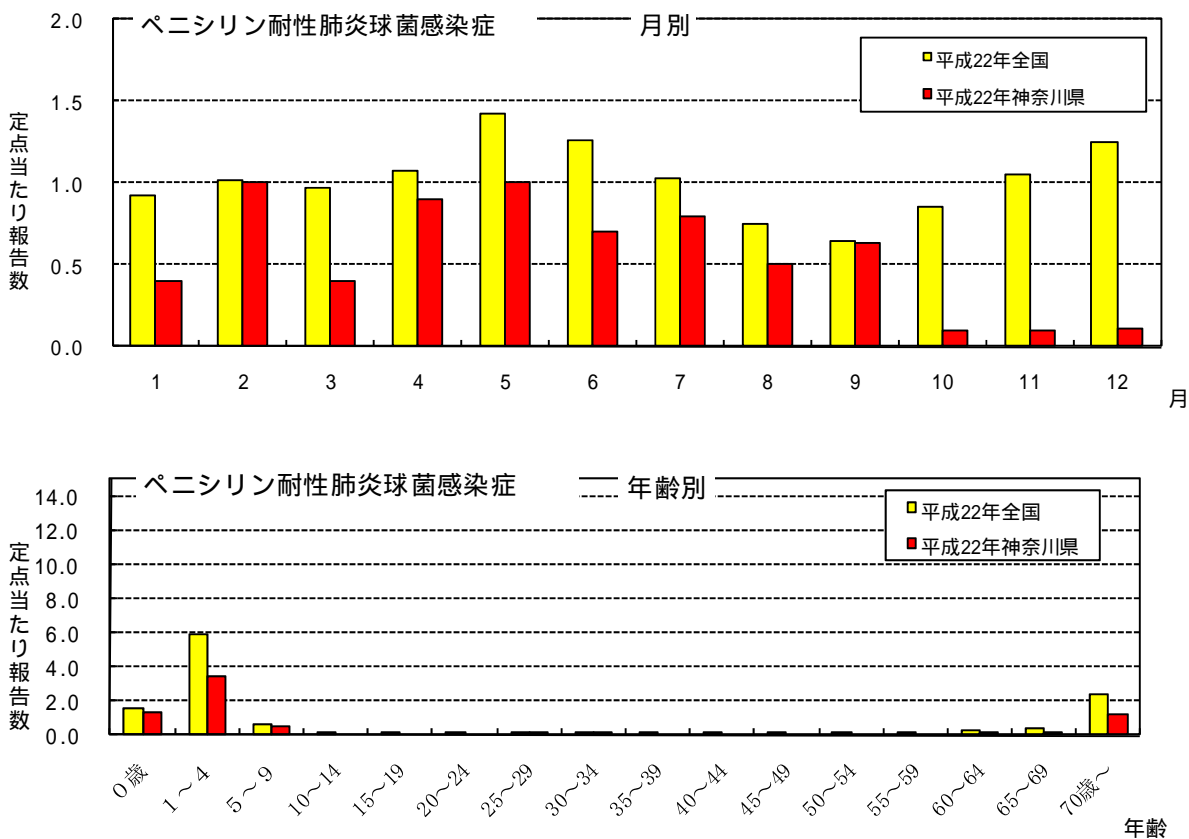
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられ、年齢別では70歳以上に報告が多かった。



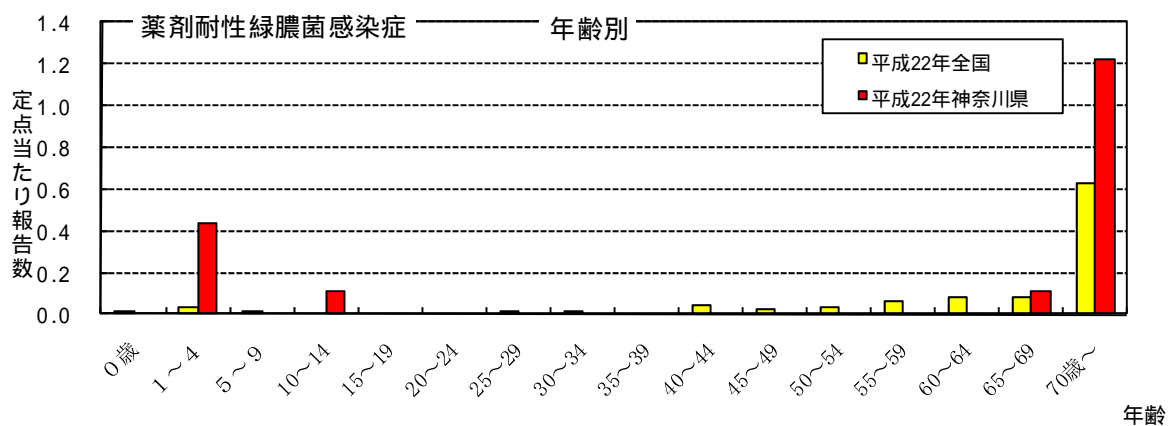
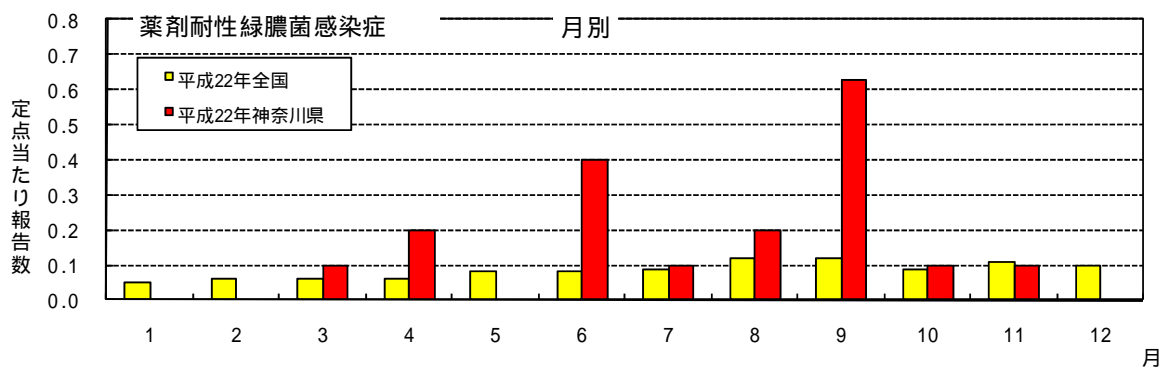
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間を通して報告がみられ、10月~12月は少なかった。年齢別では、1~4歳に報告が多かった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

散発的な報告がみられ、9月に多かった。年齢別では70歳以上に報告が多かった。



3 トピックス

< 神奈川県 HIV/エイズの概要 >

平成 22 年の神奈川県の HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 77 人であった。感染者、患者ともわずかに減少した。(表 1)。

表 1 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移 (神奈川県) (人)

		平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	昭和60年からの累計
男性	総数	62	73	74	59	66	84	80	73	69	1,090
	感染者	40	43	46	41	44	52	59	51	49	700
	患者	22	30	28	18	22	32	21	22	20	390
女性	総数	7	13	8	10	12	12	12	8	8	232
	感染者	7	8	8	7	9	7	7	6	6	177
	患者	0	5	0	3	3	5	5	2	2	55
合計	総数	69	86	82	69	78	96	92	81	77	1,322
	感染者	47	51	54	48	53	59	66	57	55	877
	患者	22	35	28	21	25	37	26	24	22	445

(平成 22 年 12 月 31 日現在)

HIV 検査実施件数は、平成 21 年に続いて、平成 22 年も減少し、前年比 13.6%減の 9656 件であった。

表 2 HIV 検査実施件数年次推移 (件)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
県域	1,045	1,026	1,247	1,553	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585
横浜市	2,763	3,036	3,197	3,601	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031
川崎市	1,560	1,802	2,077	1,943	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831
横須賀市	218	237	299	293	298	440	352	322	340
相模原市	236	301	401	477	434	585	559	584	486
藤沢市					115	192	388	367	383
合計	5,822	6,402	7,221	7,867	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656
前年比 (%)	-24.6	10.0	12.8	8.9	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6

* 相模原市は平成12年4月から、藤沢市は平成18年4月から保健所設置市
* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 22 年 12 月 31 日現在)

(表 1・表 2 数値 : 県健康危機管理課提供)

< 資料 >

資料1 平成22年全数把握対象感染症保健所別報告数

(平成23年3月現在)

(単位: 件)

Table with columns for infection types (全数類型), classes (二類, 三類, 四類, 五類), and health centers (保健所別). Rows include years from 18 to 22 and detailed counts for each category.

< PART > 平成 22 年地域における感染症発生状況の概要

病原微生物検出状

1 ウイルス検出概況

平成 22 年に県内で検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス AH1pdm の影響で大幅に増加した前年に比べ、約半数の 1,495 件であった。平成 22 年は例年の検出概況となっている（図 1）。

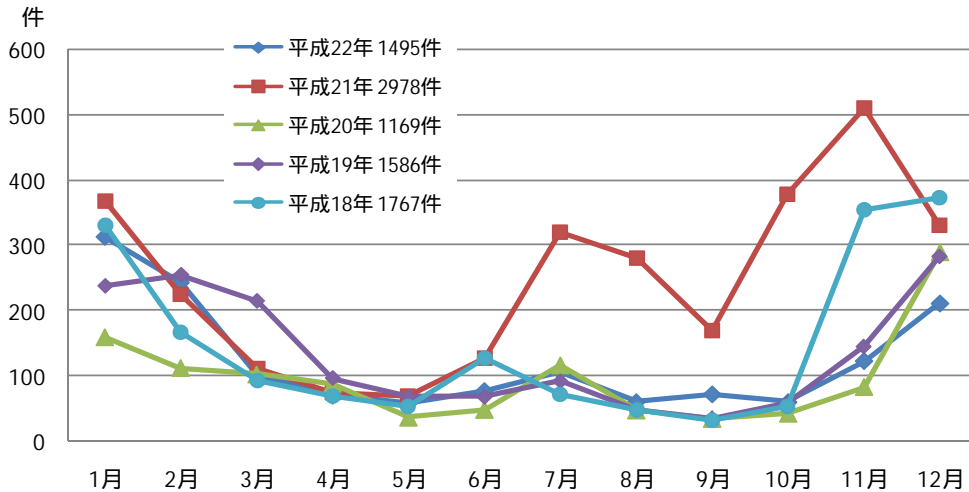


図1 ウイルス月別検出状況年別比較

検出ウイルス種類別で最も多いのは、インフルエンザウイルス AH1pdm (33.8%) 次にノロウイルス (21.5%) であった（図 2）。

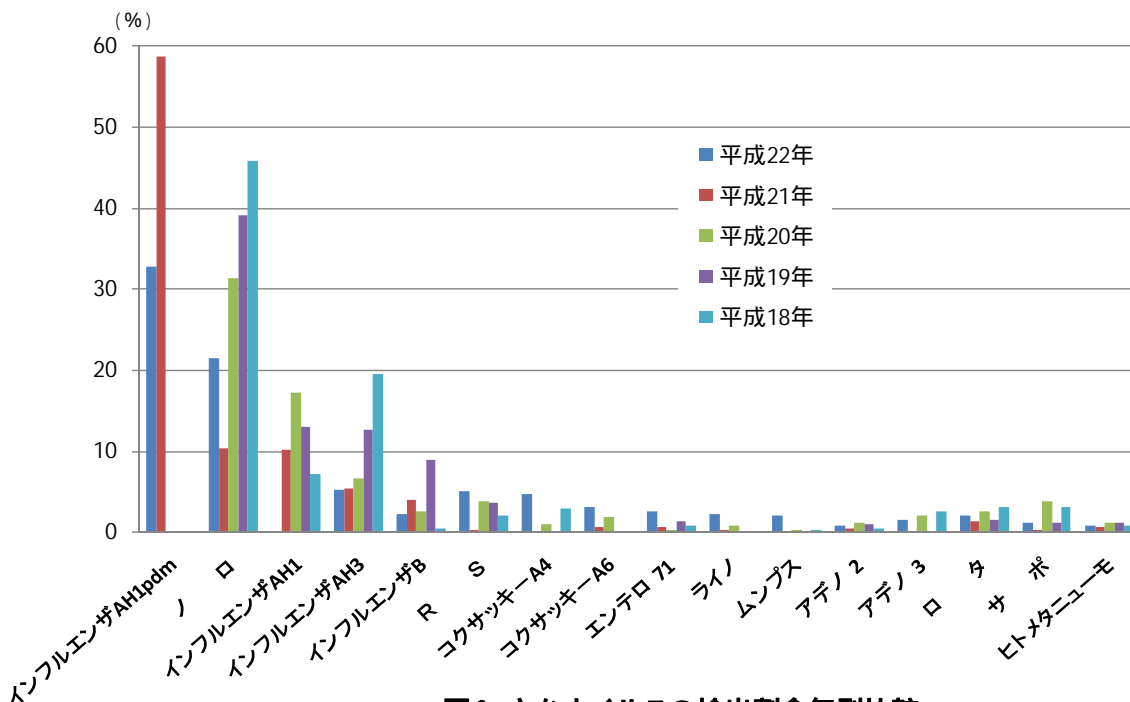


図2 主なウイルスの検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、22 ページ以下に記載。

(伊東久美子)

2 病原細菌検出概況

平成 22 年に県内で検出された病原細菌は 474 件であり、前年より減少し、月別では 8 月が検出数のピークを示した。これは、腸管出血性大腸菌の検出が多かったことによると思われる。海外渡航者からは例年、件数は少ないものの年間を通じて検出されているが、平成 22 年は、パラチフス A 型菌、赤痢菌フレキシネルの検出があり、すべて海外渡航者からであった（図 1）。

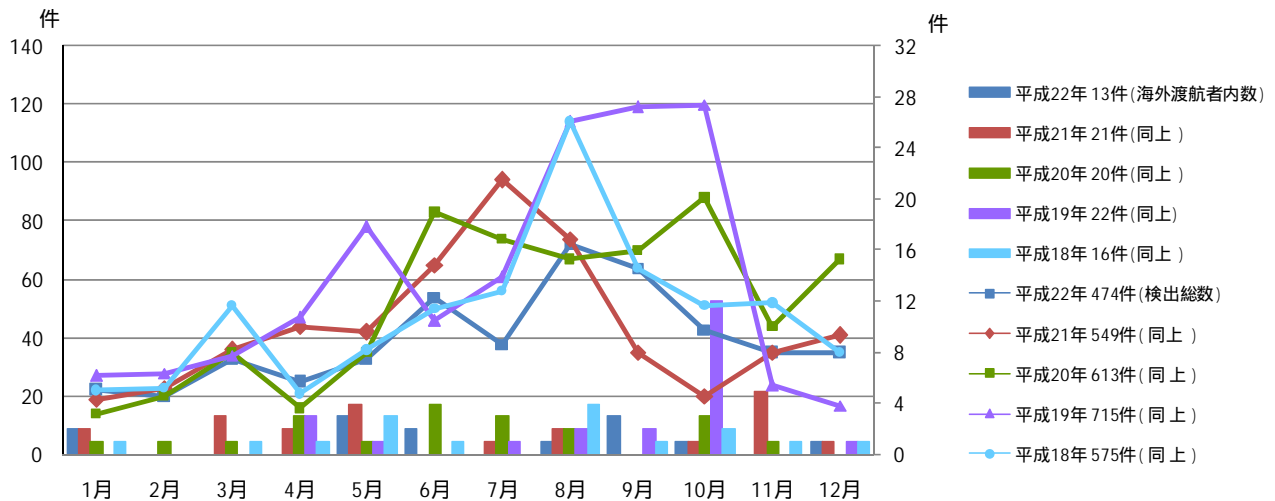


図1 細菌月別検出状況年別比較

最も多く検出された病原細菌は、レンサ球菌 A 群で全体の 23.4%、次に腸管出血性大腸菌で 21.9%、カンピロバクター ジェジュニの 20.0%であった（図 2）。

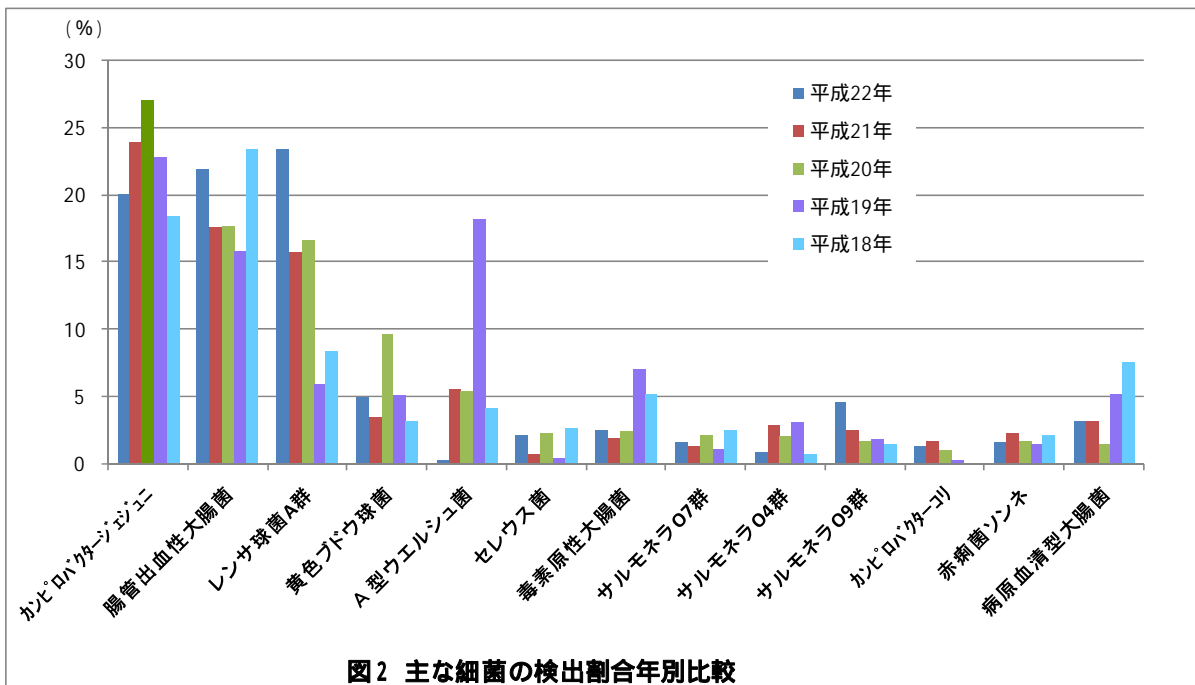


図2 主な細菌の検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、33 ページ以下に記載。

(伊東久美子)

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3 1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握		定点把握対象疾患										合計	
	つつが虫病	デング熱	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎		その他
インフルエンザ AH1pdm			4		9			1	426				51	491
インフルエンザ AH3								1	72				4	77
インフルエンザ B									33					33
パラインフルエンザ 2													1	1
R S			26		1				4				45	76
ヒトメタニューモ													14	14
ポリオ 1													1	1
ポリオ 2					1									1
コクサッキー - A2						1	10						9	20
コクサッキー - A4						4	54						14	72
コクサッキー - A5					1		3							4
コクサッキー - A6					1	26	13						7	47
コクサッキー - A9							1							1
コクサッキー - A10						1	9							10
コクサッキー - A16						6								6
コクサッキー - B2											5	1	6	6
コクサッキー - B3							1							1
コクサッキー - B4							1				1	6	8	8
コクサッキー - B5							1							1
エコ - 3							1						3	4
エコ - 25				1								2	1	4
エンテロ 68									1				4	5
エンテロ 71					1	36	1						1	39
パレコ 1					2									2
パレコ（型未決定）					3									3
ライノ						3	3						28	34
ムンプス								21				9		30
アデノ 1				2							1		3	6
アデノ 2				4	1			1	1				7	14
アデノ 3				14							6		2	22
アデノ 5				2	1								2	5
アデノ 8				1										1
アデノ 19											1			1
アデノ 31					1									1
アデノ 37										1	3			4
アデノ 41					3									3
アデノ 中間型 15/H9											1			1
アデノ（型未決定）					12						4		14	30
単純ヘルペス 1												1	2	3
ヒトヘルペス 6													2	2
ロ タ					31									31
ノ ロ					321									321
サ ボ					18									18
アストロ					7									7
バルボ B19													10	10
ヒト コロナ OC43													5	5
デング		1												1
チンチア ツガムシ	18													18
平成22年計	18	1	30	24	414	77	98	24	537	1	16	18	237	1495

麻しん：「麻しん（成人麻しんを除く）」及び「麻しん」を含む

3 - 1 神奈川県 (月別)

月 検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm		1750	193	142	33	14	5	9	2	2	1	10	15	65	491
インフルエンザ AH1	202	305													
インフルエンザ AH3	78	162					1		3	2	13	10	20	28	77
インフルエンザ B	30	123		1	2	2	1	1				1	12	13	33
パラインフルエンザ 2	5									1					1
R S	60	10	9	19	12	3	2		1	2		7	10	11	76
ヒトメタニューモ	14	18			1	8	2	2				1			14
ポリオ 1	2	1				1									1
ポリオ 2		1										1			1
ポリオ 1+2(2+3)	1														
コクサッキー - A2	12	7					3	2	8	7					20
コクサッキー - A4	12	2				1	4	27	31	8	1				72
コクサッキー - A5	12							1		2			1		4
コクサッキー - A6	22	21	2	3		1	4	5	16	8	5	1	1	1	47
コクサッキー - A9		31								1					1
コクサッキー - A10	15	12						1		8		1			10
コクサッキー - A16	88	8	2						2		2				6
コクサッキー - B1	1														
コクサッキー - B2										5		1			6
コクサッキー - B3	3	2											1		1
コクサッキー - B4	1	2							1	1	5	1			8
コクサッキー - B5		1								1					1
エコ - 3		1					1		3						4
エコ - 9	1	1													
エコ - 11		4													
エコ - 14	1														
エコ - 18		5													
エコ - 25										1	1	2			4
エコ - 30	10														
エンテロ 68										1	4				5
エンテロ 71	6	22				2	5	4	18	6	1	3			39
バレコ 1		1					1					1			2
バレコ 3	6														
バレコ 6	4														
バレコ(型未決定)		4							1	2					3
ライノ	11	9		2	10		1	1	2	2	3	7	5	1	34
ムンプス	4	3	1			3	3	3	2	2	3	5	4	4	30
麻疹	12														
麻疹 A	1														
D5	10														
アデノ 1	1	5	1		1			1	1	1			1		6
アデノ 2	14	16			1	3	4	1		1	1			3	14
アデノ 3	24	6					1	3			9		2	7	22
アデノ 4	8														
アデノ 5	2	3			2			2			1				5
アデノ 6		5													
アデノ 7	2														
アデノ 8				1											1
アデノ 19	1					1									1
アデノ 31							1								1
アデノ 37	3	6						1	2	1					4
アデノ 41		2	1	1	1										3
アデノ 40/41	8	18													
アデノ 中間型15/H9		1		1											1
アデノ(型未決定)	4	4	3	2	1	1	3	1		2	7	2	3	5	30
単純ヘルペス 1	7	7						1	1					1	3
ヒトヘルペス 6	2	1									1		1		2
ロ タ	30	38	1	6	6	11	2	3						2	31
ノ ロ	366	308	98	64	30	13	4	1	1		13	4	32	61	321
サ ボ	44	13	1	1	1	3	3	5	2	1				1	18
アストロ	16	10				2	3	1	1						7
バルボ B19		13	1			1	1	4			1		1	1	10
ヒト コロナ OC43													1	4	5
デング	1	1								1					1
未 同 定		1													
リエンチア ツツガムシ	11	14										2	13	3	18
リケッチャ ジャポニカ	1														
計	1169	2978	313	243	101	70	58	77	107	60	72	60	123	211	1495

3 - 2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	デング熱	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm									155			155
インフルエンザ AH3									27			27
インフルエンザ B									23			23
R S			10						1			11
コクサッキー - A2							10					10
コクサッキー - A4						1	43					44
コクサッキー - A5							2					2
コクサッキー - A6						14	8					22
コクサッキー - A9							1					1
コクサッキー - A10						1	9					10
コクサッキー - A16						4						4
コクサッキー - B3							1					1
コクサッキー - B5							1					1
エンテロ 71						29	1					30
パレコ（型未決定）					3							3
ライノ						2	3					5
ムンプス								17		1		18
アデノ 1				2								2
アデノ 2				4				1				5
アデノ 3				14							1	15
アデノ 5				2								2
アデノ（型未決定）					10							10
ロ タ					19							19
ノ ロ					113							113
サ ポ					15							15
アストロ					7							7
デング		1										1
オリエンテア ツツガムシ	18											18
平成22年計	18	1	10	22	167	51	79	18	206	1	1	574

3 - 2 神奈川県衛生研究所 (月別)

検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
インフルエンザ AH1pdm		677	74	46	10			2				3	11	9	155
インフルエンザ AH1	66	114													
インフルエンザ AH3	17	56										3	10	14	27
インフルエンザ B	10	26			1	1		1				1	11	8	23
パラインフルエンザ 2	1														
R S	1			3	3							1	1	3	11
ポリオ 1		1													
コクサッキー - A2	8	1						2	1	3	4				10
コクサッキー - A4	9	1						1	18	21	4				44
コクサッキー - A5	6								1		1				2
コクサッキー - A6	13	15	2	2				2	7	3	4	1	1		22
コクサッキー - A9		24								1					1
コクサッキー - A10	13	6						1		8			1		10
コクサッキー - A16	56	7	2									2			4
コクサッキー - B1	1														
コクサッキー - B3													1		1
コクサッキー - B4		1													
コクサッキー - B5											1				1
エコ - 9	1														
エコ - 11		1													
エンテロ 71	1	10						5	3	15	5		2		30
パレコ 1		1													
パレコ 3	6														
パレコ 6	4														
パレコ (型未決定)		4								1	2				3
ライノ	6	4			1			1		2			1		5
ムンプス	4	2				3	2	3				1	4	2	3
麻しん	5														
アデノ 1		3	1						1						2
アデノ 2	6	6						1	1					3	5
アデノ 3	7								2			5	2	6	15
アデノ 5		1						1				1			2
アデノ 40/41	8	18													
アデノ (型未決定)	2		2	1	1	1	3				2				10
単純ヘルペス 1	4	4													
ロ タ	25	34	1	4	5	4	2	2						1	19
ノ ロ	89	84	32	25	6			1	1		3	4	23	18	113
サ ポ	34	12	1	1		2	3	4	2	1				1	15
アストロ	16	10				2	3	1	1						7
デ ン グ	1	1								1					1
リエンテア ツツガムシ	11	14										2	13	3	18
リゲツア ジャポニカ	1														
計	432	1138	115	82	27	13	25	43	62	24	16	23	75	69	574

3 - 3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	R S ウイルス 感染症	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	イン フル エン ザ 様	急性 出血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	そ の 他	合 計
インフルエンザ AH1pdm	4	9			1	57				51	122
インフルエンザ AH3					1	16				4	21
インフルエンザ B						2					2
パラインフルエンザ 2										1	1
R S	16	1				3				45	65
ポリオ 2		1									1
コクサッキー - A2										9	9
コクサッキー - A4			3	10						14	27
コクサッキー - A5		1		1							2
コクサッキー - A6		1	11	5						7	24
コクサッキー - B2								5		1	6
コクサッキー - B4				1				1		6	8
エコ - 3				1						3	4
エコ - 25										1	1
エンテロ 68						1				4	5
エンテロ 71		1	3							1	5
パレコ 1		2									2
ライノ										28	28
ムンプス					4						4
アデノ 1										3	3
アデノ 2						1				7	8
アデノ 3										1	1
アデノ 5		1								2	3
アデノ 19								1			1
アデノ 31		1									1
アデノ 37							1				1
アデノ 41		3									3
アデノ（型未決定）		1						4		14	19
単純ヘルペス 1									1	2	3
ヒトヘルペス 6										2	2
口 タ		3									3
ノ 口		14									14
サ ボ		1									1
パルボ B19										10	10
ヒト コロナ OC43										5	5
平成22年計	20	40	17	18	6	80	1	5	7	236	430

3 - 3 横浜市衛生研究所（月別）

月 検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
インフルエンザ AH1pdm		181	44	37	12	9	4			1	1		2	12	122
インフルエンザ AH1	81	70													
インフルエンザ AH3	30	27					1			1	4	2	8	5	21
インフルエンザ B	11	65												2	2
パラインフルエンザ 2	4									1					1
R S	59	10	9	16	9	3	2		1	2		6	9	8	65
ヒトメタニューモ	14	18			1	8	2	2				1			14
ポリオ 1	2				1										1
ポリオ 2		1										1			1
ポリオ 1+2(2+3)	1														
コクサッキー - A2	3	6					1	1	4	3					9
コクサッキー - A4	3	1				1	3	9	9	4	1				27
コクサッキー - A5	6									1			1		2
コクサッキー - A6	9	6		1		1	4	3	8	5	1			1	24
コクサッキー - A9		7													
コクサッキー - A10	2	6													
コクサッキー - A16	19	1													
コクサッキー - B2										5		1			6
コクサッキー - B3		1													
コクサッキー - B4		1							1	1	5	1			8
エコ - 3		1					1		3						4
エコ - 18		5													
エコ - 25												1			1
エンテロ 68										1	4				5
エンテロ 71	4	8				2			1	1		1			5
パレコ 1							1					1			2
パレコ 3	1														
ライノ	5	5		2	9			1		2	2	6	5	1	28
ムンプス											2		1	1	4
麻しん A	1														
D5	10														
アデノ 1	1	1			1				1	1					3
アデノ 2	6	10			1	2	3			1	1				8
アデノ 3	9	5					1								1
アデノ 4	3														
アデノ 5	2	2			2		1								3
アデノ 6		5													
アデノ 7	2														
アデノ 19						1									1
アデノ 31								1							1
アデノ 37		2							1						1
アデノ 41		2	1	1	1										3
アデノ（型未決定）		1	1	1					1		7	2	2	5	19
単純ヘルペス 1	3	2						1	1					1	3
ヒトヘルペス 6	2	1									1		1		2
ロタ		3				3									3
ノロ	11	8	1	1			1				1		3	7	14
サポ	1	1			1										1
バルボ B19		13	1			1	1	4			1		1	1	10
ヒト コロナ OC43													1	4	5
未同定		1													
計	305	477	57	59	37	32	27	23	29	30	31	23	34	48	430

3 - 4 川崎市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	風しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm							61				61
インフルエンザ AH3							11				11
インフルエンザ B							3				3
コクサッキー - A2			1								1
コクサッキー - A4					1						1
コクサッキー - A6			1								1
コクサッキー - A16			2								2
エコ - 25	1									1	2
エンテロ 71			4								4
ライノ			1								1
ムンプス										4	4
アデノ 1									1		1
アデノ 3									5		5
アデノ 8	1										1
アデノ 37									1		1
アデノ（型未決定）		1									1
ロタ		4									4
ノロ		51									51
平成22年計	2	56	9		1		75		7	5	155

3 - 4 川崎市衛生研究所（月別）

月 検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm		555	22	16	4	4		1				1	1	12	61
インフルエンザ AH1	49	81													
インフルエンザ AH3	27	50										4	3	1	3
インフルエンザ B	7	30		1	1		1								
コクサッキー - A2	1									1					
コクサッキー - A4										1					
コクサッキー - A6										1					
コクサッキー - A16	13									2					
コクサッキー - B3		1													
コクサッキー - B4	1														
エコ - 9		1													
エコ - 11		1													
エコ - 14	1														
エコ - 25												1	1		
エコ - 30	9														
エンテロ 71	1	4						1	2		1				
ライノ											1				
ムンプス		1	1						2			1			
麻疹	7														
アデノ 1														1	
アデノ 2	2														
アデノ 3	7	1									4			1	
アデノ 4	4														
アデノ 8				1											
アデノ 37	2	2							1						
アデノ（型未決定）	2	3												1	
単純ヘルペス 1		1													
ロタ	5	1		2	1				1						
ノロ	58	68	12	5	3	7					9			1	14
計	196	800	35	25	9	11	1	3	10		20	6	5	30	155

3 - 5 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	手足口病	風しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
	インフルエンザ AH1pdm						63			
インフルエンザ AH3						3				3
アデノ 2	1									1
アデノ 3							1			1
アデノ 37							2			2
アデノ 中間型 15/H9							1			1
口 タ	5									5
ノ 口	71									71
サ ボ	2									2
平成22年計	79					66	4			149

3 - 5 相模原市衛生試験所（月別）

疾患名 検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm		84	23	19	2	1	1						5		12	63
インフルエンザ AH1	4	3														
インフルエンザ AH3	1	10											1	1	1	3
インフルエンザ B	2	2														
アデノ 2						1										1
アデノ 3	1							1								1
アデノ 4	1															
アデノ 19	1									1	1					2
アデノ 37	1	2														2
アデノ 中間型15/H9		1		1												1
口 タ							4								1	5
ノ 口	61	50	44	4			2							4	17	71
サ ボ	9					1			1							2
計	81	152	67	24	2	9	1	2	1	1		6	5	31	149	

3 - 6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	手足口病	風しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm						71					71
インフルエンザ AH3						9					9
インフルエンザ B						4					4
ノロ	27										27
平成22年計	27					84					111

3 - 6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

月 検出ウイルス	平成20年	平成21年	月												平成22年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm		145	15	23	5			6	2			1	1	18	71
インフルエンザ AH1		28													
インフルエンザ AH3		11						3		2	1		3	9	
インフルエンザ B					1								3	4	
ノロ	110	46	3	12	11								1	27	
計	110	230	18	35	16	1		6	5		2	2	2	24	111

3 - 7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	手足口病	風しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm						19				19
インフルエンザ AH3						6				6
インフルエンザ B						1				1
エコ - 25								1		1
ムンプス								4		4
ノ 口	45									45
平成22年計	45					26		5		76

3 - 7 藤沢市保健所（月別）

月 検出ウイルス	平成 20年	平成 21年	月												平成 22年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm		108	15	1							1				2	19
インフルエンザ AH1	2	9														
インフルエンザ AH3	3	8								1	3				2	6
インフルエンザ B														1		1
コクサッキー - B3	3															
コクサッキー - B5		1														
エコ - 11		2														
エコ - 25										1						1
エコ - 30	1															
ムンプス							1			2				1		4
アデノ 1		1														
ノ 口	37	52	6	17	10	4	3								5	45
計	46	181	21	18	10	4	4			5	3		2	9	76	

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）

4 - 1 神奈川県

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計								
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者							
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			
腸管出血性大腸菌(EHEC)	100	2	93	8	3	3	1	3	3	15	33	17	12	2	4	104									
毒素原性大腸菌(ETEC)	18	2	10	6				1	1	2		2	7			12	1								
組織侵入性大腸菌	5																								
病原血清型大腸菌(EPEC)	9		17	1	1	1	1	2	1	2			2	1	3	15									
他の下痢原性 E.coli	3		35																						
チフス菌	4	4						1				1	1	1			3	1							
パラチフス A菌	4	4	3	3					1	1		1	1				2	2							
サルモネラ 04群	12		15					1	1	1	1						4								
サルモネラ 07群	13		7	2	2					1				1	1		7								
サルモネラ 08群	2		2					1									1								
サルモネラ 09群	11		13			7	1				6	3	5				22								
サルモネラ 01,3,19群	1									1							1								
リステリア モノサイトゲネス	1										1	1													
コレラ菌 01	1	1	1	1																					
コレラ菌 01 (CT(-))			1	1																					
コレラ菌 non-01 & O139 (CT(-))	1		3					1	1								1	1							
腸炎ビブリオ	2		8							1	1						2								
ビブリオ フルビアリス	1																								
エロモナス ハイドロフィラ	1										1		1				2								
エロモナス キャピエ	5		4				2		1			1			1		5								
カンピロバクター - ジェジュニ	179		126	1	2	11	6	10	9	1	9	18	11	10	7	95									
カンピロバクター - コリ	8		9						1	1	2		1	1		6									
カンピロバクター - ジェジュニ/コリ			1						1							1									
黄色ブドウ球菌	59		18	3	3			1	4	3	7			1	1	23									
A型ウエルシュ菌	39		29													1	1								
破傷風菌																1	1								
セレウス菌	14		4						1	2		6			1	10									
枯草菌	3									1						1									
赤痢菌フレキシネル	4	2	2	1	1	1			1	1		1	1			3	3								
赤痢菌 ボイド	1	1																							
赤痢菌ソネ	10	4	12	9			1	1	1			1	1	3	1	1	1	7	4						
赤痢菌群不明				1	1												1	1							
レンサ球菌A群	102		83	4	8	10	10	10	23	4	6	6	4	16	10	111									
レンサ球菌B群	1		1																						
レンサ球菌G群	1									1						1									
レンサ球菌 上記以外の群								1	2							3									
肺炎球菌	1		4				1			1						2									
エンテロコッカス フェーカリス			1																						
エンテロコッカス フェシウム	1		1	1					1							4	6								
エンテロコッカス カセリフラブス							1									1									
ウルセランス									1							1									
百日咳菌	7		4																						
バラ百日咳菌			5																						
レジオネラ ニューモフィラ	9		3						1		2	1	1		1		6								
結核菌	1																								
ウシ型結核菌			1																						
マイコバクテリウム	1																								
インフルエンザ菌	4		5		1		1								1		3								
髄膜炎菌						1											1								
淋菌											1						1								
マイコプラズマ ニューモニエ			7							3		1	2	1	1		8								
計	639	20	528	21	22	2	20	33	25	33	3	54	2	38	72	1	64	3	43	1	35	35	1	474	13

4 - 2 神奈川県衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	8	1	1	2			1					5	3	2		1	14	
毒素原性大腸菌(ETEC)	2		2										1				1	
その他・不明	3		35															
サルモネラ 04群	4																	
サルモネラ 07群	2		1															
サルモネラ 08群	1																	
サルモネラ 09群	1		7			7						4	3	4			18	
サルモネラ 01,3,19群	1																	
腸炎ビブリオ			4									1					1	
ビブリオ フルビアリス	1																	
エロモナス ハイドロフィラ	1											1		1			2	
エロモナス キャピエ	4		4				2						1		1		4	
カンピロバクター - ジェジュニ	24		24	1						1		5	8	5	1	2	23	
カンピロバクター - コリ	4		3							1	1	2					4	
黄色ブドウ球菌	2		13									1					1	
A型ウエルシュ菌	19																	
セレウス菌			1								2						2	
赤痢菌ソルネ							1										1	
レンサ球菌A群	31		26	1	4	5	5	3	2		1	2	1	7	4		35	
レンサ球菌B群	1																	
レンサ球菌								1									1	
肺炎球菌			3				1				1						2	
百日咳菌	7		3															
レジオネラ ニューモフィラ	4									1							1	
インフルエンザ菌	2		4		1		1								1		3	
淋菌												1					1	
マイコプラズマ			7								3		1	2	1	1	8	
計	122	1	138	4	5	13	10	4	5	7	21	19	15	11	8		122	

4 - 3 横浜市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計							
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者						
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者				
腸管出血性大腸菌(EHEC)	63	1	86	6	3	2	1	3	3	9	20	11	10	2	3	73								
毒素原性大腸菌(ETEC)	12	1	8	6				1	1	2	1	1				5	1							
組織侵入性大腸菌	5																							
病原血清型大腸菌(EPEC)	1		6		1	1		2	1	1			2	1	2	11								
チフス菌	4	4						1			1	1				3	1							
パラチフス A菌	4	4	3	3					1	1		1	1			2	2							
サルモネラ 04群	2		1					1	1	1						3								
サルモネラ 07群	8		1	2	2					1				1	1	7								
サルモネラ 08群			2					1								1								
サルモネラ 09群	2		1				1				1					2								
サルモネラ 01,3,19群										1						1								
リステリア	1																							
コレラ菌	1	1	1	1																				
コレラ菌 non-01 & 0139	1		2																					
腸炎ビブリオ	2		1																					
カンピロバクタ - ジェジュニ	73		39			7		3	5		2	2			1	20								
カンピロバクタ - コリ	1		4																					
黄色ブドウ球菌	48		3		2				3		5				1	11								
A型ウエルシュ菌	11		11																					
破傷風菌																1	1							
セレウス菌	4								1			5				1	7							
赤痢菌	3	1	2	1	1	1			1	1		1	1			3	3							
赤痢菌	1	1																						
赤痢菌ソルネ	9	4	11	8				1	1			1	1	3	1	5	3							
赤痢菌				1	1											1	1							
レンサ球菌A群	50		54	3	4	5	5	6	18	4	5	4	2	9	6	71								
レンサ球菌B群			1																					
レンサ球菌	1									1						1								
レンサ球菌									2							2								
肺炎球菌	1		1																					
エンテロコッカス フェーカリス			1																					
エンテロコッカス フェシウム	1		1	1						1						4	6							
エンテロコッカス カセリフラブス							1										1							
ウルセランス									1								1							
百日咳菌			1																					
レジオネラ	5		3								2	1	1		1	5								
インフルエンザ菌	2		1																					
髄膜炎菌							1										1							
計	316	17	245	19	14	2	12	16	8	19	2	40	2	18	37	1	28	3	19	1	15	18	244	11

4 - 4 川崎市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
毒素原性大腸菌 (ETEC)	2											1						1	
病原血清型大腸菌 (EPEC)	6		4		1							1					1	3	
サルモネラ 04群	5		1									1						1	
サルモネラ 07群	1		2																
サルモネラ 09群	5		3																
腸炎ビブリオ			1																
カンピロバクタ - ジェジュニ	51		28			2	4	4	3	3	1	2	1	3	8	4	4	35	
カンピロバクタ - コリ														1	1			2	
レンサ球菌A群	3		2						1	2				1				4	
計	73		41		1	2	4	4	4	5	2	4	1	5	9	5	5	46	

4 - 5 相模原市衛生試験所

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌 (EHEC)			3									2	4					6	
サルモネラ 04群			12																
サルモネラ 07群	1																		
サルモネラ 09群			1									1						1	
カンピロバクタ - ジェジュニ	10		26						3					6	1		1	11	
カンピロバクタ - コリ	1		2																
カンピロバクタ -			1							1								1	
黄色ブドウ球菌	6				3						3	1					1	8	
A型ウエルシュ菌	1																1	1	
セレウス菌	4																		
レンサ球菌A群	18		1							1								1	
バラ百日咳			5																
計	41		51		3				3	2	5	6	6	1		3	3	29	

4 - 6 横須賀市健康安全科学センター

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	4		3									2	3					5	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1	1																	
病原血清型大腸菌(EPEC)	2		7				1											1	
サルモネラ 04群	1		1																
サルモネラ 07群	1		3																
サルモネラ 09群	2		1											1				1	
コレラ菌 (CT(-))			1	1															
コレラ菌 non-01 & 0139 (CT(-))			1					1	1									1	1
エロモナス キャピエ									1									1	
カンピロバクタ - ジェジュニ	8		4				2											2	
黄色ブドウ球菌	3		2		1			1	1									3	
A型ウエルシュ菌	2		18																
セレウス菌	6		3																
バシラス	2										1							1	
赤痢菌フレキシネル	1	1																	
赤痢菌ソンネ	1		1	1															
結核菌	1																		
ウシ型結核菌			1																
マイコバクテリウム	1																		
計	36	2	46	2		1		3	2	1	2	1	2	3	1			15	1

4 - 7 藤沢市保健所

年・月 菌種・菌型	平成20年		平成21年		平成22年採取月												計			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者	
腸管出血性大腸菌(EHEC)	25										4	2						6		
毒素原性大腸菌(ETEC)	1												5					5		
サルモネラ 08群	1																			
サルモネラ 09群	1																			
腸炎ピブリオ			2								1							1		
エロモナス キャピエ	1																			
カンピロバクタ - ジェジュニ	13		5					1					1	2				4		
カンピロバクタ - コリ	2																			
A型ウエルシュ菌	6																			
セレウス菌													1					1		
バシラス	1																			
赤痢菌ソンネ									1								1	1	1	
計	51		7					1			5	2	7	2			1	1	18	1

地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 22 年は 1 年を通じて、明らかな報告数の増加は見られなかった。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2010 年 49 週（12/6～12）に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人に迫る 0.98 人となった後、徐々に報告数が増えて 2011 年 1 週（1/3～9）以降本格的な流行となった。定点あたり報告数のピークは 4 週（1/24～30）の 38.57 人であった。その後、患者数は減少傾向となり、12 週（3/21～27）に定点あたり報告数が注意報レベルの 10.0 人を、18 週（5/2～8）には 1.0 人を下回ってほぼ終息したと考えられる。

インフルエンザ非流行期における集団発生サーベイランスでは、4 事例（各 1 症例ずつ）についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。その結果、6 月の 2 事例からは AH1pdm、9 月の 2 事例からは A 香港(H3)型が検出された。

重症サーベイランスでは、患者検体 9 例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施し、1 月に AH1pdm が 2 例、2 月に AH1pdm が 2 例と A 香港(H3)型が 3 例検出された。陰性となったのは、2 月と 3 月に 1 例ずつである。

集団かぜ調査は、神奈川県域各保健所及び藤沢市保健所管内の 1 集団ずつを対象とし、10 集団 45 例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは 2010 年 11 月に発生し、AH1pdm が検出された。同月に発生した別の集団からは、1 集団から A 香港(H3)型、1 集団からは AH1pdm と B 型の両方が検出され、陰性が 1 集団あった。AH1pdm と B 型の両方が検出された集団では、3 例中 1 例は AH1pdm のみが検出され、2 例で重複感染が疑われた。12 月は A 香港(H3)型と B 型が 1 集団ずつ、2011 年 1 月は AH1pdm が 3 集団と B 型が 1 集団であった。

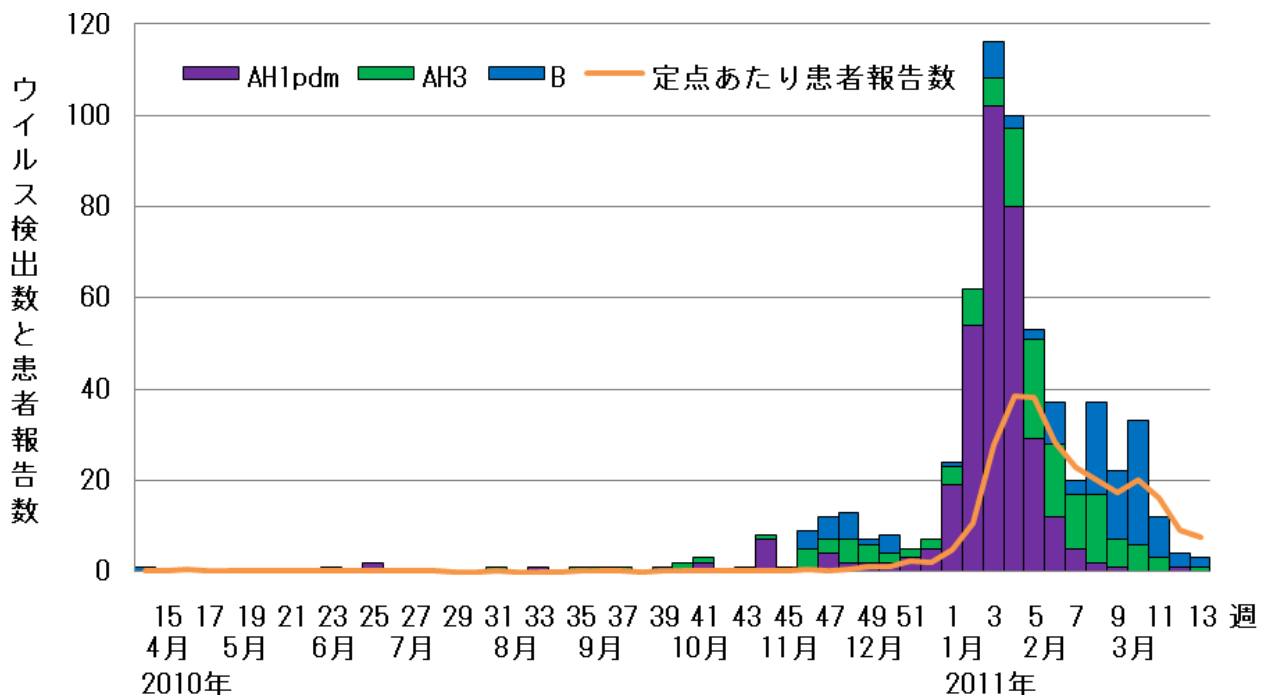
感染症発生動向調査病原体定点からの依頼検体 644 例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出を実施し、一部検体についてはウイルス分離を実施した。2010 年 4 月～9 月には 7 例の検査を行い、AH1pdm が 1 例、A 香港(H3)型が 2 例、B 型が 2 例検出された。10 月～12 月には 58 例の検査を行い、AH1pdm が 19 例、A 香港(H3)型が 19 例、B 型が 15 例検出された。2011 年 1 月～3 月には 579 例の検査を行い、AH1pdm が 292 例、A 香港(H3)型が 116 例、B 型が 97 例検出された。また、1 月に採取された 1 例は、AH1pdm と A 香港(H3)型の両方の遺伝子が検出され重複感染が疑われた。（図 1）

インフルエンザ分離株の抗原性の変異を HI 試験の成績から見ると、AH1pdm(73 株)は、ワクチン株(A/カリフォルニア/7/2009)標準抗血清のホモ価(1280HI)と比較して同等～2 倍差が 4%、4 倍差が 18%、8 倍差が 60%、16 倍差以上が 18%であった。A 香港(H3)型(60 株)は、ワクチン株(A/ビクトリア/210/2009)標準抗血清のホモ価(640HI)と比較して、同等～2 倍差が 25%、4 倍差が 55%、8 倍差が 20%であった。B 型分離株のうち 4 株が山形系統、36 株がワクチン株(B/ブリスベン/60/2008)と同じビクトリア系統であった。山形系統株は、代表株(B/バングラデシュ/3333/2007)標準抗血清のホモ価(640HI)と比較して、8～16 倍差を示した。ビクトリア系統株は、ワクチン株標準抗血清のホモ価(640HI)と比較して、同等～2 倍差が 64%、4 倍差が 11%、8 倍差を示す株が 8%、16 倍差以上を示す株が 17%であった。

AH1pdm 分離株 67 株について、NA 遺伝子の H275Y オセルタミビル耐性マーカーの有無を調査したところ、2 株の耐性株が検出された。これら 2 株の検体採取日は共に 2 月であるが、発症日が 2 週間離れており、医療機関、居住地が異なっているため、両者に関連性はないと考えられた。

本シーズンは、流行前半は AH1pdm と A 香港(H3)型と B 型の 3 種類のウイルスが混在した状況であったが、ピーク時には AH1pdm が主流となり、流行後半は AH1pdm が減って、A 香港(H3)型と B 型が増えた。検出されたウイルスの内訳は、AH1pdm が 336 例 (55%)、A 香港(H3)型が 148 例 (24%)、B 型が 125 例 (21%) であった。本シーズン中における AH1pdm の動向は、これまでの季節性ウイルスと特に異なる様子は確認されなかった。また、神奈川県域で初めて AH1pdm のオセルタミビル耐性株が検出されたが、その後耐性株による市中流行への影響は確認されていない。今後は、薬剤耐性株の動向と共に流行ウイルスの病原性の変化に注目しながら、監視を続けていく必要があると考える。

図 1 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移



(渡邊寿美、齋藤隆行、近藤真規子、古屋由美子)

横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

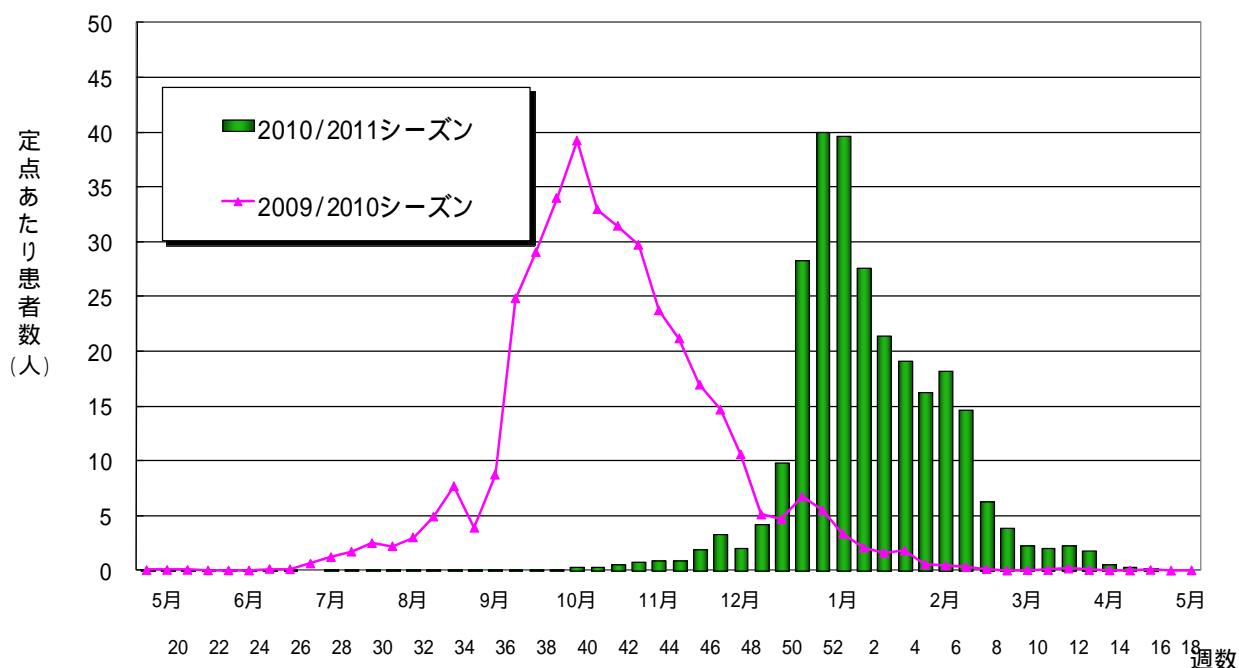
ブタ由来 AH1N1 インフルエンザ(以下 AH1pdm)ウイルスによる第 1 波のパンデミック流行後、国内では引き続き、病原体定点サーベイランス、クラスターサーベイランス(集団かぜ調査)、入院・重症サーベイランスおよび AH1pdm ウイルス分離株に対して抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスが実施された。各調査期間の検査合計は 723 件で、AH1pdm ウイルス 139 件、AH3 型ウイルス 107 件、A 型ウイルス(型別不明)2 件、B 型ウイルス 73 件が分離・検出された(表 1)。

表1 インフルエンザウイルス分離および遺伝子検査結果

	検体数	AH1pdm	季節性AH3型	A型/ 型別不明	季節性B型
病原体定点調査	573	76	57	0	59
クラスターサーベイランス (集団かぜ調査)	79	23	31	2	10
入院・重症サーベイランス	66	36	19	0	4
その他 (依頼)	7	5	2	0	0
合計	725	140	109	2	73

感染症発生動向調査における平成22年6月から平成23年5月までのインフルエンザ様疾患患者数は39,157人と、昨シーズン同期間における52,875人を下回り、2008/2009シーズンの37,088人とほぼ同規模であった。定点あたり患者数は12月第50週に、流行の目安となる定点あたり1人を超え、1月第4週では40.0と最大の報告数となった。2月第9週までは緩やかに患者数が減少したが、3月第10週に18.8とわずかに上昇し、5月第18週に定点あたり1人を下回った(図1)。

図1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数



集団発生を監視するクラスターサーベイランスにおいては、平成22年8月26日(第34週)に都筑区の幼稚園、8月29日(第34週)に緑区の保育園から非流行期の報告があり、前者はAH1pdmウイルス、後者はAH3型ウイルスが分離・検出された。その後、流行期に入った11月(第46週)には金沢区の小学校で集団かぜの初発が報告され、B型ウイルスが分離された。12月24日以降は通常の集団かぜ調査に移行し、年明け後は1月第3週に市内18区中8区に発生がみられピークを

示した。終息までの発生数は 18 区 500 施設 582 学級であった。検査依頼のあった 20 集団 79 人についてウイルス学的調査を実施し、10 集団は AH3 型ウイルス、6 集団は AH1pdm ウイルス、2 集団は B 型ウイルス、1 集団は AH1pdm ウイルスと AH3 型ウイルス、1 集団は AH3 型ウイルスと AH1pdm ウイルス（重複感染）、B 型ウイルスが分離・検出された（表 2）。

表 2 集団かぜ調査の検査

発生年月日	週	区	施設	ウイルス分離			遺伝子検査			総合判定
				検体数	分離株数	ウイルス型	分離陰性 検体数	判定数	HA遺伝子	
平成22年 8/26	第34週	都筑	幼稚園	4	2	AH1pdm	2	1	AH1pdm	AH1pdm
8/26	第34週	緑	保育園	4	2	AH3	2	1	AH3	AH3
11/16	第46週	金沢	小学校	5	3	B	2	0	陰性	B
11/24	第47週	泉	幼稚園	2	1	AH3	1	0	陰性	AH3
11/24	第47週	都筑	幼稚園	3	1	AH3	2	0	陰性	AH3
12/2	第48週	戸塚	保育園	4	1	AH3	2	0	陰性	AH3
12/3	第48週	瀬谷	小学校	5	3	AH3	2	0	陰性	AH3
12/20	第51週	栄	中学校	3	3	B	-	-	-	B
12/22	第51週	青葉	保育園	2	1	AH3	1	1	A(亜型不明)	AH3
平成23年 1/5	第1週	緑	老健施設 職員	5 3	0 1	- AH1pdm	5 2	3 2	AH3 AH1pdm	AH3 AH1pdm
1/17	第3週	南	小学校	5	4	AH3	1	1	AH3	AH3
1/17	第3週	神奈川	小学校	5	2	AH3	3	1	AH3	AH3
1/17	第3週	磯子	小学校	5	4	AH1pdm	1	1	AH1pdm	AH1pdm
1/18	第3週	鶴見	小学校	5	4	AH3	1	1	AH3	AH3
1/18	第3週	港南	小学校	5	4	AH3	1	0	陰性	AH3
1/19	第3週	中	幼稚園	2	2	AH1pdm	-	-	-	AH1pdm
1/19	第3週	保土ヶ谷	保育園	3	3	AH1pdm	-	-	-	AH1pdm
1/21	第3週	旭	幼稚園	2	1	AH1pdm	1	1	A(亜型不明)	AH1pdm
1/24	第4週	西	小学校	2	2	AH1pdm	-	-	-	AH1pdm
1/25	第4週	港北	小学校	4	4	B	-	-	-	B
				1	1	AH3	-	(1)	(AH1pdm)	AH3/AH1pdm
合計		18区		79	49	AH1pdm 15 AH3 24 B 10	29	13	AH1pdm 4(1) AH3 7 A(亜型不明) 2	

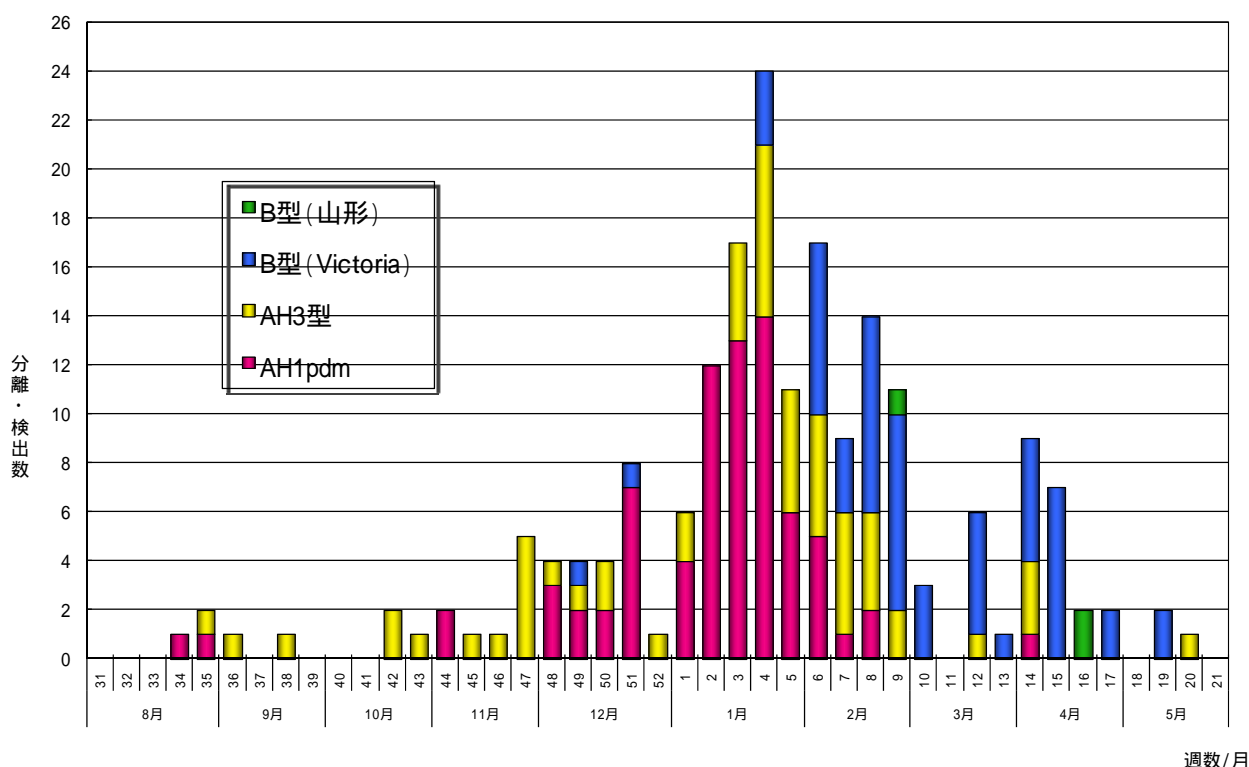
*遺伝子検査のうち()内は重複感染

入院・重症サーベイランスにおいては、平成 22 年 8 月から平成 23 年 5 月までの 10 ヶ月間に 64 件を検査した。8 月と 9 月の 5 事例のうち 4 件は輸入例で、AH1pdm ウイルスと AH3 型ウイルスがそれぞれ 2 株分離された。検査のピークは 1 月第 5 週で、分離・検出されたウイルスは AH1pdm ウイルス 34 件、AH3 型ウイルス 17 件、B 型ウイルス 3 件、AH1 p d m ウイルスと B 型ウイルスとの重複感染が 1 件であった。ウイルスを確定した重症例は、脳症 6 例（AH1 p d m ウイルス 2 件、AH3 型ウイルス 2 件、B 型ウイルス 1 件、AH1 p d m ウイルスと AH3 型ウイルスとの重複感染が 1 件）、肺炎 9 例（AH1 p d m ウイルス 7 件、AH3 型ウイルス 2 件）、心筋炎 1 例（AH1 p d m ウイルス）で、このうち死亡例は AH1 p d m ウイルスが分離された肺炎の 1 例であった。

病原体定点ウイルス調査においては、平成 22 年 6 月から平成 23 年 5 月までの 12 カ月間に 573 件（鼻咽頭検体 497 件、便由来検体 42 件、気管支吸引液 5 件、うがい液 3 件、その他 4 件、不明 22 件）を検査し、AH1pdm ウイルス 76 件、AH3 型ウイルス 57 件、B 型ウイルス 59 件が分離・検出された。このうち、

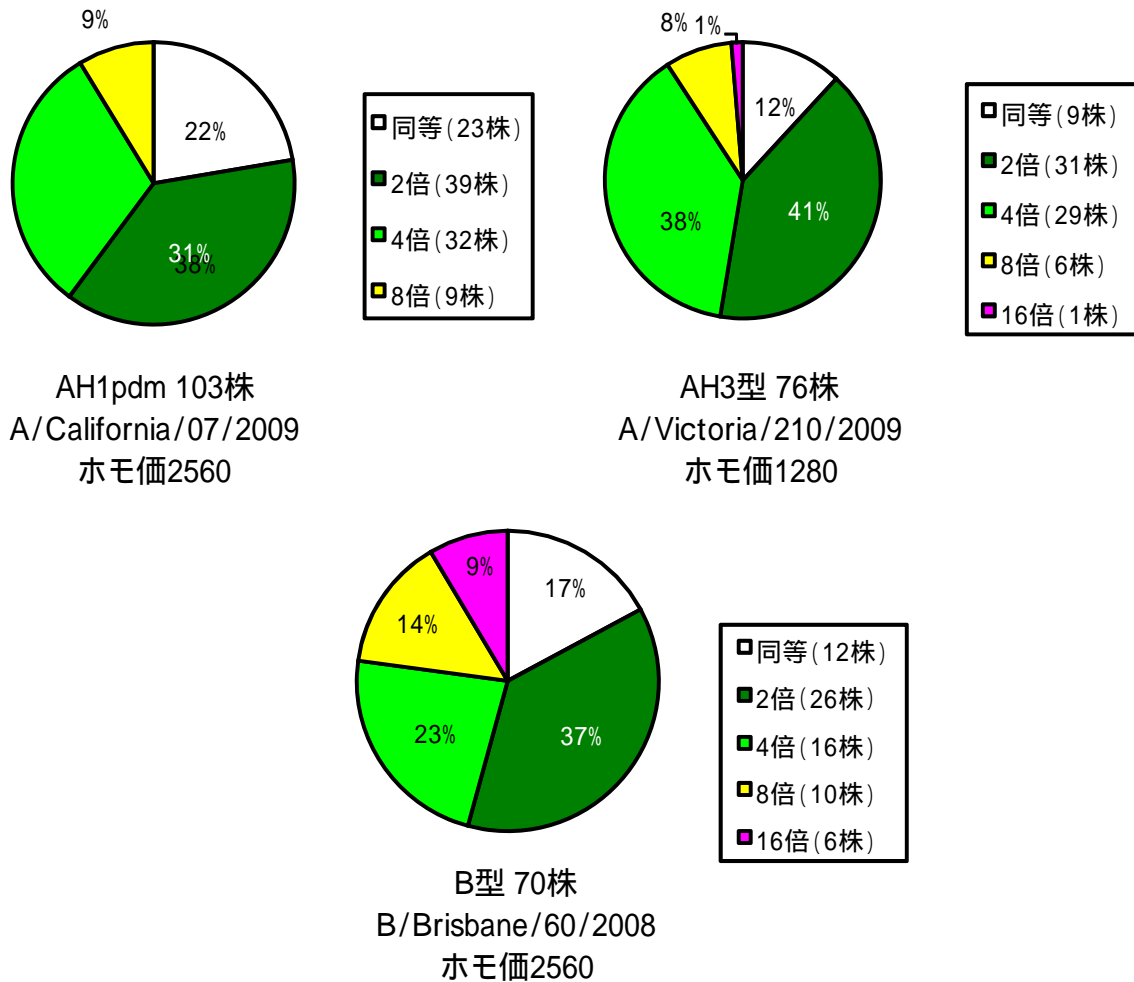
AH1pdm ウイルスと AH3 型ウイルスとの重感染は 6 件であった。昨シーズンの新型インフルエンザ第 1 波の流行後、8 月第 34 週に瀬谷区の定点から AH1pdm ウイルスの遺伝子が検出され、第 35 週に戸塚区の定点から AH3 型ウイルスがはじめて分離された。AH1pdm ウイルスについては 11 月から分離され始め、1 月第 4 週をピークに 2 月第 8 週まで分離・検出が続いたが、その後、4 月第 14 週に 1 件遺伝子が検出されたのみであった。AH3 型ウイルスは 9 月以降 5 月まで長期間分離・検出が続き、1 月から 2 月に緩やかなピークがみられた。一方、B 型ウイルスは 12 月第 49 週に港北区の定点から Victoria 系統の B 型ウイルスがはじめて分離され、その後、2 月第 9 週をピークに 5 月まで分離・検出が続いた。また、山形系統の B 型ウイルスが 2 月第 9 週に中区の定点から 1 株分離され、4 月第 16 週には青葉区の定点からも 2 株分離された(図 2)。

図 2 病原体定点等分離・検出状況



全調査で分離したウイルスの抗原性状は、AH1pdm ウイルスでは 91.3% (103 株中 94 株) がワクチン株 A/California/07/2009 と、AH3 型ウイルスは 90.8%(76 株中 69 株) がワクチン株 A/Victoria/210/2009 と HI 価が類似していた。B 型ウイルスでは、Victoria 系統のウイルスは 77.1%(54 株中 70 株) がワクチン株である B/Brisbane/60/2008 と類似していたが、HI 価で 8 倍以上差があるウイルスが 22.9% (16 株) にみられた。山形系統の 3 株はレファレンス株である B/Bangladesh/3333/2007 と同等の性状であった (図 3)。

図3 2010/2011 シーズン分離株の抗原性状（ワクチン株に対する HI 価）



抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは入院・重症サーベイランスで分離した2株と集団調査で分離した1株のAH1pdmウイルスでH275Y変異が、集団調査で分離した1株のAH3型ウイルスでR292K変異が見られた（横浜独自調査）。国立感染症研究所の薬剤感受性試験で2株はオセルタミビル耐性、1株はペラミビル耐性であることが確認された。残り1株は薬剤感受性試験では耐性を確認できなかったが、耐性株より感受性株の割合が多かったためと考えられた。患者はいずれも治療薬内服後であり、薬剤による選択と考えられ、出現頻度はAH1pdmウイルスで3.1%、AH3型ウイルスで1.2%であった。

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行はAH1pdmウイルス、AH3型ウイルス1、B型ウイルスによる混合流行であった。AH1pdmウイルスとAH3型ウイルスはワクチン株類似ウイルスであったが、抗原変異が進んだB型ウイルスも分離された。抗インフルエンザ薬治療による耐性株は低頻度でみられたが、市中流行株への拡がりはみられなかった。

(川上千春、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、野口有三、池淵守、蔵田英志)

川崎市のインフルエンザの動向

川崎市衛生研究所

・ 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図1)によると、22年12月の第50週に定点あたりの患者数が1.0人を超えた。しだいに患者数は増加し、23年1月の第4週に定点あたりの患者数が35.87人とピークを迎えた。その後患者数は減少したが、3月の第11週までは10人以上の値が続き、12週以降10人以下に下がった。定点あたりの患者数が1.0人以下になったのは5月の第18週になってからである。

・ インフルエンザウイルス分離状況

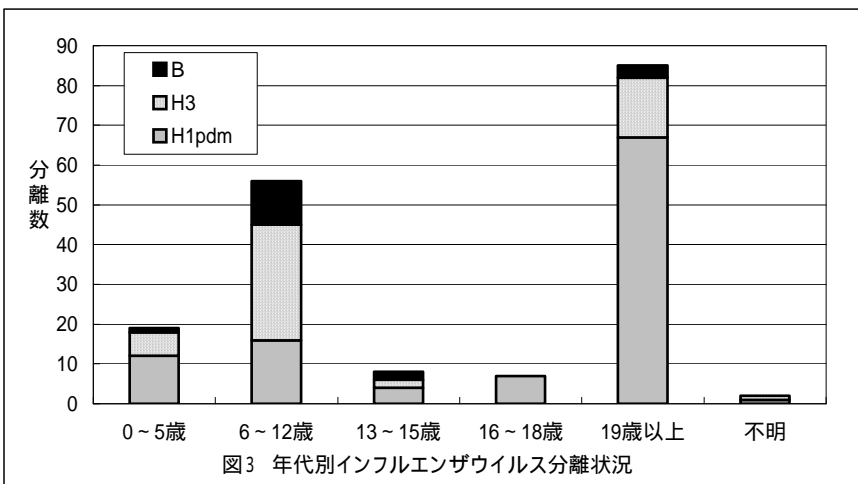
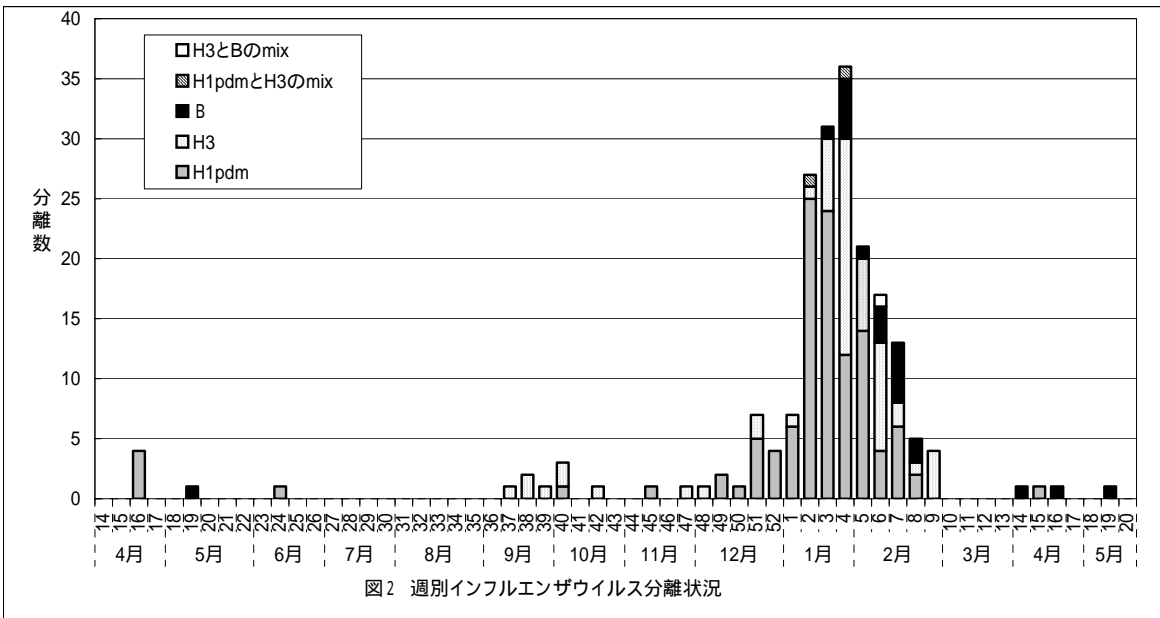
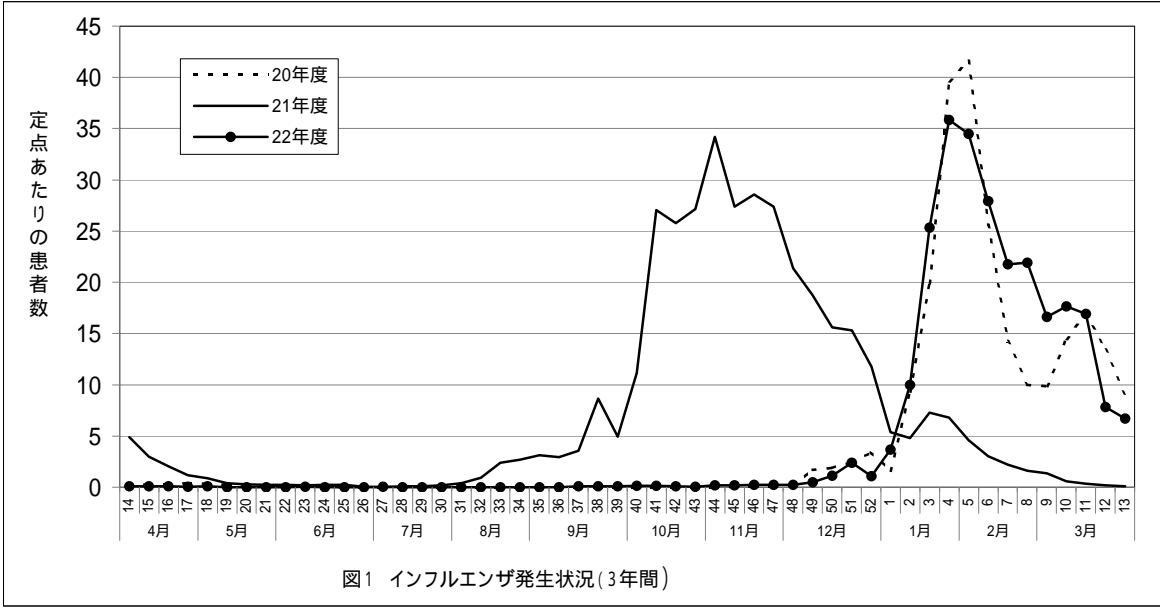
平成22年度から23年度4月にかけて、合計219例のインフルエンザ様疾患および肺炎等の患者の咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液が搬入され、そのうち192例(87.7%)からインフルエンザウイルスが分離された。血清型別では、新型AH1pdmが112株、A香港型(H3N2)が56株、B型が21株、新型AH1pdmとA香港型の混合感染2株、A香港型とB型の混合感染1株が分離され、新型AH1pdmが全体の58.3%、A香港型が29.2%を占めた。今回新型AH1pdm、A香港型の中には、細胞培養でウイルスの増殖が確認されていても赤血球凝集を示さない株が23件あったため、その株については遺伝子検査により型別を行った。また、B型はすべてB/プリズベン/60/2008抗血清に反応するビクトリア系統の株であった。赤血球凝集抑制(HI)試験による抗原解析が可能であった株については、新型AH1pdm、A香港型、B型のHI値はワクチン株とほぼ一致しており、抗原性の変化はみられなかった。

平成22年度は、インフルエンザのシーズンである秋以降、9月の第37週にA香港型が分離され、10月の第40週に新型AH1pdmが分離された。その後A香港型、新型AH1pdmともに分離数が増加し、A香港型、新型AH1pdm、B型の混合流行であった。分離数のピークは1月第4週の36株(新型AH1pdm12株、A香港型18株、新型AH1pdmとA香港型の混合1株、B型5株)であった。

なお新型AH1pdmにおいて、30株について薬剤耐性マーカーとなるノイラミニダーゼ遺伝子(H275Y)の解析を行い、すべてオセルタミビル感受性株であった。

年代別の分離状況ではウイルスのタイプにより差が見られた(図3)。成人層では78%が新型AH1pdmであったが、6~12歳の層では新型AH1pdm29%、A香港型51%、B型20%であった。21年度に新型AH1pdmに感染した患者が多い層ではA香港型、B型が流行したと考えられた。

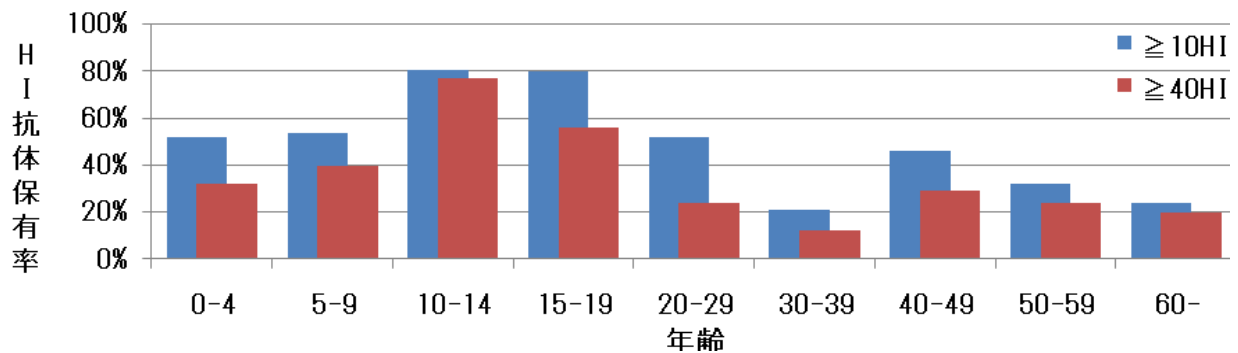
(石丸陽子、清水英明)



2010年7～8月に採取された0歳以上の県民225名(0～4、5～9、10～14、15～19、20～29、30～39、40～49、50～59、60歳以上の9区分の年齢群各25名ずつ、ただし、5～9歳と10～14歳は26名ずつ、30～39歳と40～49歳は24名ずつ)の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/ビクトリア/210/2009、B/プリズベン/60/2008、B/フロリダ/4/2006の4種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

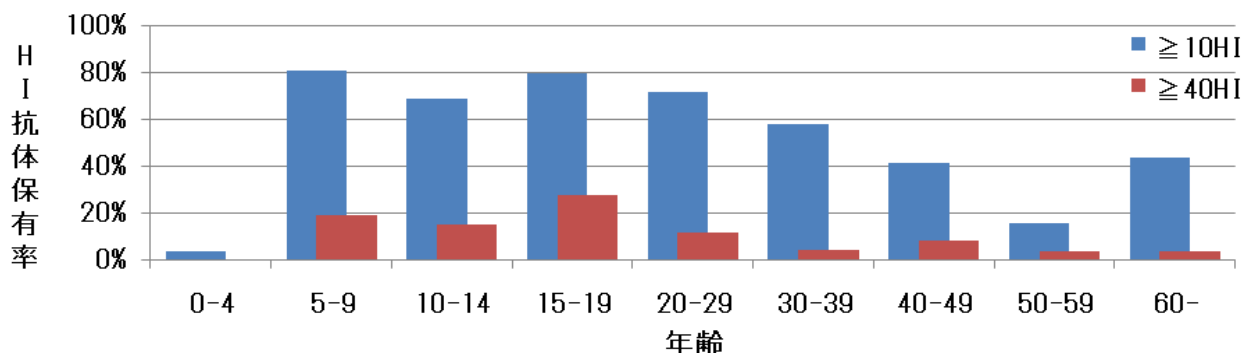
A/カリフォルニア/7/2009は、前シーズンからAH1pdmのワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が10～14歳の80.8%、最低が30～39歳の10.8%、40HI価でみると最高が10～14歳の76.9%、最低が30～39歳の12.5%であった。40HI価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっており、特に、前年に抗体保有率が0%であった0～14歳の各年齢群で30%を超えて20歳以上の成人層よりも高くなっていったのが特徴であった。また、全年齢群における平均抗体保有率(40HI価以上)も34.7%と使用抗原4種類の中で最も高く、前年の流行を反映していると考えられた。(図1)

図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率



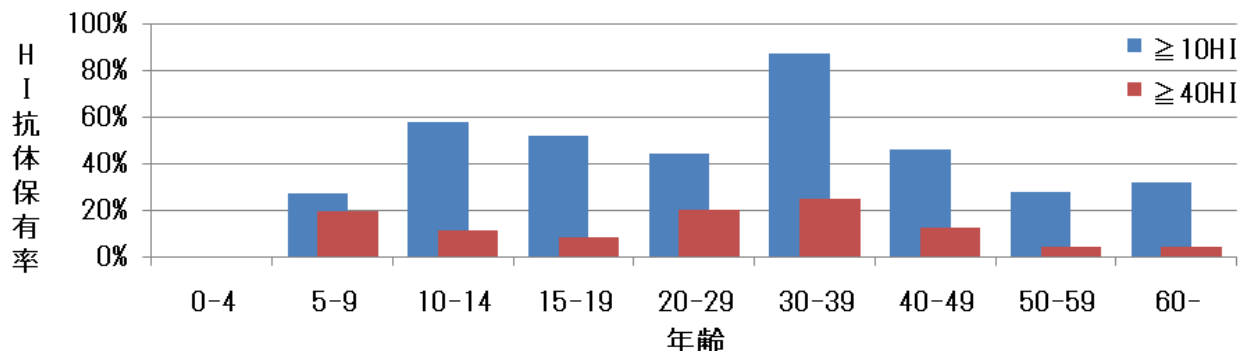
A/ビクトリア/210/2009は、本シーズンからAH3型のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が5～9歳の80.8%、最低が0～4歳の4.0%、40HI価でみると最高が15～19歳の28.0%、最低が0～4歳の0.0%であった。40HI価以上の抗体保有率は、前年調査対象株(A/ウルグアイ/716/2007)に対する値よりも全体的に低くなっており、また、全年齢群における平均抗体保有率(40HI価以上)は10.7%と使用抗原4種類の中で最も低かった。(図2)

図2 A/ビクトリア/210/2009 抗体保有率



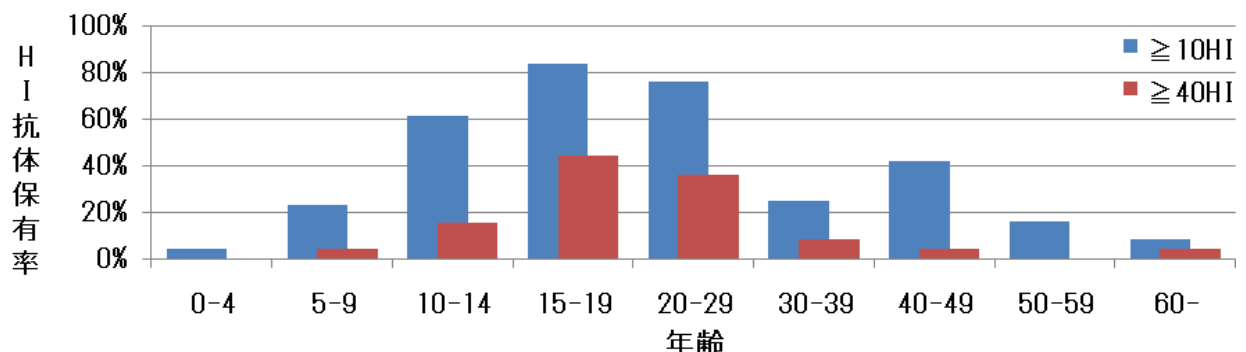
B/ブリスベン/60/2008 は、昨シーズンから B 型のワクチン株として採用されている株であり、“ピクトリア系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 30～39 歳の 87.5%、最低が 0～4 歳 0.0%、40HI 価でみると最高が 30～39 歳の 25.0%、最低が 0～4 歳 0.0%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に低くなっており、全年齢群における平均抗体保有率（40HI 価以上）は 11.6%であった。また、前年は抗体保有率のピークが 15～19 歳にあったが、本シーズンは 30～39 歳にあった。（図 3）

図 3 B/ブリスベン/60/2008 抗体保有率



B/フロリダ/4/2006 は、2008/2009 シーズンに B 型のワクチン株として採用された株であり、“山形系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 15～19 歳の 84.0%、最低が 0～4 歳の 4.0%、40HI 価でみると最高が 15～19 歳の 44.0%、最低が 0～4 歳の 0.0%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に低くなっており、全年齢群における平均抗体保有率（40HI 価以上）は 12.9%であった。（図 4）

図 4 B/フロリダ/4/2006 抗体保有率



神奈川県域における インフルエンザの前シーズンの流行は AH1pdm の単独流行であり、AH3 型や B 型の流行は確認されなかった。そのため、他の型に比べて AH1pdm に対する抗体保有率が高い傾向にあったと考えられた。40HI 価以上の抗体保有率が比較的低い（25%未満）年齢層では、インフルエンザウイルス各型に対する感受性者が多くいると考えられ、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

（渡邊寿美、古屋由美子）

(2) HIV/エイズ

平成 22 年の神奈川県 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 78 人であり、感染者、患者ともにわずかに減少した。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況
神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を行っている。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 11 年 8 月からは厚生労働省「HIV 検査体制研究班」の協力により、夜間検査を行っている大和保健福祉事務所の検体について核酸増幅スクリーニング（NAT）検査を実施している。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センターと略）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚保健福祉事務所、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原各保健福祉事務所においても即日検査を開始した。また、平成 19 年 11 月から秦野保健福祉事務所において、HIV 検査受検者で性感染症検査を希望する人に対し、梅毒抗体検査、性器クラミジア抗体検査を実施している。

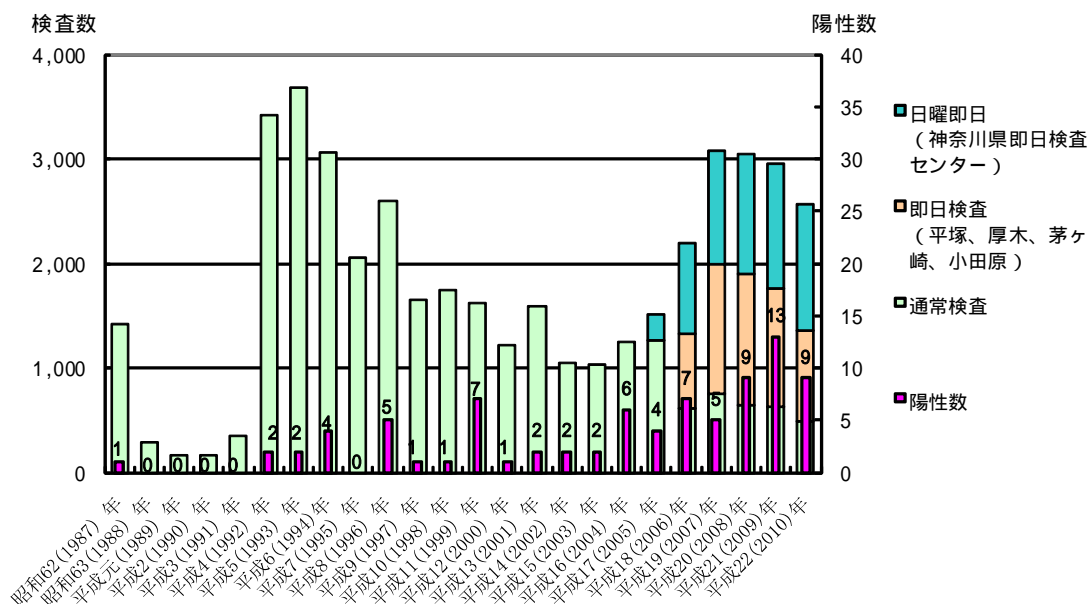
HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降、当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の保健福祉事務所への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 20 年は 3,047 件、平成 21 年は 2,951 件、平成 22 年は 2,572 件と、ここ数年減少傾向にある。平成 22 年の検査種類別による検査数は、日曜即日検査は 1,216 件、保健福祉事務所の即日検査は 872 件、大和保健福祉事務所の平日及び夜間通常検査は 331 件、その他の保健所の平日通常検査では 153 件であった（表 1）。前年と比較し、即日検査センターは 2%増となったが、夜間検査を実施している大和保健福祉事務所では 19%減、即日検査を実施している保健福祉事務所では 23%減、通常検査を実施している保健福祉事務所では 28%減となった。HIV 陽性数は 9 例（陽性率 0.3%）であり、前年より若干減少した。平成 22 年の月別の検査数推移は、保健所では 9 月以外は前年の検査数を下回ったが（図 2-1）、即日検査センターでは、2 月と 3 月が前年を大きく下回っただけで、その他の月はほぼ同数あるいは上回っていた（図 2-2）。保健所においては、平成 21 年は新型インフルエンザの流行により HIV 検査数が平成 20 年 5 - 12 月比で 76.8%（23%減）であったが、平成 22 年ではさらに平成 21 年 5 - 12 月比で 8%減少しており、流行が終息した後もその影響の余波が続いていたと推測された（表 2）。

HIV 陽性例の型別を調べたところ、すべて HIV-1 型であった。性別及び国籍は、男性が 6 例ですべて日本国籍、女性は 3 例ですべて外国籍であった。HIV-1 型サブタイプ型別は、男性ではサブタイプ B が 5 例、CRF01_AE（サブタイプ A/E）が 1 例、女性ではサブタイプ B が 1 例、サブタイプ A/E が 2 例であった（表 3）。主として、サブタイプ B は欧米型として知られており、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。また、サブタイプ A/E 型はタイ型として知られており、異性間の性的接触や外国籍感染者に多く検出されることが分かっている。

平成 22 年の厚生労働省エイズ動向委員会の報告によると、全国の HIV 感染者/エイズ患者報告数は日本人男性が全体の 89%を占めており、新規 HIV 感染者の感染経路別では同性間性的接触によるものが 69%

であった。また、神奈川県域では例年、HIV 陽性者の約 3 割が外国籍となっている。全国的に保健所での HIV 検査数が減少しているが、早期発見・早期治療は感染者の予後を改善し、社会においても感染拡大の防止につながるため、神奈川県ではさらなる HIV 検査体制の強化とともに、男性同性間性的接触者および外国籍者等を中心とした検査の普及啓発活動を積極的に行っていく必要があると考える。

(佐野貴子、近藤真規子、渡邊寿美、齋藤隆行、古屋由美子)



*相模原は平成12年4月から、藤沢は平成18年4月から保健所設置市となった。
 *津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
 *神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚保健福祉事務所は平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原保健福祉事務所は平成18年6月から即日検査を開始した。

図1 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市）でのHIV検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV検査種類別による検査数、陽性数（平成20-22年）

検査種類別	平成20年			平成21年			平成22年		
	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)
日曜即日検査 (即日検査センター)	1,146	4	0.3%	1,198	6	0.5%	1,216	5	0.4%
即日検査* (4保健福祉事務所)	1,258	2	0.2%	1,132	2	0.2%	872	4	0.5%
平日・夜間通常検査 (大和保健福祉事務所)	393	3	0.8%	409	3	0.7%	331	0	0.0%
平日通常検査** (4保健福祉事務所)	250	0	0.0%	212	2	0.9%	153	0	0.0%
合計	3,047	9	0.3%	2,951	13	0.4%	2,572	9	0.3%

*平塚、小田原、茅ヶ崎、厚木保健福祉事務所

**鎌倉、秦野、三崎、足柄上保健福祉事務所

表2 HIV検査機関における新型コロナウイルスの流行の影響

年	集計月	保健所				即日検査センター			
		検査数	前年比	陽性数	陽性率	検査数	前年比	陽性数	陽性率
平成20年	5-12月	1314	-	4	0.30%	771	-	2	0.26%
平成21年		1009	76.8%	6	0.59%	769	99.7%	5	0.65%
平成22年		933	92.5%	3	0.32%	883	115%	4	0.45%
平成20年	1-12月	1901	-	5	0.26%	1146	-	4	0.35%
平成21年		1753	92.2%	7	0.40%	1198	105%	6	0.50%
平成22年		1356	77.4%	4	0.29%	1216	102%	5	0.41%

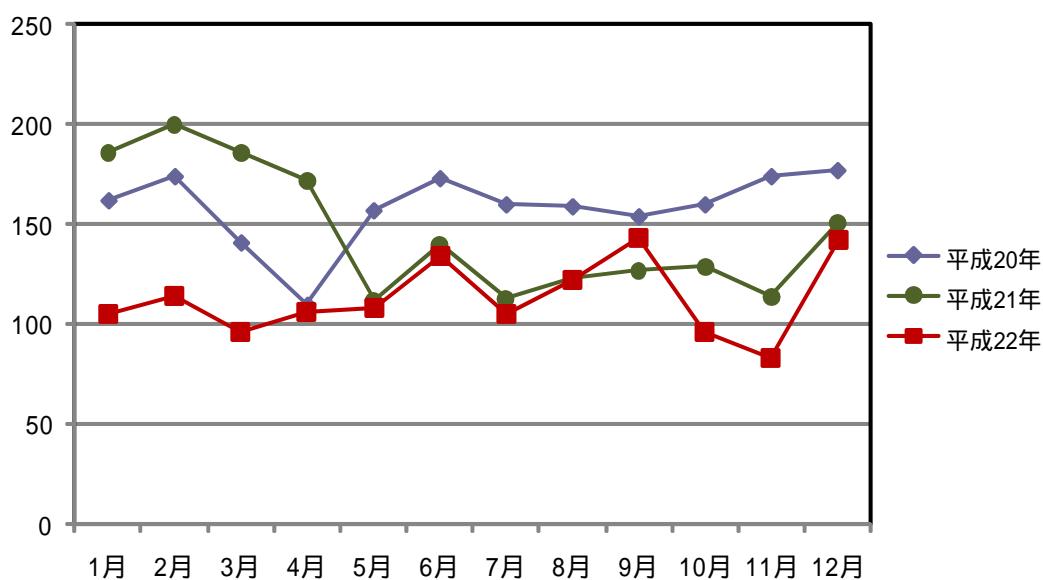


図2-1 保健所における月別検査数推移(平成20-22年)

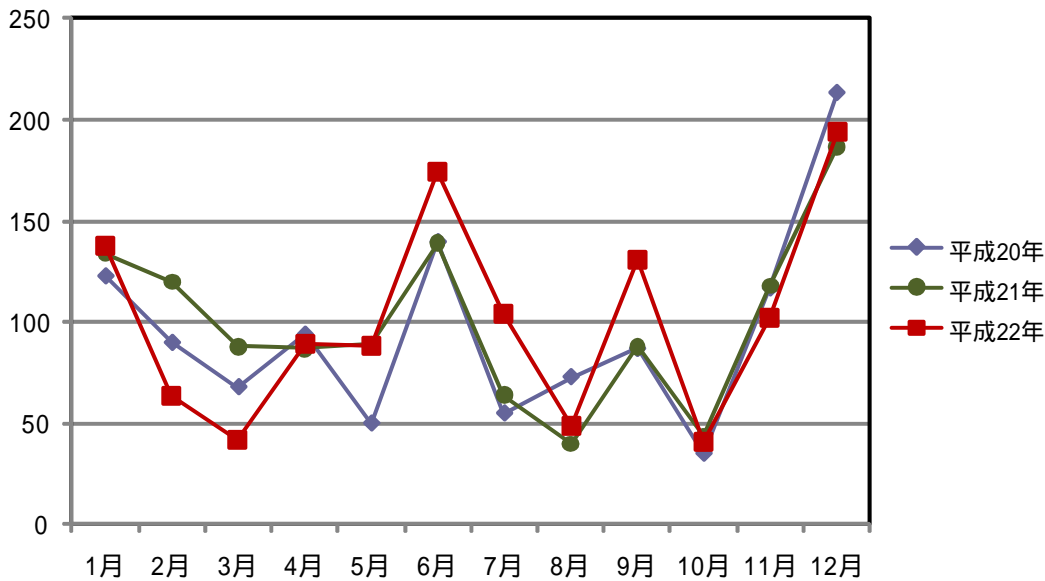


図2-2 即日検査センターにおける月別検査数推移(平成20-22年)

表3 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別(平成18-22年)

陽性数	サブタイプB				サブタイプA/E				不明
	男性		女性		男性		女性		
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	
平成18年	7	5			1			1	
平成19年	5	2			1			1	1
平成20年	9	4		1		1	1	2	
平成21年	13	9				1		1	2
平成22年	9	5		1	1			2	

藤沢市における HIV 即日検査の実施状況

藤沢市保健所

原則週1回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に6月のHIV検査普及週間に平日夜間即日検査、12月の世界エイズデーに合わせて休日の即日検査を各々1回実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗HIV-1及びHIV-2抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成22年の検査数は383件で、内訳は通常即日検査が318件、平日夜間及び休日即日検査が各々32件及び33件であった。判定保留は2件あり、県衛生研究所の精密検査において、2件中1件が陽性と判定された。

(廣井友美、佐藤健、平井有紀、沖津忠行)

表 藤沢市の HIV 即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	318	1	0
2	平日夜間即日検査	32	1	1
3	休日即日検査	33	0	0
	計	383	2	1

(3) ウイルス性感染性胃腸炎

平成 22 年は感染性胃腸炎の神奈川県全体の報告数は第 3 週、第 50 週にピークがみられ、年齢別では 1 歳に報告が多かった。

(3) - 1

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（川崎市・横浜市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、C 群ロタウイルスとした。

検査の結果、305 検体中 157 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出された。検出数は、ノロウイルスが 107 検体、A 群ロタウイルスが 18 検体、アデノウイルスが 10 検体、サポウイルスが 15 検体及びアストロウイルスが 7 検体で、C 群ロタウイルスは検出されなかった。ノロウイルスは各年齢層で検出されていたが、その他のウイルスは、大半が 6 歳以下の小児からの検出であった。

集計を行った平成 22 年 1 月から平成 22 年 12 月では、全ての月でウイルスの検出が認められた。9 月から 11 月はノロウイルスのみの検出であったが、その他の月では 2 種類以上のウイルスが検出された。

ウイルスごとの検出状況をみると、ノロウイルスは春期から夏期には検出数は減少していたものの、5 月及び 8 月を除き年間を通して検出された。ノロウイルスの genogroup（以下、G）をみると、107 例のうち 103 例が G₁、4 例が G₂ で、G₁ と G₂ の同時検出例はなかった。A 群ロタウイルスは冬期から春期にかけて検出が多かった。

（鈴木理恵子、片山 丘、齋藤隆行、古屋由美子）

表1 年齢別ウイルス検出状況（平成22年1月～平成22年12月）

	検体数	陽性数						検出数
		ノロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	221	78	17	7	12	6	0	120
7～12歳	24	10	1	0	0	0	0	11
13～22歳	10	5	0	1	0	0	0	6
23～64歳	43	14	0	2	3	1	0	20
65歳以上	7	0	0	0	0	0	0	0
合計	305	107	18	10	15	7	0	157

表2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
	G ¹⁾	G ²⁾						
平成22年 1月	1	26	1	2	1	0	0	31
2月	1	23	4	1	1	0	0	30
3月	1	4	5	1	0	0	0	11
4月	0	1	4	1	2	2	0	10
5月	0	0	2	3	3	3	0	11
6月	0	1	2	0	4	1	0	8
7月	1	0	0	0	2	1	0	4
8月	0	0	0	2	1	0	0	3
9月	0	3	0	0	0	0	0	3
10月	0	4	0	0	0	0	0	4
11月	0	23	0	0	0	0	0	23
12月	0	18	0	0	1	0	0	19
小計	4	103						
合計	107		18	10	15	7	0	157

1) : genogroup

2) : genogroup

(3) - 2

平成 22 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 89 事例より 59 事例多く 148 事例であり、横浜市が最も多く 129 事例であった。

	平成20年				平成21年				平成22年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	111	692	391	57	61	328	232	71	129	523	381	73
川崎市	9	56	34	61	9	32	24	75	6	33	16	48
相模原市	1	6	6	100	3	20	10	50	1	2	2	100
横須賀市	10	151	106	70	4	42	32	76	2	15	14	93
藤沢市	8	60	37	62	5	28	17	61	5	20	18	90
上記を除く神奈川県	10	74	41	55	7	34	30	88	5	88	33	38
計	149	1039	615	59	89	484	345	71	148	681	464	68

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 5 事例確認された。ノロウイルスが 4 事例より検出され、その遺伝子群は 4 事例すべて G であった。その他に A 群ロタウイルスが 1 事例より検出された。

ノロウイルス以外の集団発生は一昨年がサポウイルス、昨年在 C 群ロタウイルスであり、今年度は A 群ロタウイルスによる集団事例であった。この事例は老人福祉施設での事例で、調査の結果、この施設の洗面所蛇口やトイレの手すりの拭き取り検体からもウイルスが検出された。

（片山 丘、鈴木理恵子、古屋由美子）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群	備考
1	H22. 10	家庭	4	3	3	ノロウイルス	G	
2	H22. 11	保育園	20	29	12	ノロウイルス	G	
3	H22. 12	保育園	36	2	2	ノロウイルス	G	
4	H23. 3	保育園	11	27	10	ノロウイルス	G	
5	H23. 3	施設	4	27	6	A 群ロタウイルス	G 1	
5			75	88	33			

横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 22 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 135 事例であった。ノロウイルスが 124 事例より検出され、その遺伝子群は G が 108 事例、G が 12 事例、G と G の混合事例が 4 事例であり、G が大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にサポウイルスが 5 事例より検出された。

(熊崎真琴、宇宿秀三、池淵 守)

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H22.1	高齢者施設	29	9	7	ノロウイルス	G
2	H22.1	高齢者施設	5	3	3	ノロウイルス	G
3	H22.1	高齢者施設	12	3	3	ノロウイルス	G
4	H22.1	福祉施設	9	2	1	ノロウイルス	G
5	H22.1	小学校	不明	4	3	ノロウイルス	G
6	H22.1	小学校	12	4	4	ノロウイルス	G、G
7	H22.1	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
8	H22.1	福祉施設	4	2	2	ノロウイルス	G
9	H22.1	小学校	6	3	3	ノロウイルス	G
10	H22.1	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G
11	H22.1	病院	31	5	4	ノロウイルス	G
12	H22.1	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	G
13	H22.1	高齢者施設	不明	4	4	ノロウイルス	G
14	H22.1	病院	不明	4	4	ノロウイルス	G
15	H22.1	小学校	7	1	1	ノロウイルス	G
16	H22.1	保育園	19	3	2	ノロウイルス	G
17	H22.2	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	G
18	H22.2	保育園	不明	6	6	ノロウイルス	G、G
19	H22.2	小学校	14	1	1	ノロウイルス	G
20	H22.2	小学校	7	7	4	ノロウイルス	G
21	H22.2	小学校	6	3	3	ノロウイルス	G
22	H22.2	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	G
23	H22.2	小学校	14	6	4	ノロウイルス	G
24	H22.2	高齢者施設	11	2	2	ノロウイルス	G
25	H22.2	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
26	H22.2	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	G
27	H22.2	小学校	35	1	1	ノロウイルス	G
28	H22.2	小学校	不明	8	6	ノロウイルス	G

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
29	H22.2	高齢者施設	20	3	3	ノロウイルス	G
30	H22.2	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
31	H22.2	小学校	不明	5	5	ノロウイルス	G
32	H22.2	小学校	不明	2	1	ノロウイルス	G
33	H22.2	小学校	7	2	2	ノロウイルス	G
34	H22.2	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
35	H22.2	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G
36	H22.2	小学校	不明	5	5	ノロウイルス	G
37	H22.2	高齢者施設	20	3	3	ノロウイルス	G
38	H22.2	高齢者施設	不明	5	3	ノロウイルス	G
39	H22.2	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
40	H22.2	福祉施設	27	5	3	ノロウイルス	G
41	H22.2	福祉施設	17	14	5	ノロウイルス	G
42	H22.3	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G
43	H22.3	高齢者施設	8	3	3	ノロウイルス	G
44	H22.3	小学校	6	3	3	ノロウイルス	G
45	H22.3	小学校	不明	2	1	ノロウイルス	G
46	H22.3	保育園	不明	1	1	ノロウイルス	G
47	H22.4	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	G
48	H22.4	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
49	H22.4	小学校	不明	3	2	ノロウイルス	G
50	H22.4	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G
51	H22.5	小学校	不明	24	12	ノロウイルス	G
52	H22.6	小学校	9	2	2	サボウイルス	
53	H22.6	小学校	6	5	4	ノロウイルス	G
54	H22.7	保育園	11	19	7	ノロウイルス	G
55	H22.10	保育園	12	5	4	ノロウイルス	G
56	H22.11	小学校	15	4	3	ノロウイルス	G
57	H22.11	保育園	111	12	3	ノロウイルス	G
58	H22.11	保育園	9	9	3	ノロウイルス	G
59	H22.11	保育園	14	14	8	ノロウイルス	G
60	H22.11	保育園	17	6	4	ノロウイルス	G
61	H22.11	保育園	14	8	4	ノロウイルス	G
62	H22.11	保育園	13	3	2	ノロウイルス	G
63	H22.11	小学校	19	5	3	ノロウイルス	G
64	H22.11	小学校	13	2	2	ノロウイルス	G
65	H22.11	病院	10	5	4	ノロウイルス	G

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
66	H22.11	小学校	6	2	2	サポウイルス	
67	H22.11	保育園	27	8	5	ノロウイルス	G
68	H22.11	幼稚園	49	3	3	ノロウイルス	G
69	H22.11	その他	10	10	10	ノロウイルス	G
70	H22.11	保育園	19	2	2	ノロウイルス	G
71	H22.11	保育園	17	5	5	ノロウイルス	G
72	H22.11	保育園	19	5	1	ノロウイルス	G
73	H22.11	幼稚園	不明	5	5	ノロウイルス	G
74	H22.11	小学校	10	4	3	ノロウイルス	G
75	H22.11	保育園	12	2	2	ノロウイルス	G
76	H22.11	小学校	10	3	3	ノロウイルス	G
77	H22.11	保育園	10	2	1	ノロウイルス	G
78	H22.11	小学校	5	2	1	ノロウイルス	G
79	H22.11	保育園	12	4	4	ノロウイルス	G
80	H22.12	幼稚園	9	3	1	ノロウイルス	G
81	H22.12	小学校	10	8	5	ノロウイルス	G
82	H22.12	その他	9	2	2	ノロウイルス	G
83	H22.12	小学校	9	2	1	サポウイルス	
84	H22.12	小学校	14	3	2	ノロウイルス	G
85	H22.12	小学校	6	3	3	ノロウイルス	G
86	H22.12	保育園	10	1	1	ノロウイルス	G
87	H22.12	保育園	5	2	1	ノロウイルス	G
88	H22.12	保育園	15	4	4	ノロウイルス	G
89	H22.12	保育園	9	4	4	ノロウイルス	G、G
90	H22.12	保育園	7	4	3	ノロウイルス	G
91	H22.12	小学校	8	1	1	ノロウイルス	G
92	H22.12	小学校	6	3	2	ノロウイルス	G
93	H22.12	小学校	4	3	3	ノロウイルス	G
94	H22.12	保育園	34	3	3	ノロウイルス	G
95	H22.12	保育園	7	4	4	ノロウイルス	G
96	H22.12	保育園	9	3	2	ノロウイルス	G
97	H22.12	保育園	14	1	1	ノロウイルス	G
98	H22.12	保育園	20	1	1	ノロウイルス	G
99	H22.12	保育園	4	2	2	ノロウイルス	G
100	H22.12	保育園	21	1	1	ノロウイルス	G
101	H22.12	保育園	24	1	1	ノロウイルス	G
102	H22.12	保育園	16	3	2	ノロウイルス	G

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
103	H22.12	小学校	7	2	2	ノロウイルス	G
104	H22.12	保育園	25	6	3	ノロウイルス	G
105	H22.12	保育園	33	7	5	ノロウイルス	G
106	H22.12	小学校	19	6	4	ノロウイルス	G、G
107	H22.12	幼稚園	22	2	2	ノロウイルス	G
108	H22.12	小学校	11	3	3	ノロウイルス	G
109	H22.12	保育園	19	2	2	ノロウイルス	G
110	H22.12	小学校	4	2	2	ノロウイルス	G
111	H22.12	保育園	18	3	2	ノロウイルス	G
112	H22.12	高齢者施設	5	5	3	ノロウイルス	G
113	H22.12	小学校	不明	1	1	ノロウイルス	G
114	H22.12	保育園	19	7	2	ノロウイルス	G
115	H22.12	保育園	14	2	1	ノロウイルス	G
116	H22.12	保育園	6	3	3	ノロウイルス	G
117	H22.12	保育園	14	6	2	ノロウイルス	G
118	H22.12	幼稚園	13	5	4	ノロウイルス	G
119	H22.12	保育園	5	6	4	ノロウイルス	G
120	H22.12	小学校	6	3	1	ノロウイルス	G
121	H22.12	保育園	11	3	2	ノロウイルス	G
122	H22.12	保育園	11	8	4	ノロウイルス	G
123	H22.12	小学校	33	3	3	ノロウイルス	G
124	H22.12	小学校	8	1	1	サボウイルス	
125	H22.12	小学校	8	3	3	ノロウイルス	G
126	H22.12	小学校	22	3	3	ノロウイルス	G
127	H22.12	小学校	36	3	2	ノロウイルス	G
128	H22.12	保育園	14	2	1	ノロウイルス	G
129	H22.12	保育園	9	4	4	サボウイルス	
				523	381		

川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市衛生研究所

川崎市ではノロウイルスを原因とした集団胃腸炎が6例発生した。検出された遺伝子群はGが1例、Gが5例であった。
(石丸陽子、清水英明)

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設種別	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H22.1	社会福祉施設	31	6	1	ノロウイルス	G
2	H22.3	小学校	68	9	3	ノロウイルス	G
3	H22.4	小学校	144	1	1	ノロウイルス	G
4	H22.4	小学校	70	9	6	ノロウイルス	G
5	H22.12	老人福祉施設	26	3	3	ノロウイルス	G
6	H22.12	老人福祉施設	43	5	2	ノロウイルス	G
合計			382	33	16		

相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

平成22年1月から12月の間に、ウイルスを原因とした集団感染症として、検査を行ったものはノロウイルスによる感染性胃腸炎が1事例であった。

(植田壽美子、田村有美、笹野亜也子、望月響子、金沢聡子、鷲谷則子)

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス
1	H22.12	保育園	23	2	2	ノロウイルスG

横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではノロウイルスが原因の集団胃腸炎が2事例発生した。遺伝子群は2事例すべてGであった。
(沼田和也)

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H22.2	高齢者福祉施設	13	13	12	ノロウイルス	G
2	H22.3	高齢者福祉施設	2	2	2	ノロウイルス	G
			15	15	14		

藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成 22 年 1 月から 12 月の間に、ノロウイルスによる集団胃腸炎が 5 例発生した。いずれも施設内での感染が疑われた事例で、検出数は 18 件で遺伝子群はすべて G であった。

(廣井友美、佐藤健、平井有紀、沖津忠行)

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H22.1	高齢者施設	75	4	4	ノロウイルス	G
2	H22.2	高齢者施設	30	4	2	ノロウイルス	G
3	H22.3	高齢者施設	68	6	6	ノロウイルス	G
4	H22.4	高齢者施設	11	3	3	ノロウイルス	G
5	H22.5	小学校	47	3	3	ノロウイルス	G
		計	231	20	18	ノロウイルス	G

(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の検出状況

神奈川県衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 66 例についてウイルス分離検査を実施したところ、51 株のウイルスが検出された。検出されたウイルスはエンテロウイルス(EV)71 型が 29 株で、5 月から 10 月まで検出された。コクサッキーウイルス A(CA)16 型は 1 月と 9 月に計 4 株検出された。その他、CA6 型 14 株、CA4 型 1 株、CA10 型 1 株及びライノウイルス 2 株が検出された。このうち同一患者検体から EV71 型とライノウイルスが重複して検出された例が 1 例あった。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 101 例についてウイルス分離検査を実施したところ、79 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス A(CA)4 型が 43 株で、流行の主流となった。その他、CA2 型 10 株、CA10 型 9 株、CA6 型 8 株、CA5 型 2 株、CA9 型 1 株、コクサッキーウイルス B(CB)3 型 1 株、CB5 型 1 株、エンテロウイルス 71 型 1 株及びライノウイルス 3 株が検出された。このうち同一患者検体から重複してウイルスが検出された例が 2 例あり、CA9 型とライノウイルス検出が 1 例、CA10 型とライノウイルス検出が 1 例であった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 26 例についてウイルス分離検査を実施したところ、22 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、アデノウイルス(Ad)3 型 14 株で、その他、Ad2 型 4 株、Ad1 型 2 株及び Ad5 型 2 株が検出された。

咽頭結膜熱の起因ウイルスとして最も多く報告される Ad3 型は、平成 21 年に 1 株も検出されなかったが、22 年は流行の主流として多数検出された。

(近藤真規子、佐野貴子、渡邊寿美、齋藤隆行、古屋由美子)

川崎市の検出状況

川崎市衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 12 例についてウイルス分離検査を実施したところ、9 例からウイルスが検出された。

検出されたウイルスはコクサッキー A2 型 1 株、コクサッキー A6 型 1 株、コクサッキー A16 型 2 株、エンテロウイルス 68 型 1 株、エンテロウイルス 71 型 4 株であった。

(石丸陽子、清水英明)

(5) ウエストナイル熱

横浜市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

近年、米国における WNV の流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡カラスと蚊を用いた WNV のサーベイランス事業を平成 15 年 7 月 15 日から実施している。

蚊における調査は、昨年度と同様にドライアイス併用のライトトラップにより採集された蚊を用いて行った。ライトトラップの設置場所は、環境創造局管理の公園計 6 箇所、港湾局管理の敷地内 1 箇所及び住宅等 4 箇所の総計 11 箇所である。採集方法としては、夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝にライトトラップと採集された蚊を回収する方法で行った（一部スウィーピング法で行った）。これら一連のライトトラップの設置、検体（死亡カラスと蚊）の回収、当所への検体の搬送に関しては、横浜市各区生活衛生課と協力して実施した。蚊の採集期間は、6 月 8 日から 11 月 8 日までの全 23 週実施し、検査した蚊の総個体数は、2,161 匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群 354 匹、ヒトスジシマカ 1,503 匹、コガタアカイエカ 10 匹、ヤマトヤブカ 91 匹、その他 203 匹であった。WNV を含めたフラビウイルス及びチクングニアウイルスの検査結果は、全て不検出であった。

（山本芳郎、宇宿秀三、池淵守）

表 横浜市の WNV 検査結果

		年間設置回数	1-2	3-4	5-6	7-8	9-10	総計	内 訳					
		2010年 トラップ設置月	6月 集計	7月 集計	8月 集計	9月 集計	10月 集計		アカイエカ 群	ヒトスジ シマカ	コガタ アカイエカ	ヤマト ヤブカ	その他	
区名	トラップ設置公園	住 所												
1	保土ヶ谷区	陣ヶ溪谷公園 (L)	川島町797	35	88	59	80	41	303	6	152	1	20	124
2	保土ヶ谷区	陣ヶ溪谷公園 (S)	川島町797	60	19	27	95	24	225	2	163	0	41	19
3	中区	シンボルタワー	本牧埠頭1-16	6	5	8	15	37	71	64	6	1	0	0
4	港南区	久良岐公園	上大岡東3-12-1	10	4	11	0	1	26	4	15	1	2	4
5	金沢区	長浜公園	長浜106-6	7	14	47	18	13	99	4	90	1	0	4
6	瀬谷区	瀬谷狹窪公園	阿久和西3-52-6	15	39	105	15	18	192	0	145	0	13	34
7	中区	横浜公園	横浜公園	4	4	4	5	4	21	12	8	1	0	0
8	鶴見区	馬場花木園	馬場2-20-1	55	144	333	275	49	856	13	816	2	14	11
9	磯子区	衛生研究所構内	滝頭1-2-17	10	17	17	25	11	80	37	37	1	1	4
10	中区	中区住宅	常盤町	23	31	26	21	10	111	93	17	1	0	0
11	南区	南区住宅	中里	11	33	19	15	0	78	44	31	1	0	3
12	金沢区	金沢区住宅		4	57	15	20	3	99	75	23	0	0	0
総 計				240	455	671	584	211	2,161	354	1,503	10	91	203
蚊の種類			回数	1-2	3-4	5-6	7-8	9-10	総計					
アカイエカ群				64	134	54	54	48	354					
ヒトスジシマカ				89	256	559	467	132	1,503					
コガタアカイエカ				2	0	4	0	4	10					
ヤマトヤブカ				45	30	3	9	4	91					
その他				40	35	51	54	23	203					
総 計				240	455	671	584	211	2,161					
フラビウイルス遺伝子の検出結果				(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						
チクングニアウイルス遺伝子の検出結果				(-)	(-)	(-)	(-)	(-)						

(備考) 蚊の種類のうちその他には、キンバラナガハシカ等が含まれる

L:ライトトラップ, S:スウィーピング

川崎市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

川崎市衛生研究所

市内 8 箇所 9 地点の保健所等でライトトラップを設置し、平成 22 年 4 月から 11 月まで蚊を毎週 1 回（全 35 週 307 ポイント）捕集した。種別した雌蚊 109 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカ 42 プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。

市内 4 箇所の公園でドライアイストラップを設置し、平成 22 年 6 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回（全 20 週 80 ポイント）捕集した。種別した雌蚊 78 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカ 21 プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。

検査は PCR 法を用いて行った。187 の雌蚊プールでウエストナイルウイルス遺伝子、デングウイルス遺伝子及びチクングニヤウイルス遺伝子はすべて陰性であった。

蚊の種類について、市街地に設置されたライトトラップで捕集されたのは 3 属 6 種で、アカイエカ 143 匹（53.4%）とヒトスジシマカ 114 匹（42.5%）が優占種であった。周辺に草地や樹木が存在している市内の公園に設置されたドライアイストラップでは 5 属 9 種が捕集され、アカイエカ 252 匹（50.3%）とヒトスジシマカ 115 匹（25.7%）の他に、ヤマトヤブカ、オオクロヤブカ、キンバラナガハシカ、コガタアカイエカ、フタクロホシチビカ、ハマダラウスカ、トラフカクイカが捕獲された。

（加納敦子、清水英明）

表 川崎市の WNV サーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

保健所検査分 採取日2010年	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 総計									公園検査分 採取日2010年	6月 7月 8月 9月 10月 総計					
	川崎保健所	2	2	6	8	6		8	4		36	東扇島中公園	2	5	1	3
幸保健所	1		4		1	3	1	2	12	夢見ヶ崎動物公園	6	4		5	2	17
中原保健所	3	3	2	2		1	2	1	14	緑ヶ丘公園	5	3	4	4	3	19
高津保健所	1	2	2	4	4	4	2	1	20	早野聖地公園	6	4	9	6	3	28
宮前保健所		1			2			1	4	合 計	19	16	14	18	11	78
多摩保健所	1		1	2	1		2	2	9	蚊の種類						
麻生保健所	3	2	1	3		4		1	14	アカイエカ群	48	83	66	25	30	252
合 計	11	10	16	19	14	12	15	12	109	ヒトスジシマカ	4	24	57	16	14	115
蚊の種類										ヤマトヤブカ	23	14				37
アカイエカ群	28	10	22	21	16	10	17	19	143	キンバラナガハシカ	6	1	3	2	2	14
ヒトスジシマカ		7	9	20	39	23	7	9	114	オオクロヤブカ	8	3	2	2		15
オオクロヤブカ				1				1	1	ハマダラウスカ	2					2
ヤマトヤブカ		6						1	7	フタクロホシチビカ	1		1	1		3
コガタアカイエカ								1	1	コガタアカイエカ		1		6		7
合 計	28	23	31	42	55	33	24	30	266	トラフカクイカ					1	1
ウエストナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	イエカ属の一種			1			1
デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	合 計	92	126	130	52	47	447
チクングニヤウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	ウエストナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
										デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
										チクングニヤウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

横須賀市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱媒介蚊の調査として平成 22 年 6 月より 9 月まで計 10 回、設置場所は 6 月が当センター敷地内、7 月が馬堀自然教育園敷地内、8 月と 9 月は馬堀自然教育園敷地内、三笠公園敷地内およびヴェルニー公園敷地内にて蚊を捕獲(ドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法)し、分類した後、RT-PCR 法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査を実施した。また、7 月以降はデングウイルス遺伝子検査も実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した 106 匹の蚊(イエカ類 29 匹、ヤブカ類 72 匹、不明 5 匹)からウエストナイルウイルスおよびデングウイルスの遺伝子は検出されなかった。

(竹内恵美)

表 横須賀市のウエストナイルウイルス遺伝子およびデングウイルス遺伝子検査結果(平成 22 年)

(匹)

設置回数	1-2	3-5	6-7	8-10	総計	
設置月	6月	7月	8月	9月		
設置場所	健康安全科学センター	*	*	*	22	
	馬堀自然教育園	*	19	8	18	45
	三笠公園	*	*	33	6	39
	ヴェルニー公園	*	*	0	0	0
総計	22	19	41	24	106	
内訳	イエカ類	22	0	5	2	29
	ヤブカ類	0	19	36	17	72
	不明**	0	0	0	5	5
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	
デングウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	

備考

* : 未設置

** : 採集時の損傷により種の同定ができなかった

(6) その他のウイルス性感染症

神奈川県日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

近年におけるわが国の日本脳炎患者は、西日本を中心に発生が見られている。日本脳炎ウイルスの侵淫度を追跡し流行予測を行うため、豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後 5～8カ月齢の県内産の豚を対象に、平成 22 年 7 月から 9 月までの期間に、8 回、20 頭ずつ、計 160 頭について、血中の JaGAR01 株に対する血球凝集抑制抗体及び 2-メルカプトエタノール感受性抗体をそれぞれ測定した。

その結果、7 月採血の 40 検体中 1 検体から血球凝集抑制抗体が検出されが、2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されなかった。また 8 月採血の 60 検体中 2 検体から血球凝集抑制抗体が検出され、このうち 8 月 3 日採血の 1 検体からは 2-メルカプトエタノール感受性抗体も検出された。この結果より、今年度は県内での日本脳炎ウイルスの活動が確認された。神奈川県では平成 22 年度も例年同様に、患者発生はなかった。

(片山 丘、鈴木理恵子、古屋由美子)

表 プタにおける日本脳炎ウイルス HI 抗体・2-ME 感受性抗体保有状況

採血月日	検査数	HI抗体価							抗体陽性率 (%)	2-メルカプトエタ ノール感受性抗体 保有率(%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
7/14	20	19		1					5.0	0.0
7/27	20	20							0.0	0.0
8/3	20	19			1				5.0	100.0
8/19	20	19	1						5.0	0.0
8/31	20	20							0.0	0.0
9/7	20	20							0.0	0.0
9/16	20	20							0.0	0.0
9/29	20	20							0.0	0.0

神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

昭和 53 年から義務接種として始まったわが国の麻疹ワクチン予防接種は、平成 6 年 10 月の予防接種法改正にともない勧奨性となり、平成 18 年 4 月からはそれまでの 1 回接種から 2 回接種へと移行した。平成 19 年には 10 代から 20 代を中心とする流行が起きたため、平成 20 年 4 月から 5 年間の時限措置として、中学 1 年生と高校 3 年生に相当する年齢者の 2 回目接種を追加するなど、麻疹対策が強化されている。小児の麻疹ウイルスに対する免疫状態を把握することが必要なことから、昭和 54 年以降、麻疹ウイルスに対する抗体の保有状況調査を行っている。

平成 22 年 7 月から 8 月の間に採取された小児の血清 76 例について麻疹ウイルス抗原を吸着してあるゼラチン粒子による凝集反応法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。

年齢別の抗体保有率は 1 歳以下が 82.4%、他の年齢層(2～14 歳)は 92.3～100%を示し、平均抗体

保有率は93.4%であった。

今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握をするとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要と思われる。

(鈴木理恵子、齋藤隆行、古屋由美子)

表 麻疹ウイルス抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成22年 (採血 平成22年 7月~8月)										21年	20年	19年	18年	
	PA抗体価									検査数 (人)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024						
0~1	3		2	3	1	3	1	1	3	17	82.4	72.2	53.3	68.8	66.7
2~3							4	1	2	7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4~5							3	2	1	6	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4
6~7					1		3	3	8	15	100.0	100.0	100.0	81.8	100.0
8~9						1			4	5	100.0	90.9	100.0	100.0	100.0
10~14	2			2	3	1	3	9	6	26	92.3	96.0	93.5	86.7	86.7
合計(人)	5	0	2	5	5	5	14	16	24	76	93.4	91.3	90.3	87.4	88.4
(%)	6.6	0.0	2.6	6.6	6.6	6.6	18.4	21.1	31.6	100					

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成22年においては、一般健康人男女173名を対象として、麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

結果は年齢別抗体保有状況を陰性率で見ると、1歳以下25.0%、1~4歳15.0%、5~9歳5.0%、10~14歳20.0%、15歳以上5.0~44.4%となり平均陰性率は17.3%であった。

次に抗体価をみると16~128倍が71.7%を占め、平均抗体価は $2^{6.06}$ であった。

以上の成績より、抗体保有率の低い年齢層が今後の感染と流行の主体になると考えられる。これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への麻疹ワクチン接種は継続して奨励する必要があると思われる。

(鈴木理恵子、齋藤隆行、古屋由美子)

表 麻疹ウイルス抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成22年 (採血 平成22年 7月~8月)										21年	20年	19年	18年	
	HI抗体価									検査数 (人)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024						
<1	1	2	1							4	25.0	100.0	50.0	50.0	50.0
1~4	3	2	1	2	6	3	2		1	20	15.0	10.0	10.0	11.1	5.0
5~9	1	1	3	4	6	5				20	5.0	0.0	5.0	20.0	20.0
10~14	4	1	5	7	3					20	20.0	15.0	15.0	30.0	25.0
15~19	3	1	4	8	2	2				20	15.0	15.0	30.0	35.0	30.0
20~24	4	1	1	1	1	1				9	44.4	27.3	25.0	6.7	36.4
25~29	4	1	2	4	2	3				16	25.0	21.1	22.2	6.7	21.1
30~34	3		1	2	2		1			9	33.3	30.0	13.3	33.3	5.9
35~39	2		3	2	3	3	2			15	13.3	10.0	13.3	5.6	53.6
40~49	4	1		4	5	6				20	20.0	15.0	20.0	20.0	5.0
50	1	3	1	7	7	1				20	5.0	10.0	10.0	5.0	10.0
合計(人)	30	13	22	41	37	24	5	0	1	173	17.3	15.3	17.6	18.8	16.7
(%)	17.3	7.5	12.7	23.7	21.4	13.9	2.9	0.0	0.6	100					

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のファージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 22 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、黒木俊郎)

横浜市のチフス菌等のファージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 22 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 3 件、パラチフス A 菌は 2 件、計 5 件であった。本年は、母国が日本以外であるが日本に長く在住している無症状病原体保有者 2 名の胆汁(番号 1 及び 5)からチフス菌、パラチフス A 菌がそれぞれ検出された。2 名とも胆嚢中に胆石を保有していた。チフスの 1 名は子が発症し、静脈血及び便から菌が分離された。また、外国籍の患者 1 名は船員で、日本に寄港した際に発症し静脈血から菌が分離された。他にはインドへ渡航歴がある患者 1 名の静脈血及び便から菌が分離された。患者情報とファージ型別内訳は表に示したとおりである。薬剤感受性はチフス 1 株、パラチフス A 菌 1 株がナリジクス酸耐性であり、いずれも旅行先または国籍がインドである患者由来であった。

(松本裕子、山田三紀子、武藤哲典)

表 横浜市のチフス菌等のファージ型別結果

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	ファージ型	備考
1	H22.6.16	男	50	パラチフス A	1	母国がフィリピン、海外渡航歴なし
2	H22.8.11	男	24	チフス	E1	インド在住、米国、韓国へ渡航歴あり
3	H22.9.2	女	29	パラチフス A	2	インドへ渡航歴あり
4	H22.9.9	男	6	チフス	B1	番号 5 の息子、海外渡航歴なし
5	H22.9.14	女	32	チフス	B1	母国がフィリピン、海外渡航歴なし

川崎市のチフス菌等のファージ型別結果

川崎市衛生研究所

平成 22 年 1～12 月に川崎市内ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

(駒根綾子)

(2) 細菌性腸管系感染症

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌の分離状況

神奈川県衛生研究所

平成 22 年における腸管出血性大腸菌 (Enterohemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC) の分離状況は以下の表に示した。EHEC の受領株数は、O157 が 27 株、O26 が 1 株、O121 が 1 株の計 29 株であった。表に所轄保健福祉事務所の分離数と毒素型を示した。今年度は、すべての菌株について PFGE 解析を実施したが、すべて散発事例で散発的集団発生事例は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、黒木俊郎)

表 所轄保健福祉事務所からの EHEC 受領状況

	O 157		O 26	O 121	計
	VT1&2	VT2	VT1	VT2	
厚 木	3	2		1	6
茅ヶ崎	2	3			5
大 和	3	1	1		5
小田原	4				4
秦 野	1				1
足柄上	2				2
鎌 倉		1			1
平 塚	2	3			5
計	17	10	1	1	29

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌およびコレラ菌の検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 22 年に神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市および藤沢市を除く)に送付された赤痢菌株は 6 株(表)で、すべて *Shigella sonnei* であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。

表 赤痢菌の血清型および渡航歴

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	菌種	渡航歴
厚 木	男	3	<i>S. sonnei</i>	なし
厚 木	女	64	<i>S. sonnei</i>	なし
厚 木	女	28	<i>S. sonnei</i>	インドネシア
厚 木	女	4	<i>S. sonnei</i>	なし
平 塚	男	35	<i>S. sonnei</i>	ベトナム
秦 野	男	55	<i>S. sonnei</i>	インド

コレラ菌は検出されなかった。

(古川一郎、石原ともえ、黒木俊郎)

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 22 年 1 月から 12 月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は 222 件中 48 件（21.6%）であり、その内訳は腸管病原性大腸菌（EPEC）39 件、カンピロバクター・ジェジュニ 7 件、カンピロバクター・コリ 1 件、エロモナス 7 件であった。同一患者から複数分離された事例は 6 件認められた。

EPEC の血清型は 06（8 株）、08（3 株）、015（1 株）、025（3 株）、074（9 株）、0111（1 株）、0112（1 株）、0119（3 株）、0124（2 株）、0136（1 株）、0145（1 株）、0146（3 株）、0153（1 株）、0164（2 株）であった。このうち、0145 から志賀毒素遺伝子（*Stx2*）、06 の 1 株から耐熱性エンテロトキシン（ST）遺伝子および易熱性エンテロトキシン（LT）遺伝子がそれぞれ検出された。

（古川一郎、石原ともえ、黒木俊郎）

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	30	26	19	10	13	12	14	21	18	9	20	30	222
陽性数	10	3	1	4	2	2	2	4	4	2	5	5	44
%	33.3	11.5	5.3	0.4	15.4	16.7	14.3	19.0	22.2	22.2	25.0	16.6	19.8
検出病原体内訳													
腸管病原性大腸菌	10	3	1	3	2	3	2	2	3	2	3	3	37
（腸管出血性大腸菌）												(1)	(1)
（毒素原性大腸菌）									(1)				(1)
カンピロバクター・ジェジュニ								2	1		1	2	6
カンピロバクター・コリ							1						1
エロモナス・ヒドロフィラ								1		1			2
エロモナス・キャビエ				2					1		1		4

川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況（平成 22 年）

川崎市衛生研究所

平成 22 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関を訪れた下痢症患者を対象にして腸管系病原菌検査を実施した。

材料は、市内医療機関に Cary-Blair の輸送培地を配布し、医療機関を訪れた下痢症患者から大便を採取し、保健所を経由して搬入された検体について検査を行った。検査方法は、既報と同様に行った。病原菌検出状況は表 1 に示すとおり、検体数 169 件中腸管病原菌陽性数 41 件（24.3%）であり、サルモネラ 1 件（0.6%）、腸管病原性大腸菌（EPEC）3 件（1.8%）、毒素原性大腸菌（ETEC）1 件（0.6%）、カンピロバクター・ジェジュニ 35 件（20.7%）、カンピロバクター・コリ 2 件（1.9%）の検出であった。

検出病原菌のうちカンピロバクター・ジェジュニが 83.3%を占め、下痢症患者の主要病原菌であった。

同一患者から 2 菌種の病原菌が検出された事例は 1 事例みられた。

検出病原菌の血清型は表 2 に示すとおりである。サルモネラは 1 株分離され、血清型は S.Stanley であった。EPEC は 3 血清型に型別され、0128 が 1 株、086a が 1 株、026 が 1 株ずつであった。ETEC は 1 株分離され、血清型は 0169 であった。

以上のように本市内の下痢症患者から腸管系病原菌が 24.3%検出され、カンピロバクター・ジェジュニが 20.7%と最も多く検出された。また、その他の食中毒菌も低率ながら分離されていることから今後も細菌性下痢症の原因菌追究のため検査を強化していく必要があると思われる。

（小嶋由香 湯澤栄子 佐野達哉 駒根綾子 荻本直輝）

表 1 川崎市の散発下痢症患者からの病原菌検出状況（平成 22 年）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	17	16	14	9	16	16	17	14	7	9	24	10	169
陽性数	1	2	4	4	3	3	2	4	1	4	9	4	41
(%)	(5.9)	(12.5)	(28.6)	(44.4)	(18.8)	(18.8)	(11.8)	(28.6)	(14.3)	(44.4)	(37.5)	(40.0)	(24.3)
サルモネラ属菌								1					1(0.6)
腸管病原性大腸菌	1						1					1*	3(1.8)
腸管出血性大腸菌													
毒素原性大腸菌								1					1(0.6)
腸炎ピブリオ													
カンピロバクター・ジェジュニ		2	4	4	3	3	1	2	1	3	8	4*	35(20.7)
カンピロバクター・コリ										1	1		2(1.2)

*：同一人物より 2 菌種が分離された

表 2 川崎市の検出病原菌の血清型(平成 22 年)

病原菌	株数	菌種および血清型
サルモネラ属菌	1	S. Stanley
腸管病原性大腸菌	3	0128(1)、086a(1)、026(1)
毒素原生大腸菌	1	0169 ST(1)

相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生試験所

感染症法に基づく感染症病原体検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成 22 年 1 月から 12 月までの検査対象事例は三類感染症 14 事例で、すべての事例で端緒となった発症者に渡航歴はなく国内での感染が疑われた。そのうち腸管出血性大腸菌 0157 の 1 事例は飲食店が感染原因と確定された。

検査対象者はのべ 31 名で、病原菌検索の内訳は赤痢菌 4 名、腸管出血性大腸菌 0103 5 名、同 0157 22 名であった。

月別の検査状況は下表のとおりであった。

赤痢菌の検査については直接平板塗抹法を用い、腸管出血性大腸菌の検査については増菌培養と直接平板塗抹とを併用し分離、同定を行った。また、腸管出血性大腸菌のベロトキシン検査には PCR 法を実施した。

検査の結果、腸管出血性大腸菌 0103 の 1 事例で家族 2 名より 0103 : H2 が、同 0157 の 2 事例で家族計 4 名より 0157 : H7 が陽性となり、国立感染症研究所に解析を依頼したところ、PFGE のパターンが各事例内ですべて一致しており、同一感染源もしくは家族内での二次感染が示唆された。

今回検査対象となった 14 事例は、飲食店が感染原因として確定された 1 事例を除き、残りの事例はすべて感染経路が推測または不明であった。また、無症状でありながら家族内での感染が示唆された事例もあり、発症者からの感染拡大防止の一環として、今後も迅速な対応を図りたい。

（植田壽美子、田村有美、笹野亜也子、望月響子、金沢聡子、鷺谷則子）

表 相模原市の三類感染症病原菌検索状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体件数	5	5		3			4	12	2			
事例数	2	2		1			2	5	2			
赤痢菌	4											
腸管出血性大腸菌 0103								4(1)	1			
腸管出血性大腸菌 0157	1	5		3			4(2)	8(3)	1			

()は陽性数

横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

平成 22 年 1 月から 12 月に実施した市内各医療機関からの下痢・腹痛を主症状とする患者糞便及び菌株材料の腸管系病原菌検査の結果について報告する。材料は菌株材料 37 件、糞便材料 38 件の合計 75 件で、検査方法は定法により行った。

病原菌検出状況は表 1 に示す。検査した 75 件のうち、陽性数は 8 件(10.7%)であった。陽性の内訳は、サルモネラが 1 株、コレラ菌 non-01&0139 CT(-)が 1 株、腸管出血性大腸菌が 5 株、腸管病原性大腸菌

が1株であった。

検出病原菌の血清型は表2に示す。サルモネラは *S. Enteritidis* が1株、腸管出血性大腸菌は 0157:H7 が5株、腸管病原性大腸菌は 0111:H21 が1株であった。

また、検出されたサルモネラ1株は健康者由来であった。

(片倉孝子、古川美奈子、高橋伸二、長澤由美子、山口純子、河崎正太郎、天野肇、木村実千明)

表1 横須賀市の散発下痢症からの病原菌検出状況(平成22年1月~22年12月)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	7(0)	12(2)	7(0)	10(0)	4(1)	3(1)	5(0)	13(0)	5(0)	7(0)	1(0)	1(0)	75 [†] (4)
陽性数	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(1)	0(0)	0(0)	2(0)	3(0)	1(0)	0(0)	0(0)	8(1)
%	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0	0.0	0.0	15.4	60.0	14.3	0.0	0.0	10.7
病原菌													
サルモネラ													1(0)
コレラ菌 non-01 & 0139 CT(-)						1(1)							
腸管出血性大腸菌								2(0)	3(0)				
腸管病原性大腸菌					1(0)								

備考: † 印の内訳 (菌株 37 件, 糞便 38 件)
() は海外渡航者由来を示す。

表2 横須賀市の検出病原菌の血清型(平成22年1月~22年12月)

病原菌	株数	菌種及び血清型
サルモネラ	1	<i>S. Enteritidis</i> (1)
コレラ菌 non-01 & 0139 CT(-)	1	non-01 & 0139 (1)
腸管出血性大腸菌	5	0157:H7 (5)
腸管病原性大腸菌	1	0111:H21 (1)

備考: () は菌株数を示す。

藤沢市の腸管病原菌(三類感染症)検出状況

藤沢市保健所

平成22年1月から12月の間に発生した三類感染症の患者、患者の陰性確認、患者の家族等接触者及び海外旅行同行者の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は8事例36検体(いずれもヒト糞便)で、病原菌検出状況は表に示したとおりである。内訳は、赤痢が1事例3検体(海外同行者便1、接触者便2)、腸管出血性大腸菌感染症026が1事例9検体(陰性確認便6、接触者便3)、腸管出血性大腸菌感染症0145が2事例10検体(陰性確認便4、接触者便6)、腸管出血性大腸菌感染症0157が4事例14検体(陰性確認便1、接触者便13)であった。
(廣井友美、佐藤健、平井有紀、沖津忠行)

表 藤沢市の腸管病原菌(第三類感染症)検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性数
1	赤痢菌	1	3	1
2	腸管出血性大腸菌 026	1	9	5
3	腸管出血性大腸菌 0145	2	10	1
4	腸管出血性大腸菌 0157	4	14	0
計		8	36	7

(3) 河川等の環境

川崎市の河川等の環境調査 腸管系病原菌検索

川崎市衛生研究所

平成 22 年に実施した河川水等からの腸管系病原菌の検査結果について報告する。

2 月、4 月、8 月、平成 23 年 1 月の 4 回、東扇島東公園、浮島町公園、新六郷橋横（多摩川）、末吉橋横（鶴見川）の 4 定点より採水し計 16 検体について病原菌検査を実施した。

病原菌検出状況は表に示したとおりであり、腸炎ビブリオが 8 件（50.0%）であり 2 月から 8 月まで検出された。その他の病原菌ではビブリオ・バルニフィーカスが 2 件、コレラ菌 01 以外が 3 件、サルモネラが 1 件であった。コレラ菌 01、ビブリオ・ミミカス、ビブリオ・フルビアリス、ビブリオ・ファーニシー、腸管出血性大腸菌 0157 は検出されなかった。

（佐野達哉、荻本直輝）

表 河川水等からの病原菌検出状況（平成 22 年 1 月～平成 23 年 1 月）

病原菌	月				計（％）
	2	4	8	1	
コレラ菌 0 1	0	0	0	0	0
コレラ菌 0 1 以外	0	1	1	1	3(18.8)
腸炎ビブリオ	3	2	3	0	8(50.0)
ビブリオ・ミミカス	0	0	0	0	0
ビブリオ・フルビアリス	0	0	0	0	0
ビブリオ・ファーニシー	0	0	0	0	0
ビブリオ・バルニフィーカス	0	0	0	2	2(12.5)
サルモネラ	1	0	0	0	1(6.3)
腸管出血性大腸菌 0 1 5 7	0	0	0	0	0
検体数	4	4	4	4	16

(4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、平成22年は冬～春、初夏に増加がみられ、年齢別では5～6歳児を中心に報告が多かった。

A群溶血レンサ球菌の分離およびT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター(関東甲信静支部)活動の一環として2010年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内5施設の情報をもとめた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所(34株)、横浜市衛生研究所(67株)、川崎市衛生研究所(4株)及び相模原市衛生試験所(1株)の計106株で、昨年の85株に比較し24.7%増加した。図1に分離株数及びT型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。

検出されたT型は、1型、4型、6型、12型、13型、23型、25型、28型、B3264および型別不能の10種類であった。これらのうち、T1型が34株(32.1%)と最も多く、以下T28型が27株(25.5%)、T12型が16株(15.1%)およびTB3264型が9株(8.5%)の順で、これら4血清型で全体の81.2%を占めた。

最近5年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。2009年に比べ、検出数は、T1型、T28型およびTB3264型で増加した。検出率では、例年T4とT12型が高い傾向にあるが、昨年は2006年以来4年振りにT1型の検出率が最も高くなった。また、T28型は、ここ3年検出率が大幅に増加している。

(大屋日登美、高橋智恵子、古屋由美子)

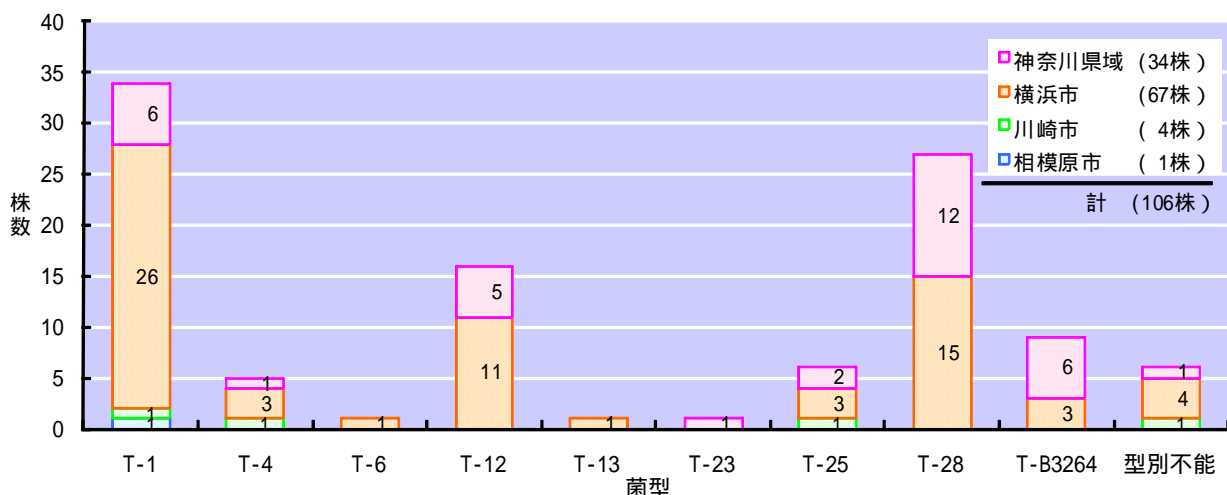


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(2010年1～12月)

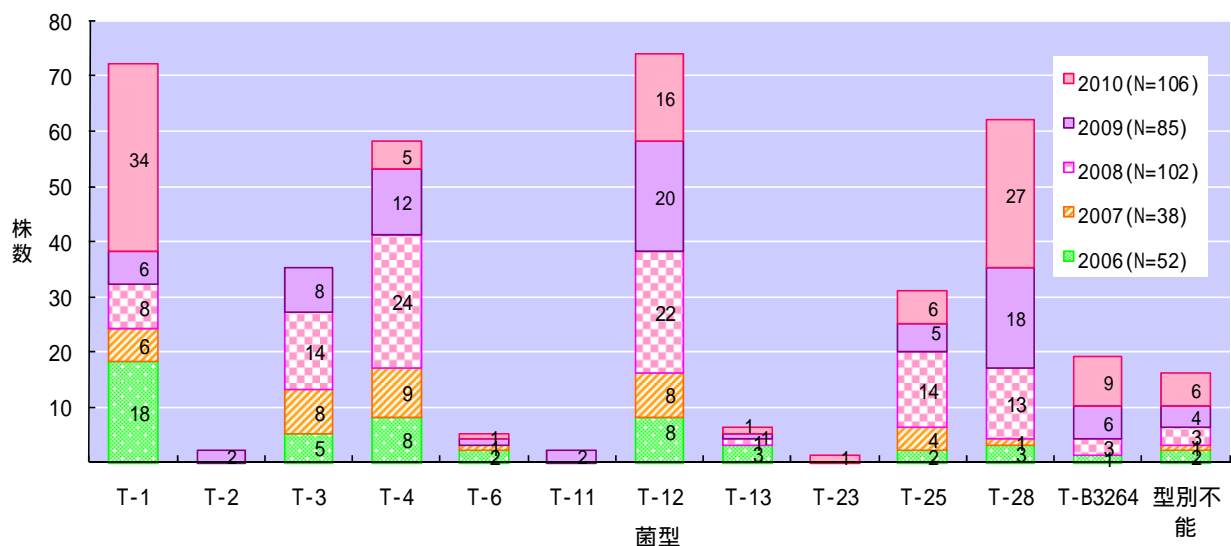


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移(2006～2010年)

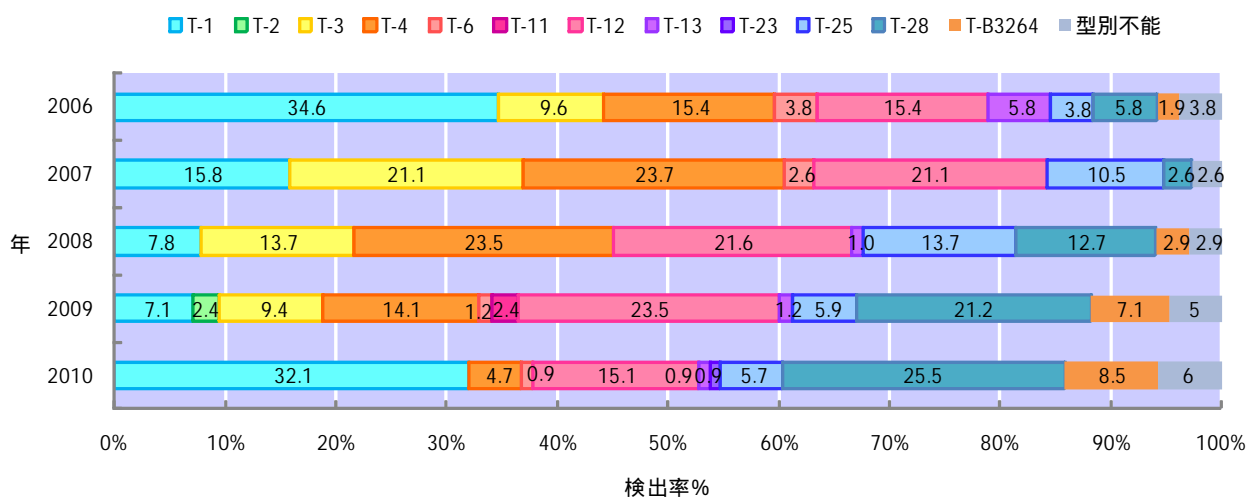


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移(2006～2010年)

川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市衛生研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性連鎖球菌の検索を実施した。平成22年1月から12月までの検出状況は5件中A群溶血連鎖球菌が4件(80.0%)から分離された。そのT型はT-1が1件、T-4が1件、T-25が1件、その他型別不能が1件であった。

(小嶋 由香)

(5) 結核の検査

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のQFT検査成績

神奈川県衛生研究所

QFT検査は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正（19年）により潜在性結核感染症の診断検査法のひとつとなり、感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第4版 平成22年）の中ではQFTが第一優先の検査法と位置づけられ、国内で広く実施されるようになった。神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、検体数が年々増加し、平成22年には158事例483検体の依頼があり、前年（261検体）より大幅に増加し、陽性が43検体（8.9%）、判定保留が36検体（7.5%）、陰性が401検体（83.0%）であった（表）。

平成18年から22年の5年間の事例数を被験者と患者の接触場所別にみると（図）、22年の家庭内事例は前年の倍以上の85事例と最も多く、ついで職場内事例が30事例で年々増加した。しかし、1事例あたりの検体数は家庭内が1.9検体と少なく、学校は対象が集団のため43.0検体と多かった。

医療機関事例では陽性率が他に比べて高い傾向にあり、22年は20.5%を示し、21年も3事例であったが23.6%と高率であった。

（高橋智恵子、大屋日登美、浅井良夫、古屋由美子）

表 結核接触者健診におけるQFT検査結果(平成22年)

検体数	陽性数		判定保留		陰性数	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%
483	43	8.9	36	7.5	401	83.0

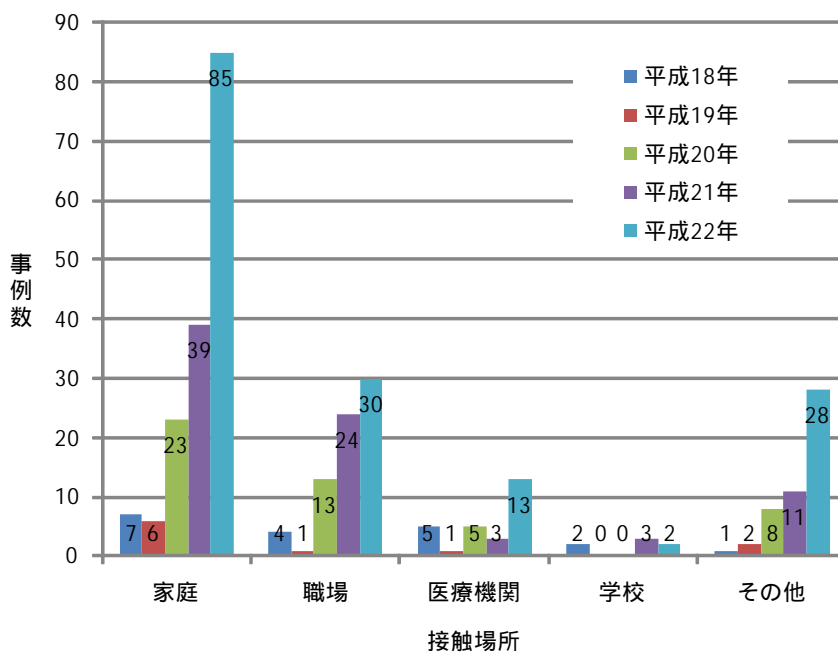


図 被験者と患者との接触場所別の事例数(平成18-22年)

横須賀市では平成 20 年 4 月から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 22 年には 223 件の依頼があった。表に示すように、陽性 22 件(9.9%)、判定保留 8 件(3.6%)、陰性 190 件(85.2%) および判定不可 3 件(1.3%)であった。6 月から 8 月にかけて新聞販売店と老人福祉施設での感染事例があり、昨年より陽性率が高くなった。今後も集団発生時などを含め検査を引き続き実施し、接触者検診を充実させていく必要があると思われる。

(長澤由美子、片倉孝子、天野肇)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果

検査件数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
223	22	9.9	8	3.6	190	85.2	3	1.3

(6) 百日咳の検査

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法および IS481-PCR 法による検査を実施している。平成 17 年までは検出はなく、18 年に 3 検体、19 年に 49 検体でいずれも陽性検体はなかったが、20 年には検体数が 108 検体と急増し、培養法で 4 検体(3.7%)、PCR 法で 6 検体(5.6%)陽性となった。21 年は 97 検体を検査し、培養法、PCR 法ともに 3 検体(3.1%)が陽性であった。

平成 22 年は採取された咽頭ぬぐい液 1 検体、鼻腔ぬぐい液 42 検体、不明 2 検体の計 45 検体について検査をした。しかし、培養法、PCR 法ともに検出されなかった。

(高橋智恵子、大屋日登美、古屋由美子)

3 その他の感染症

(1) つつが虫病

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

昭和 58 年から平成 22 年までのつつが虫病患者発生数を年次別にみると、昭和 58 年から昭和 63 年までは確定患者 2~19 名で推移し、平成元年 81 名、平成 2 年 112 名と増加したが、平成 3 年からは 65 名、平成 4 年 52 名（含む紅斑熱患者 2 名）、平成 5 年 24 名、平成 6 年 39 名、平成 7 年 22 名、平成 8 年 9 名、平成 9 年 9 名と減少した。その後、平成 10 年 14 名、平成 11 年 31 名、平成 12 年 42 名と僅かながらであるが増加し、平成 13 年 7 名、平成 14 年 4 名、平成 15 年は 6 名と再び減少し、平成 16 年 18 名、平成 17 年 19 名、平成 18 年 15 名、平成 19 年 25 名、平成 20 年 13 名（含む紅斑熱患者 1 名）、平成 21 年 18 名、平成 22 年 18 名と推移した（図 1）。

つつが虫病患者発生を季節別にみると、昭和 58 年から平成 21 年の 27 年間すべてで毎年秋期（9~11 月）に患者が多く、平成 22 年についても、10 月 2 名、11 月 13 名、12 月 3 名であり、秋期に大部分の患者が発生した。患者の感染株は Kawasaki 株が約 81.25%を占めていた。

患者の感染場所（聞き取り調査により推定できたもの）を検討すると、県外で感染して本県で届出されたと思われるものを除いて、平成 22 年では山北町、南足柄市、小田原市、箱根町、二宮町の 5 つの地域での発生であり。昨年より広い地域での感染が推定された。平成 22 年のつつが虫病感染時の行動も、昨年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多いことが判明した。

（片山 丘、鈴木理恵子、古屋由美子）

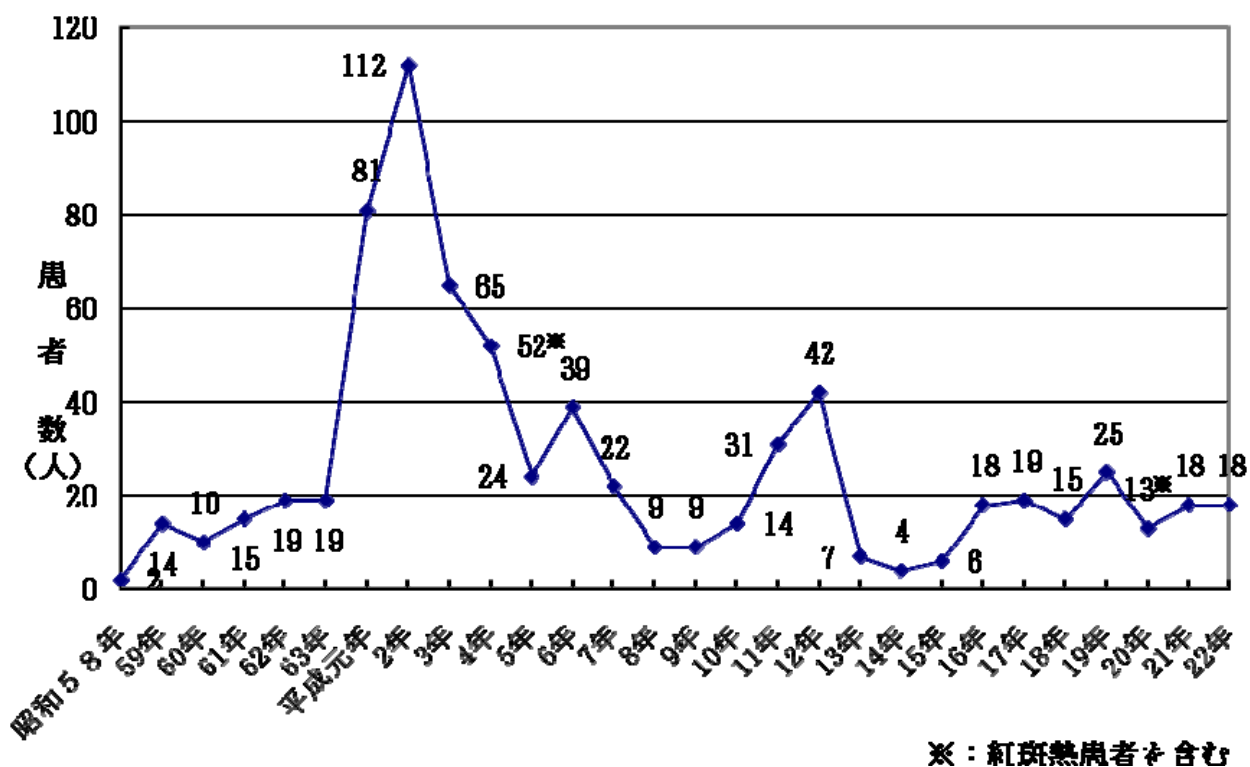


図 県域におけるつつが虫病患者発生状況

< 予防接種実施状況 >

参考資料

予防接種法に基づく予防接種は、感染症予防対策、住民の保健衛生措置として行われているが、実施主体である市町村に対して、担当者会議を開催するほか、適宜情報提供を行った。

* 「地域保健・老人保健事業報告」（厚生労働省大臣官房統計情報部）のデータを修正・加工して作成

		平成20年度			平成21年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)
ジフテリア 百日せき 破傷風	1期初回 1回	82,413	82,434	100.0%	81,439	80,541	98.9%
	1期初回 2回	82,457	81,796	99.2%	81,509	80,563	98.8%
	1期初回 3回	82,640	81,922	99.1%	81,811	80,156	98.0%
	1期追加	83,507	78,094	93.5%	82,200	78,200	95.1%
	2期	83,823	55,876	66.7%	85,491	57,223	66.9%
ポリオ	1回	84,429	78,574	93.1%	86,654	76,819	88.7%
	2回	84,195	75,965	90.2%	86,423	70,775	81.9%
麻しん 風しん	第1期	81,836	75,576	92.4%	82,010	75,452	92.0%
	第2期	82,275	73,229	89.0%	80,519	72,426	89.9%
日本脳炎	1期初回 1回	84,112	21,181	25.2%	85,923	68,813	80.1%
	1期初回 2回	84,152	19,472	23.1%	85,930	61,097	71.1%
	1期追加	85,590	9,260	10.8%	85,536	14,282	16.7%
	2期	87,081	6,270	7.2%	87,712	11,216	12.8%
	3期(*)	—	—	—	—	—	—
インフルエンザ		1,721,763	820,559	47.7%	1,795,192	714,238	39.8%
内訳	65歳以上	1,702,258	819,205	48.1%	1,775,121	712,731	40.2%
	予防接種法施行令で定める60歳以上65歳未満の者	19,505	1,354	6.9%	20,071	1,507	7.5%

(*)：平成17年7月より日本脳炎の定期予防接種3期は廃止になっている。

(健康危機管理課)

< 感染症関係機関 >

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045(671)2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045(510)1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045(411)7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045(320)8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り 35	045(224)8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045(743)8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通 10-1	045(847)8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045(334)6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045(954)6146
横浜市磯子福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045(750)2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045(788)7840
横浜市港北福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045(540)2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045(930)2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045(978)2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045(948)2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 157-3	045(866)8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045(894)6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市泉区和泉町 4636-2	045(800)2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045(367)5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	045(754)9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044(200)2441
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044(201)3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044(556)6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044(744)3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044(861)3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044(856)3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044(935)3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044(965)5163
川崎市衛生研究所	川崎市川崎区大島 5-13-10	044(244)4985
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042(754)1111
相模原市衛生試験所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042(769)8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046(822)4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-14	046(822)4057
藤沢市保健所	藤沢市鵠沼 2131-1	0466(50)3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉部健康危機管理課	横浜市中区日本大通り 1	045(210)4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463(32)0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467(24)3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467(85)1171
大和保健福祉事務所	大和市中央 1-5-26	046(261)2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465(32)8000
三崎保健福祉事務所	三浦市三崎町六合 32	046(882)6811
秦野保健福祉事務所	秦野市曾屋 2-9-9	0463(82)1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046(224)1111
足柄上保健福祉事務所	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465(83)5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467(83)4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045(201)4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6 - 10)	044(277)1856
横浜検疫所横須賀・三崎出張所	横須賀市田浦港無番地	045(201)4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045(701)9502
横浜市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045(331)1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎区新川通 12-1	044(233)5521
横須賀市立市民病院	神奈川県横須賀市長坂 1-3-2	046(856)3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466(25)3111
平塚市民病院	神奈川県平塚市南原 1-19-1	0463(32)0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	042(772)4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046(221)1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866 - 1	0465(83)0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 3 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)